

平成5・6年度調査

桜井地区 石 仏

ひらかた 平方村・おおどまり 大泊村・
かみまくり 上間久里村・しもまくり 下間久里村・おおさと 大里村

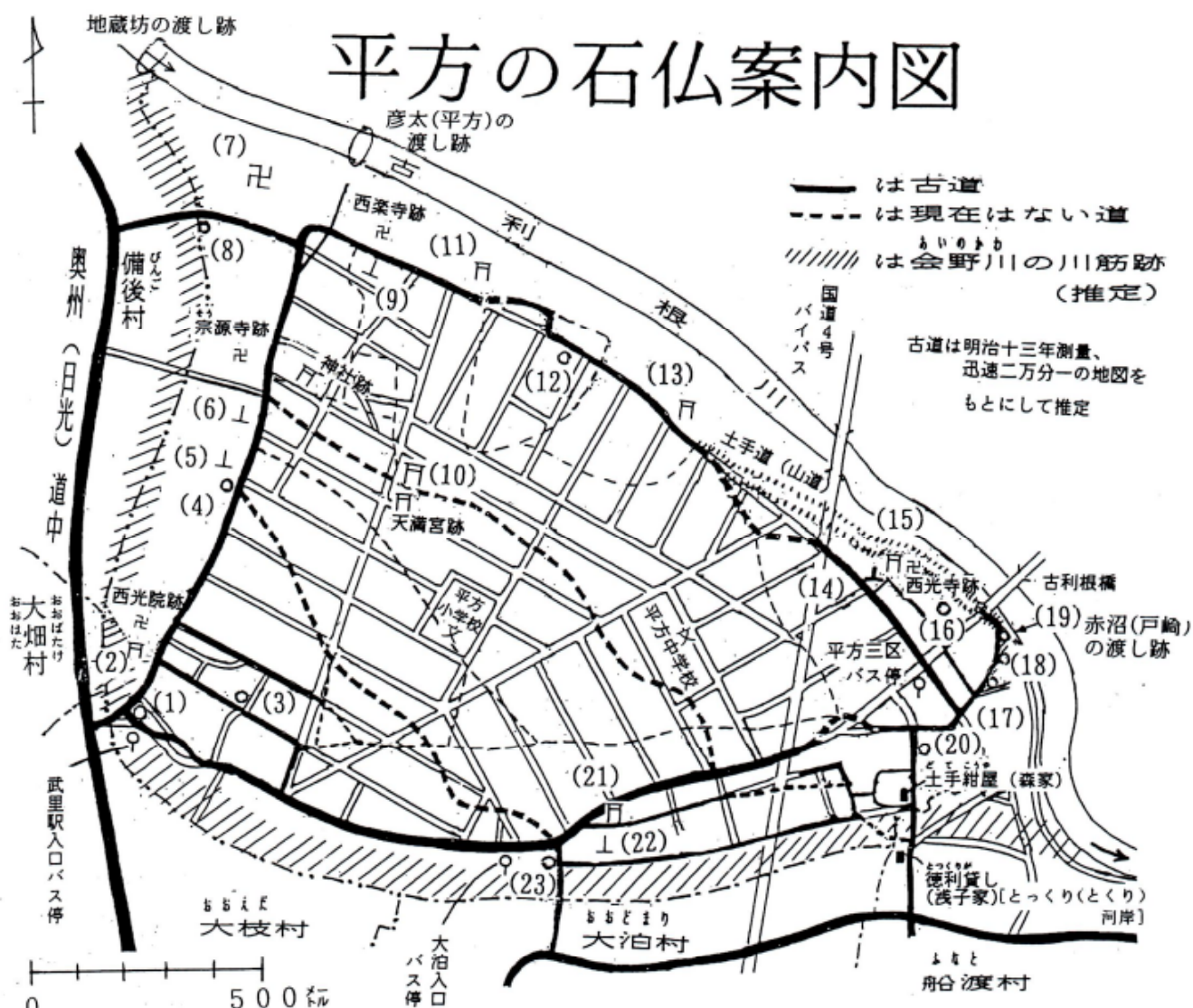
平成27年8月改訂

明治二十二年の町村合併の時に生まれた「桜井村」の「桜井」の村名は、中世の郷名「桜井郷」より採用。中世のこの地域は下総国葛飾郡下河辺庄新方郷に含まれていたが、桜井郷に属していたとの当時の説を採用。



加藤幸一

平方の石仏案内図

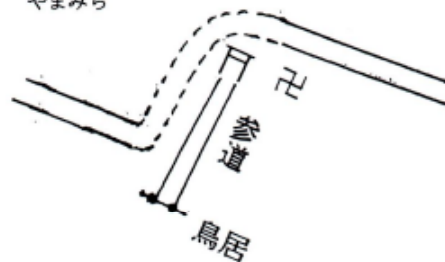


- | | |
|-------------------------------|--------------|
| (1)旧平方村入口関根家(平1762)路傍 | No. 1~3 |
| (2)女帝(にょたい・にょてい・姉)神社 | No. 4~12 |
| (3)白鳥家(平1806)敷地内 | No. 13 |
| (4)九ノ里家(くのり、平13101)路傍 | No. 14 |
| (5)須賀家(平141)個人墓地 | No. 15 |
| (6)中村家(平161)個人墓地 | No. 16 |
| (7)林西寺(りんさいじ) | No. 17~31・68 |
| (8)会野川(あいのかわ)筋跡路傍 | No. 32~37 |
| (9)東組共同墓地そば路傍 | No. 38 |
| (10)浅間神社 | No. 39~41 |
| (11)鹿島神社 | No. 42~46 |
| (12)小川家(平512)近くの道路南側掘割 | No. 47 |
| (13)砂間(すま)の香取神社 | No. 48~49 |
| (14)戸崎(とさき)墓地 | No. 50~53 |
| (15)戸崎稻荷神社 | No. 54 |
| (16)小早川家(平1072) | No. 55~69 |
| (17)川久保(かわくぼ)の旧道の小早川家(平963)路傍 | No. 56~57 |
| (18)川久保の旧道の大塚家(平1100)路傍 | No. 58 |
| (19)赤沼の渡し場跡地 | No. 59 |
| (20)大塚家(平1201)敷地内 | No. 60 |
| (21)山谷(さんや)の香取神社 | No. 61~64 |
| (22)覚山坊(かくさんぼう)墓地(山谷共同墓地) | No. 65~66 |
| (23)富士合成工業(現在、住宅地)そば丁字路 | No. 67 |

戸崎の稻荷神社周辺のかつての

山道(土手道)

やまみち



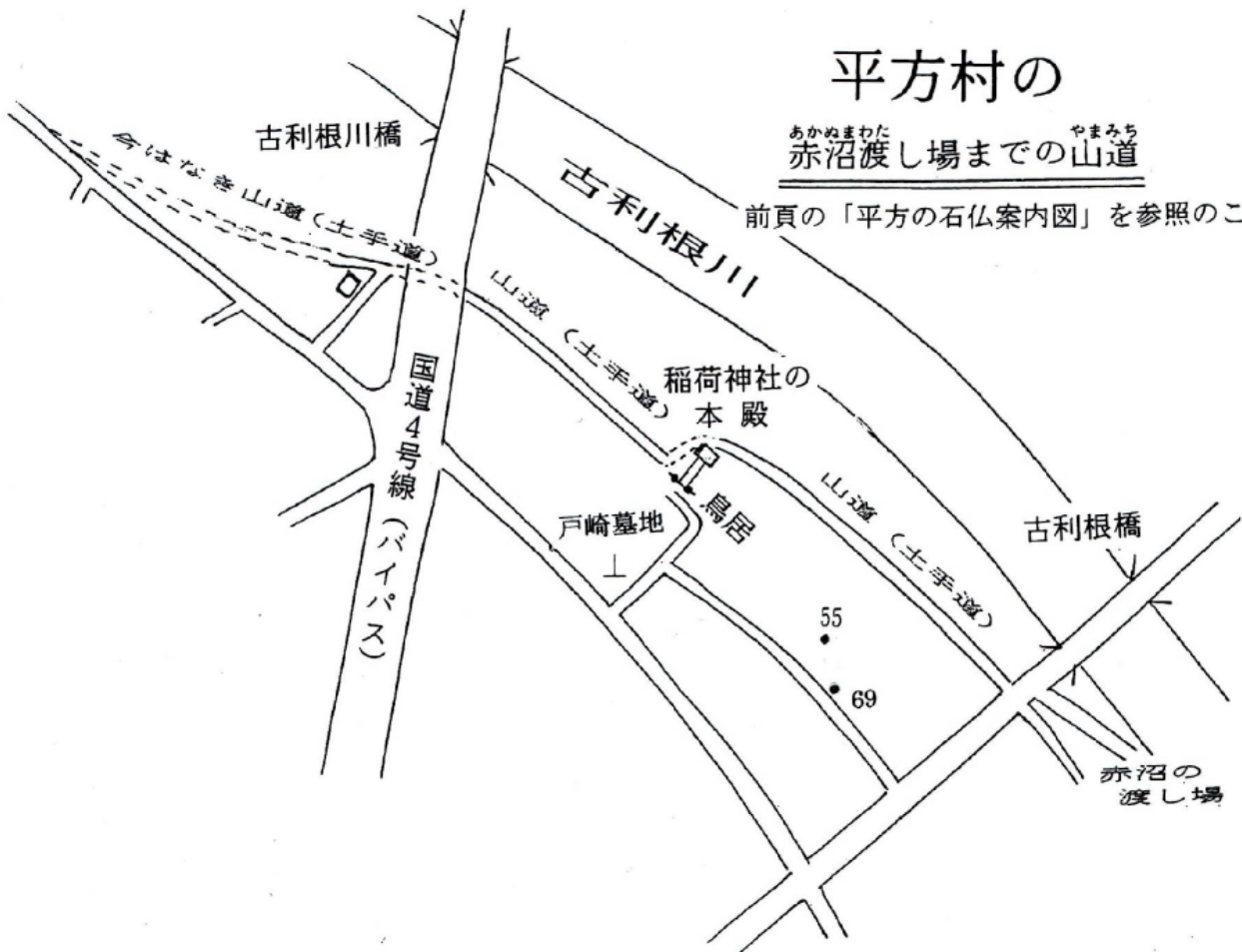
- - - 現在はない道

※上記の「山道」についての
全体の地図は、次のページ
を参照のこと。

平方村の

あかぬまわた やまみち
赤沼渡し場までの山道

前頁の「平方の石仏案内図」を参照のこと。



平方のお地藏様と、近くの大枝や大畑のお地藏様

日光街道から東に平方村に入る入口に、お地藏様 (図版・平方1参照) がある。地藏の縁日の八月二十四日の前日に地藏念仏が行われてきた。このすぐ近くにも同様の地藏信仰が見られる地藏尊がある。大畑村の地藏尊 (丸三家具店の西の路傍) と大枝村の地藏尊 (かつては歓喜院の日光街道沿いにあったが、現在は歓喜院の墓地に移転) である。

大畑村の地藏尊 (北向き地藏) は平方村と同様に縁日の前日に行われるが、大枝村の地藏尊 (六地藏) は縁日当日の八月二十四日に行われる。向かって左図は、大枝村の地藏尊である。

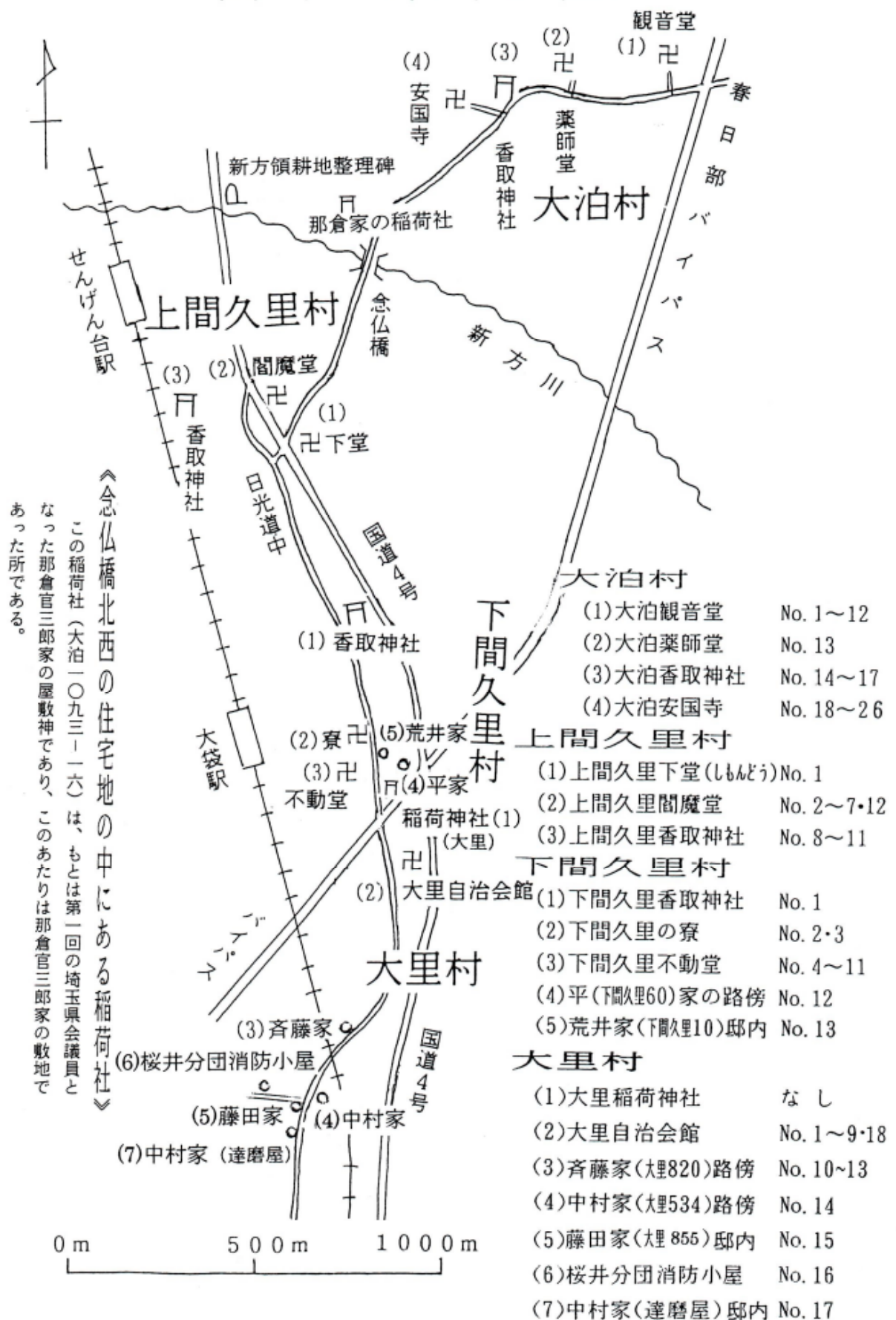
【平方村の隣村、大枝村の地藏尊】

万治式年



乙亥十一月吉日

大泊・上間久里・下間久里・大里の 石 仏 案 内 図



旧上間久里村の古道案内図



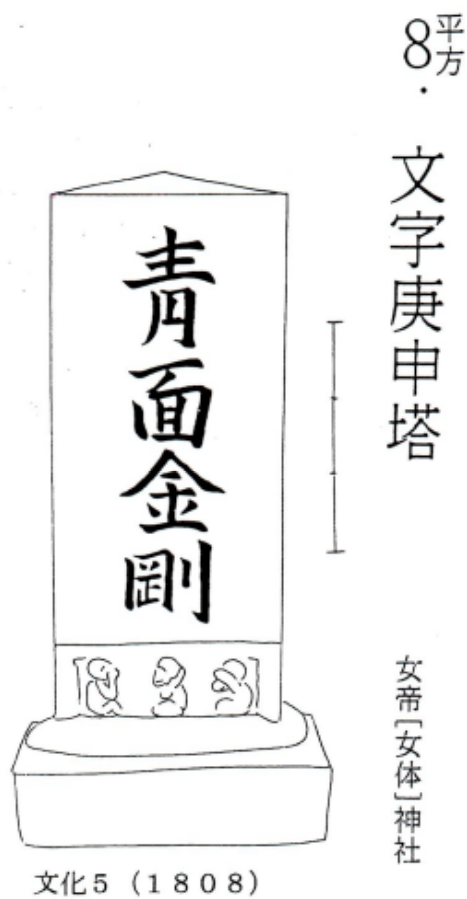
※上図は、平成6年現在の地図である。

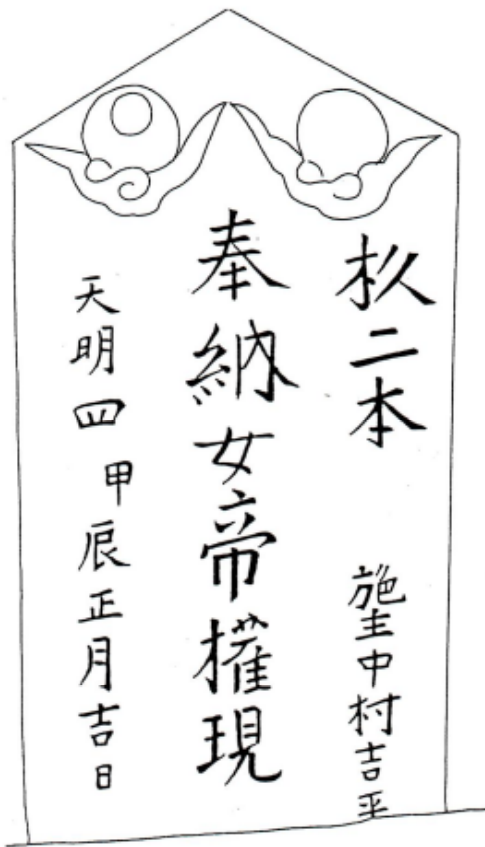
八軒茶屋と鰻と秋田屋 その後、開発により一部変わっている。

江戸時代に越谷宿と粕壁宿の中間に八軒茶屋の立場（街道の休憩所）が置かれた。この近くの元荒川はもとは大竹村の東側から北方に流れ、袋山村の周囲を回るように曲流し、この八軒茶屋（上間久里村）の西側を南方に進み、大林村西側に流れた。その後、宝永四年（1707）頃に大竹村から大林村の間を荻島村を横切って直道（じぎょう）にした。以下は、高崎力氏の研究による。

このかつての元荒川は後に古川と呼ばれ、古川のそばに生けすが置かれ、鰻が飼われて鰻料理の名所となった。

この八軒茶屋にあった秋田屋（上原家）は、秋田藩の佐竹公が大名行列の途中で必ず立ち寄って鰻を味わったところといわれ、この時日光道中は閉鎖され、旅人は東側の古道を通ったと伝えられている。古道はいわば日光道中の臨時のバイパスといえよう。秋田屋の前の道は、大名行列のお供の者たちで埋まっていたのである。



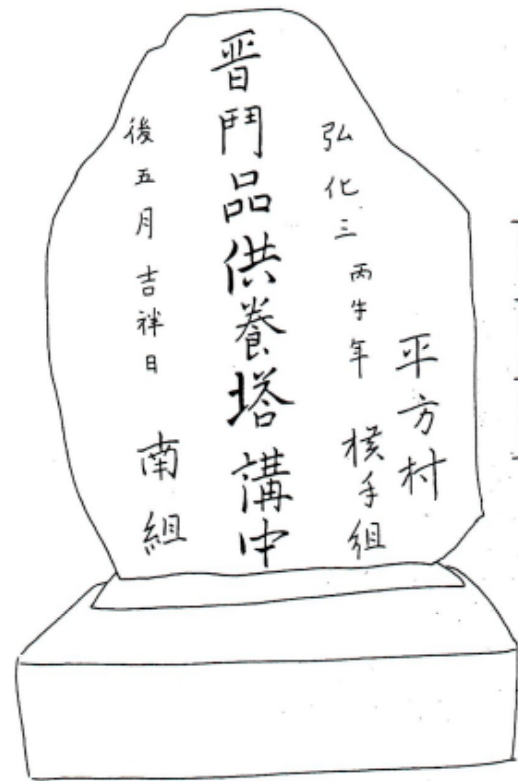


天明4 (1784)

10^{平方}

杉奉納記念塔

女帝〔女体〕神社

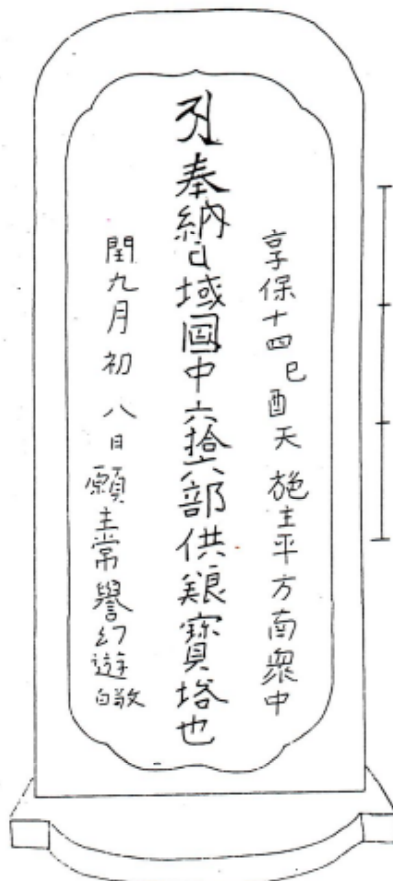


弘化3 (1846)

9^{平方}

普門品供養塔

女帝〔女体〕神社



享保14 (1729)

12^{平方}

六十六部廻国塔

女帝〔女体〕神社



天保10 (1839)

11^{平方}

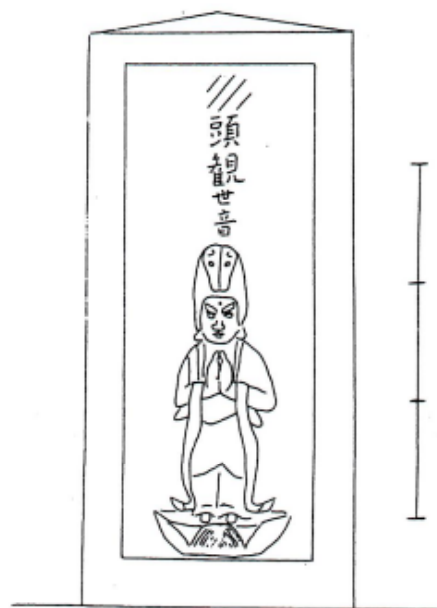
僧侶の墓塔

女帝〔女体〕神社

13^{平方}

馬頭観音菩薩像

白鳥家〔平方一八〇六〕



享和3 (1803)

15^{平方}

宝篋印塔

須賀家〔平方一四二〕個人墓地



寛保元 (1741)

14^{平方}

道標付き篆書体庚申塔

九ノ里家〔平方一三二一〕路傍

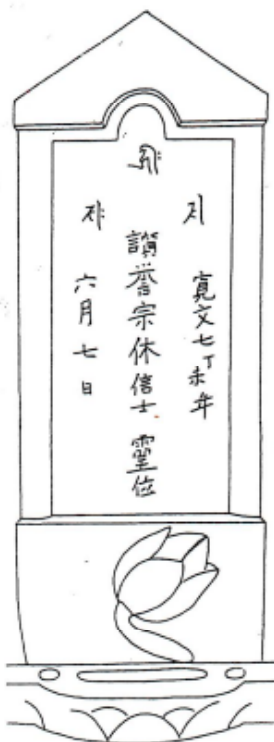


寛政7 (1795)

16^{平方}

板碑型墓塔

中村家〔平方一六二〕個人墓地

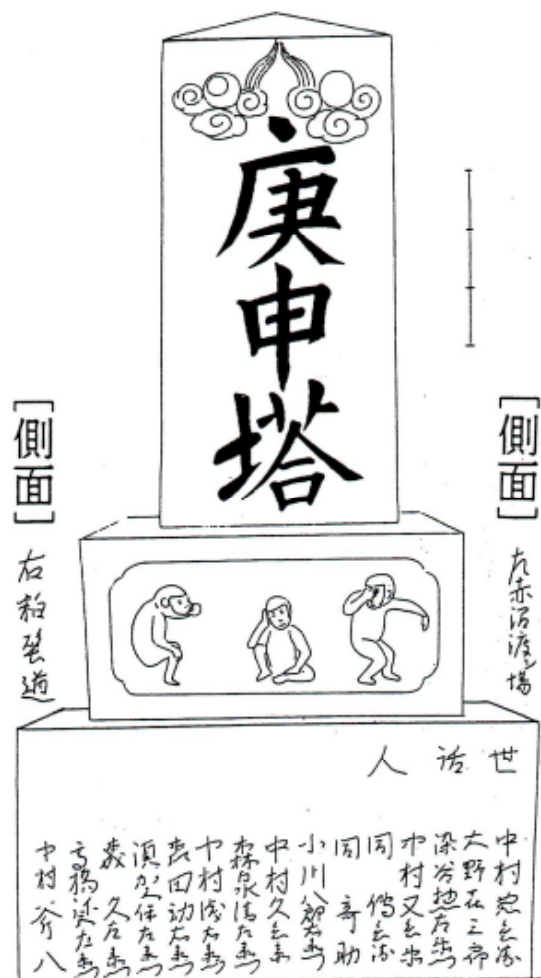


寛文7 (1667)

17^{平方}

道標付き文字庚申塔

林西寺



万延元 (1860)

18^{平方}

地蔵像付き六十六部廻国塔

林西寺



宝暦13 (1763)

19^{平方}

地蔵菩薩像

林西寺

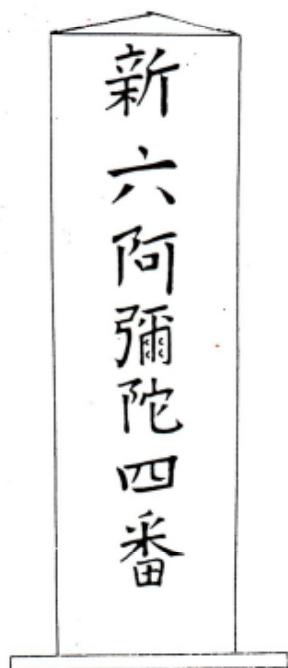


宝永5 (1708)

20^{平方}

『新六阿弥陀四番』標識石塔

林西寺

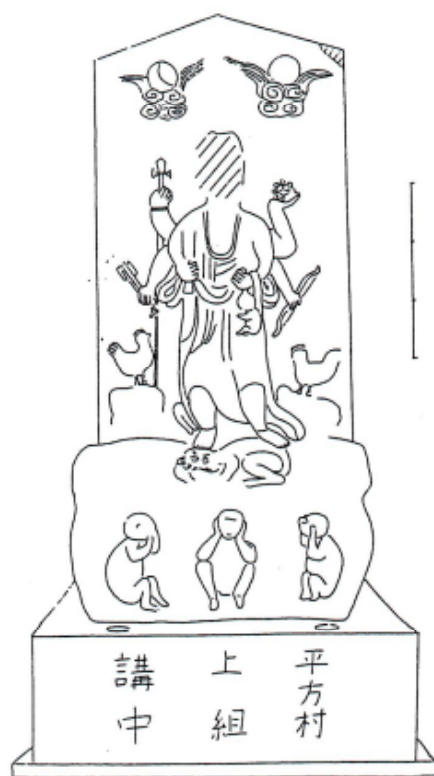


天明8 (1788)

21^平_方

青面金剛像庚申塔

林西寺

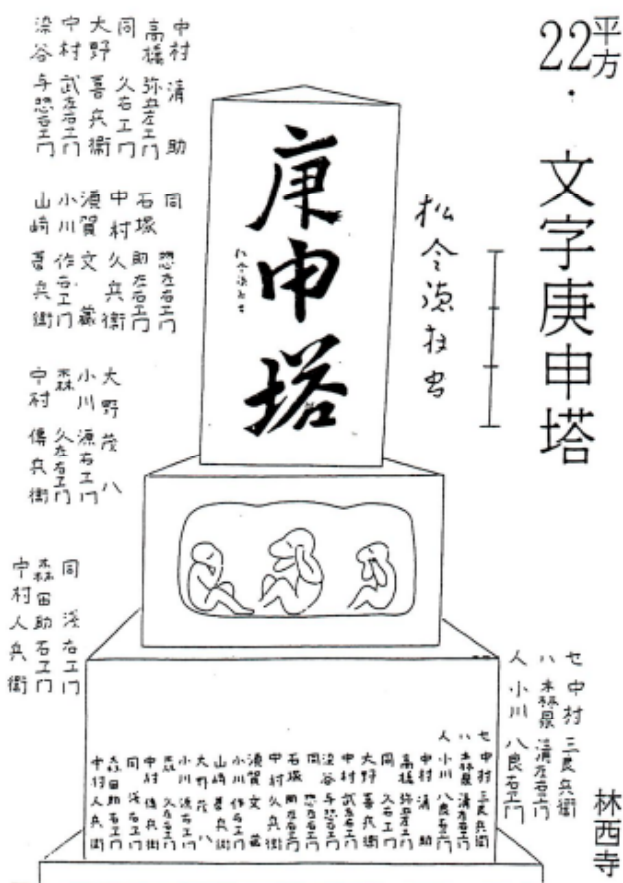


寛政10 (1798)

22^{平方}

文字庚申塔

林西寺



天保4 (1833)

23^{平方}

文字庚申塔

人中深谷想左工門

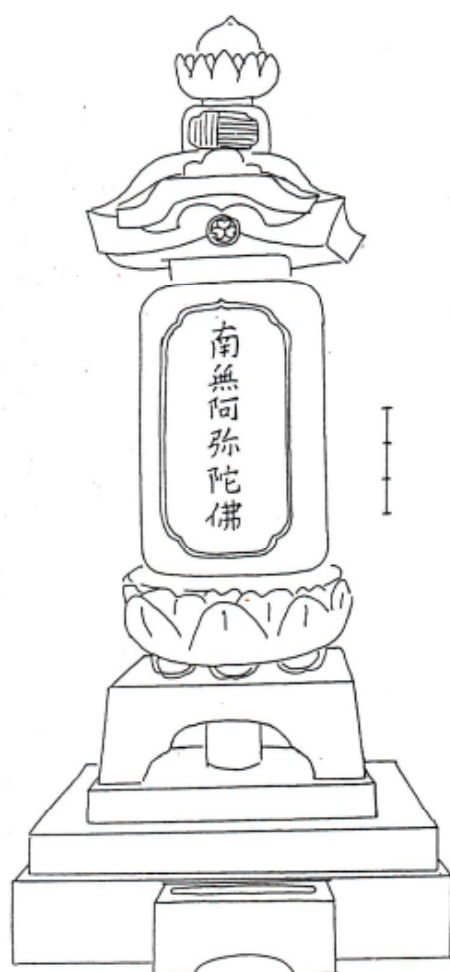


嘉永元 (1848)

24^{平方}

名号塔

林西寺



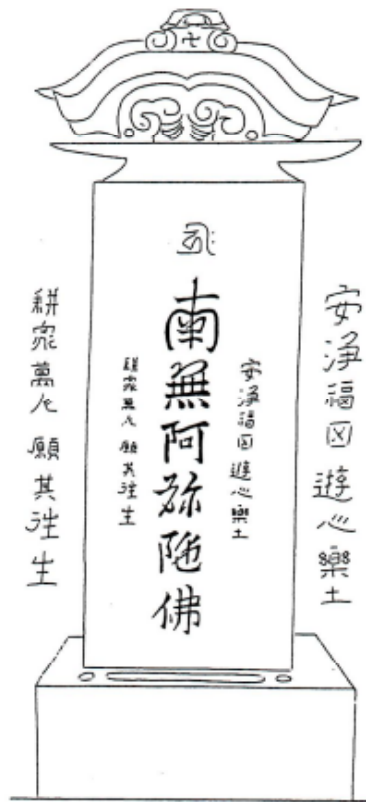
25^{平方}
名号塔



林西寺

享保11 (1726)

26^{平方}
名号塔



林西寺

貞享4 (1687)

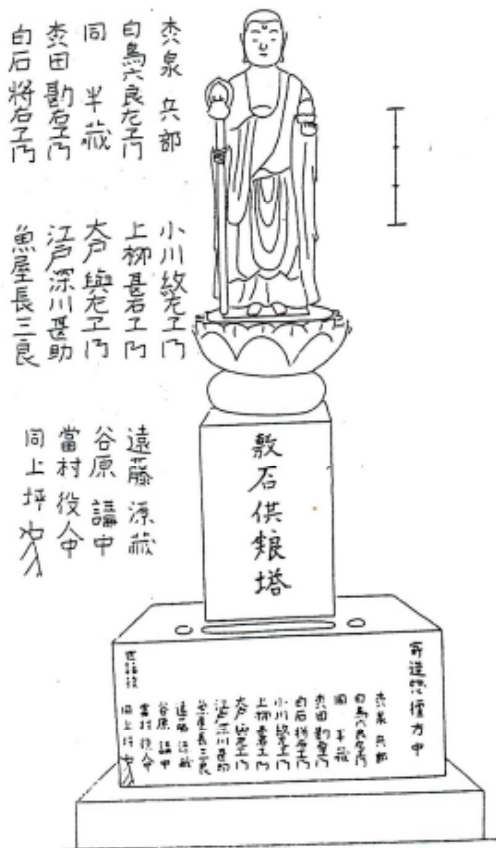
27^{平方}
六地藏石幢



林西寺

享保6 (1721)

28^{平方}
地藏像付き敷石供養塔 林西寺



明和3 (1766)

29^{平方}

子安地蔵像

林西寺

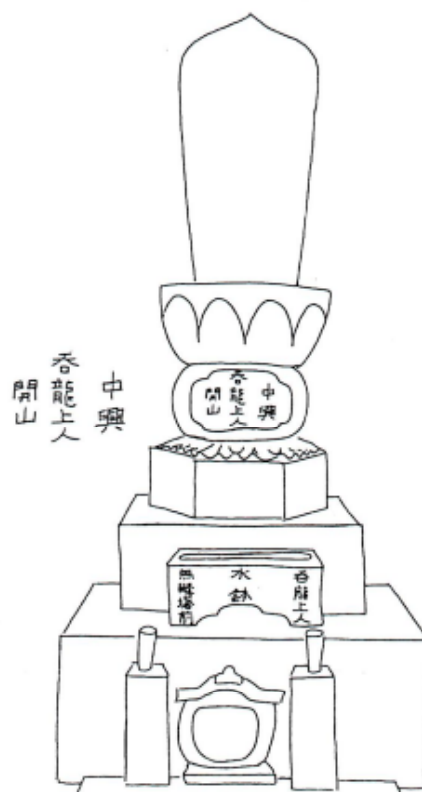


安永8 (1779)

31^{平方}

吞龍上人墓標の無縫塔

林西寺



元和9 (1623)

30^{平方}

六地藏石幢

林西寺

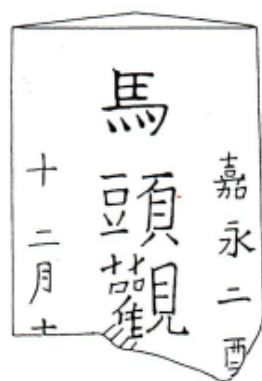


正徳5 (1715)

32^{平方}

「馬頭観音」文字塔

会野川筋跡路傍



嘉永2 (1849)

33^{平方}

地蔵菩薩像

会野川筋跡路傍



34^{平方}

馬頭觀音菩薩像

会野川筋跡路傍



寛政3 (1791)

35^{平方}

馬頭觀音菩薩像

会野川筋跡路傍



36^{平方}

馬頭觀音菩薩像

会野川筋跡路傍

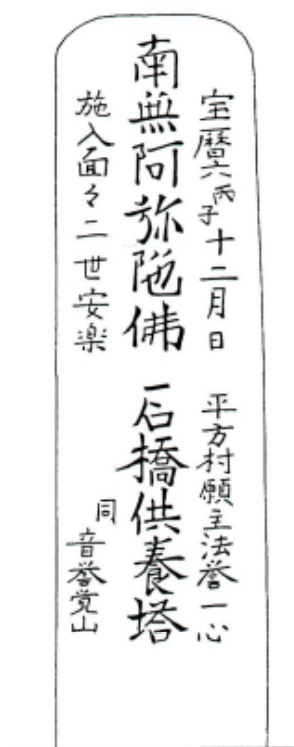


文化5 (1808)

37^{平方}

名号付き石橋供養塔

会野川筋跡路傍



宝曆6 (1756)

38^{平方}

不動三尊像

東組共同墓地そば路傍

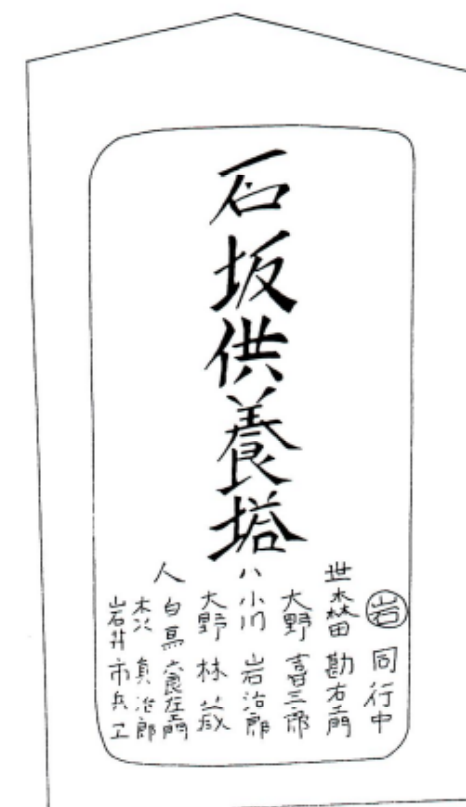


文久4 (1864)

39^{平方}

石段供養塔

浅間神社

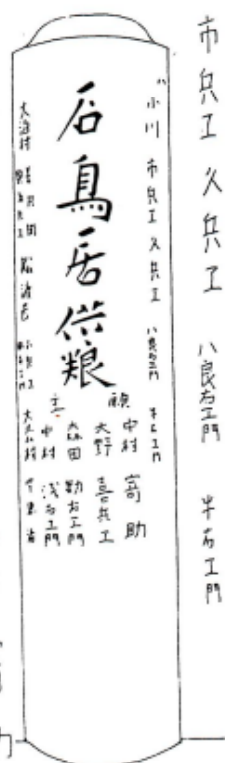


天保14 (1843)

40^{平方}

石鳥居供養塔

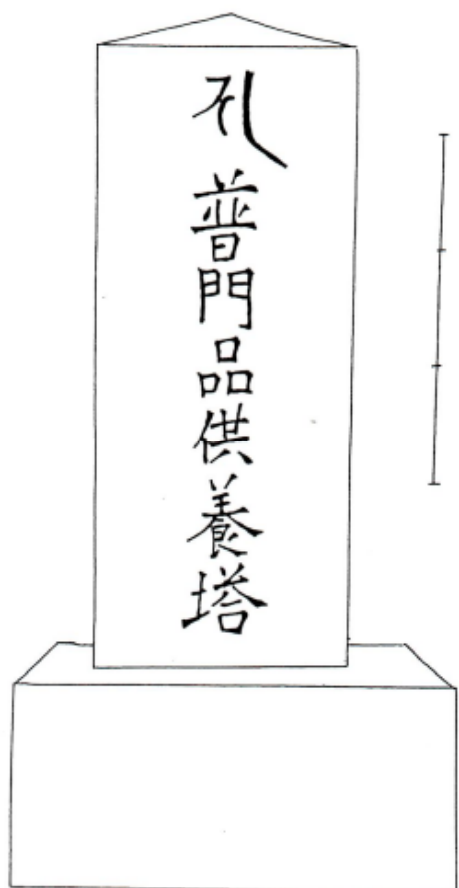
浅間神社



文化14 (1817)

大泊村 善兵衛 八良渡邑 小川 市兵工

主 原 中村 高助 大野 喜三郎 大野 勘右門 大野 浅右門 大野 喜三郎 大野 勘右門 大野 浅右門 大野 喜三郎

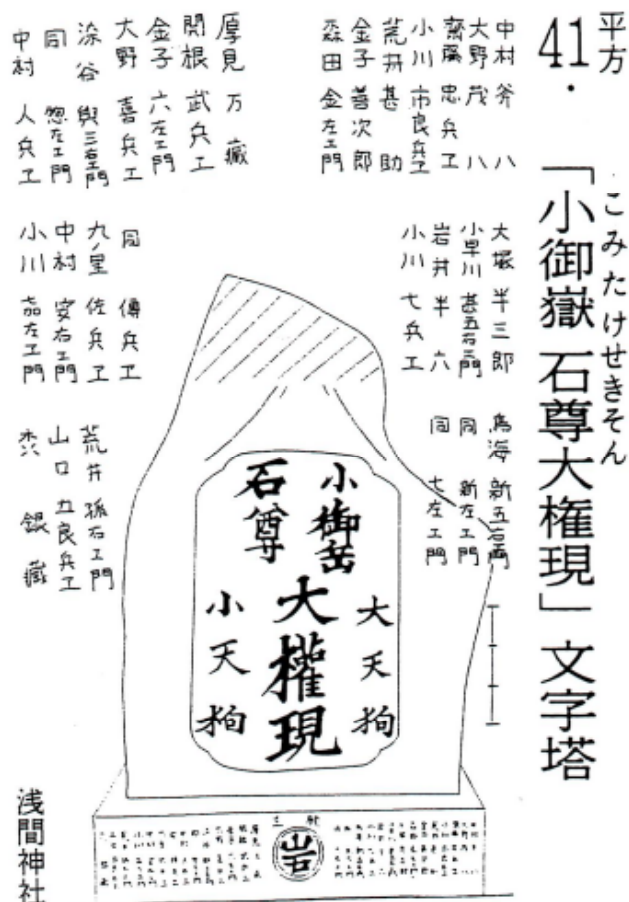


安永8 (1779)

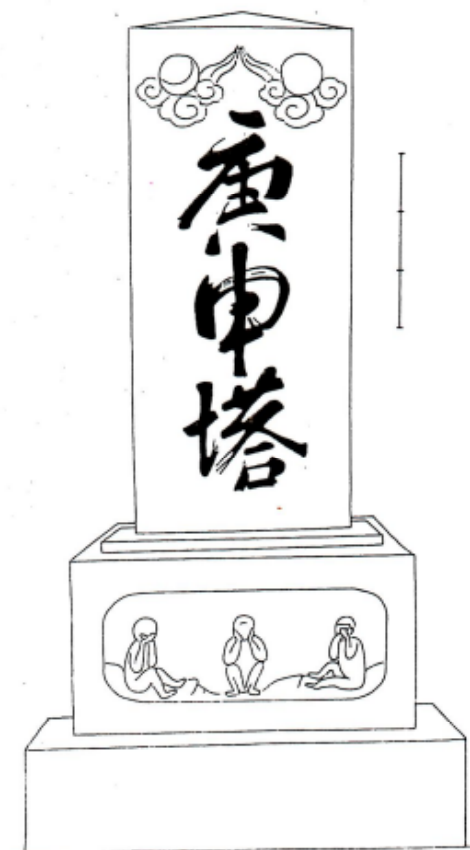
42^{平方}

普門品供養塔

鹿島神社



天保14 (1843)



天保9 (1838)

44^{平方}

文字庚申塔

鹿島神社



安政2 (1855)

43^{平方}

文字庚申塔

鹿島神社

45^{平方}

文字庚申塔



鹿島神社

寛政10 (1798)

46^{平方}

「水神宮」文字塔



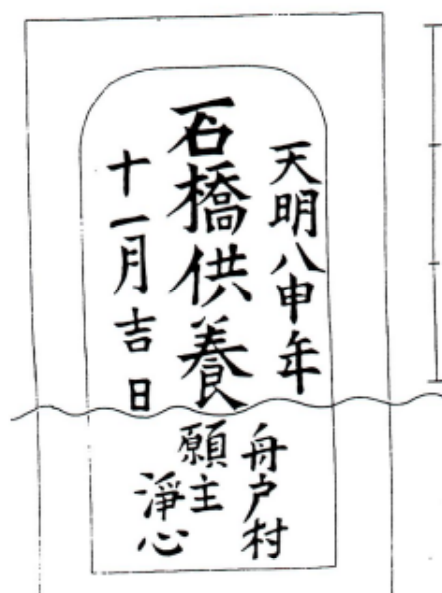
鹿島神社

嘉永4 (1851)

47^{平方}

石橋供養塔

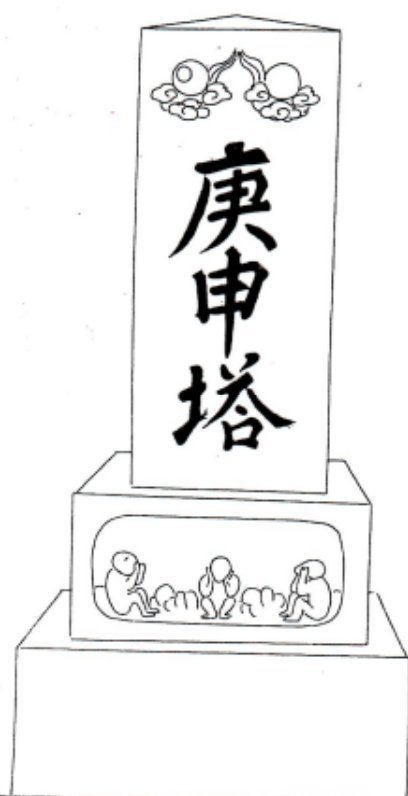
小川家「平方五十二」近辺



天明8 (1788)

48^{平方}

文字庚申塔



砂間の香取神社

天保13 (1843)



元治元 (1864)

50^{平方}

不動三尊像

戸崎墓地



安永6 (1777)

49^{平方}

青面金剛像庚申塔

砂間の香取神社



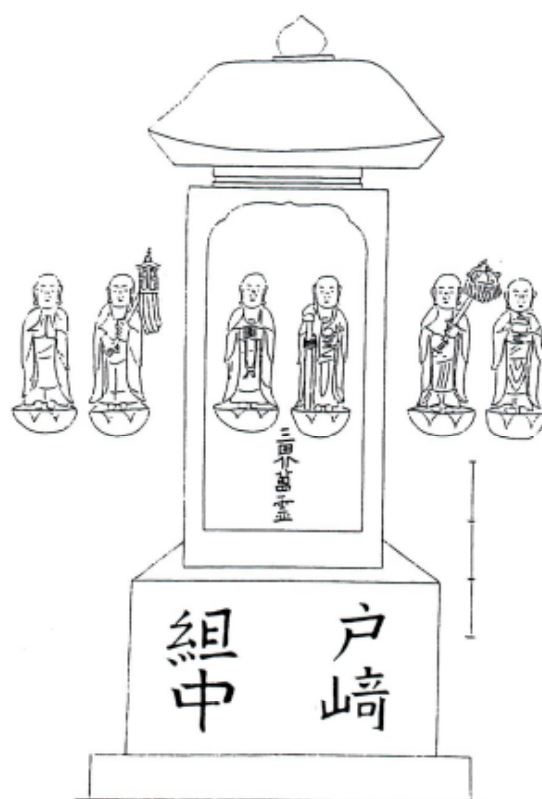
文化9 (1811)

52^{平方}

十三仏像容塔

ぞうよう

戸崎墓地



文化2 (1805)

51^{平方}

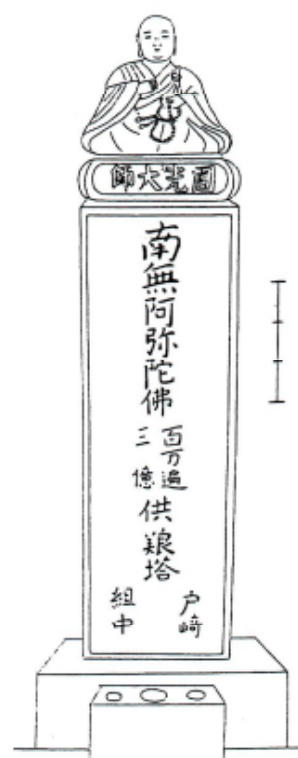
六地藏塔

戸崎墓地

53^{平方}

丸彫り法然像付き名号塔

戸崎墓地



寛政4 (1792)

54^{平方}

文字庚申塔

戸崎稻荷神社

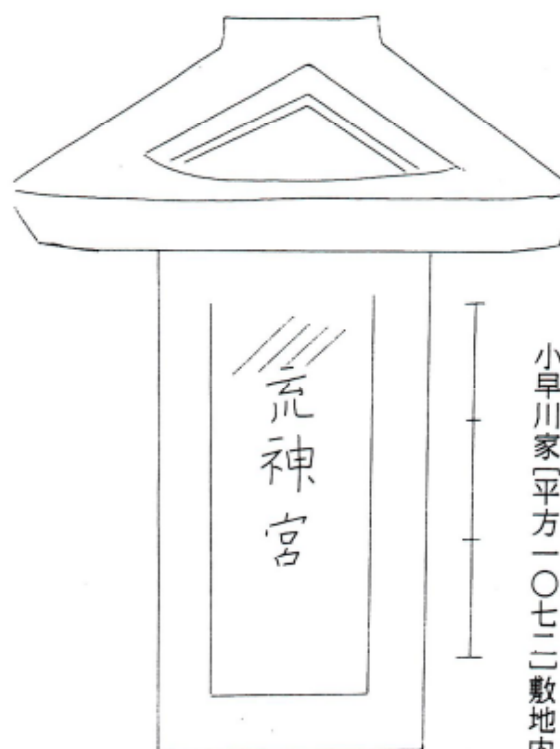


文化4 (1807)

55^{平方}

「荒神宮」文字塔

小早川家[平方一〇七二敷地内

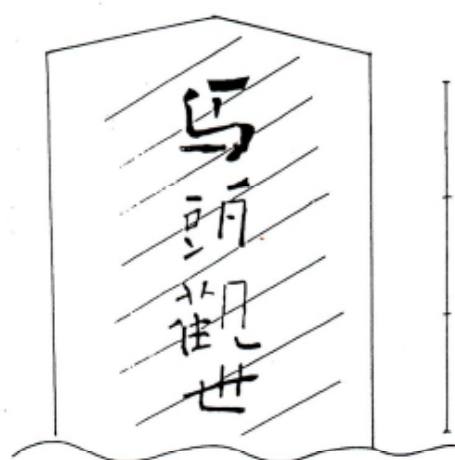


延享3 (1746)

56^{平方}

「馬頭観音」文字塔

小早川家[平方九六三]路傍



嘉永4 (1851)

57^{平方}

「馬頭観音」文字塔

小阜川家〔平方九六三〕路傍

文政十二丑年 平方村

正月 吉祥 日 馬持子中

馬頭観音

文政12 (1829)

58^{平方}

地藏菩薩像の墓塔

大塚家〔平方二〇〇〕路傍

為先祖代々喚譽清倫信女菩提也



享保8 (1723)

59^{平方}

「水神宮」文字塔

赤沼の渡し場跡地

水神宮

天保6 (1835)

60^{平方}

道標付き百箇所巡礼塔

大塚家〔平方二〇二〕邸内

〔側面〕

右 いかぬま ちやうど

天下泰平 殺父

白ミーカーヤ

孔 秦納西國百番大願成就

国土安全 坂東

いぢぢ

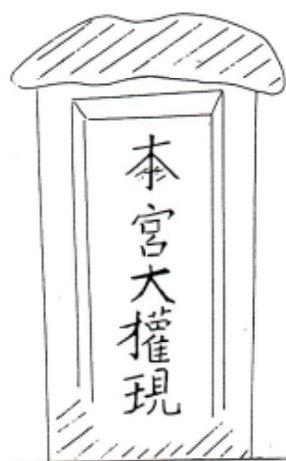
〔側面〕

た かすく ぢぢぢ

寛政6 (1794)

62^{平方}

「本宮大権現」文字塔

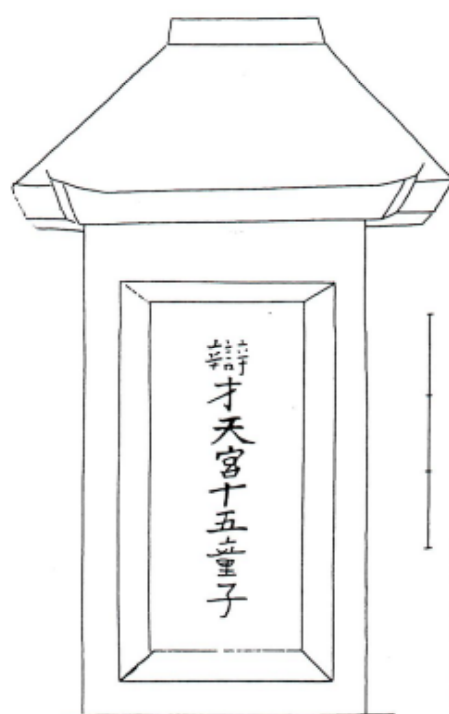


山谷の香取神社

享和3 (1803)

61^{平方}

「弁才天十五童子」文字塔



山谷の香取神社

寛保2 (1742)

64^{平方}

文字庚申塔

山谷の香取神社



寛政8 (1796)

63^{平方}

「天満宮」文字塔

山谷の香取神社



65^{平方}

如意輪觀音像庚申塔

寛山坊墓地「山谷共同墓地」

万治三子 庚申之 供養十二人

万治三子 庚申之 供養十二人



万治3 (1660)

平方村

武田高野郡新方莊
十月吉日
平方村

十月吉日

66^{平方}

千手觀音像付き念仏塔

寛山坊墓地「山谷共同墓地」

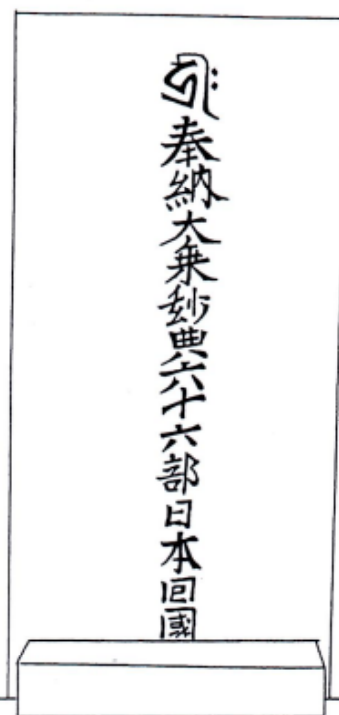


寛文12 (1672)

67^{平方}

六十六部廻国塔

クミ美容室そばT字路



宝永6 (1709)

68^{平方} 追加

敷石供養塔

林西寺

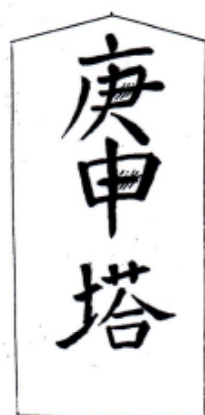
嘉永元戊申年
敷石供養塔
十一月吉日
村
中村傳兵衛
岩井清右門
小川嘉兵衛
富主筑井孫右門
八沖上西組中
惣代市
林西寺
高舉代

嘉永元 (1848)

69^{平方} 追加

文字庚申塔

小早川家「平方一〇七二」近くの路傍



明治3 (1870)

1. 大泊

六観音石幢



宝曆5 (1755)

3. 大泊

文字庚申塔



寛政9 (1797)

大泊観音堂

2. 大泊

千手観音菩薩像

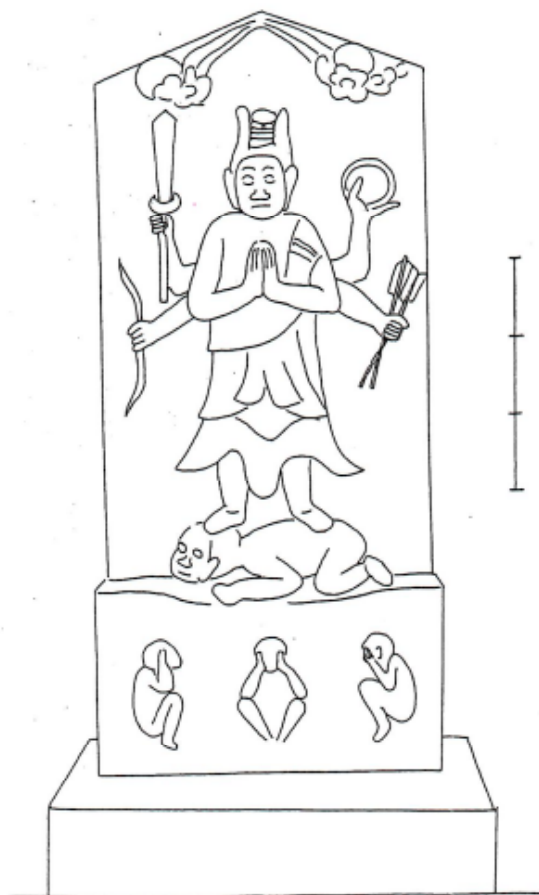


享保10 (1725)

大泊観音堂

4. 大泊

青面金剛像庚申塔



天明元 (1781)

大泊観音堂

9^{大泊}

地藏菩薩像の墓塔

大泊観音堂



10^{大泊}

六地藏石幢

大泊観音堂

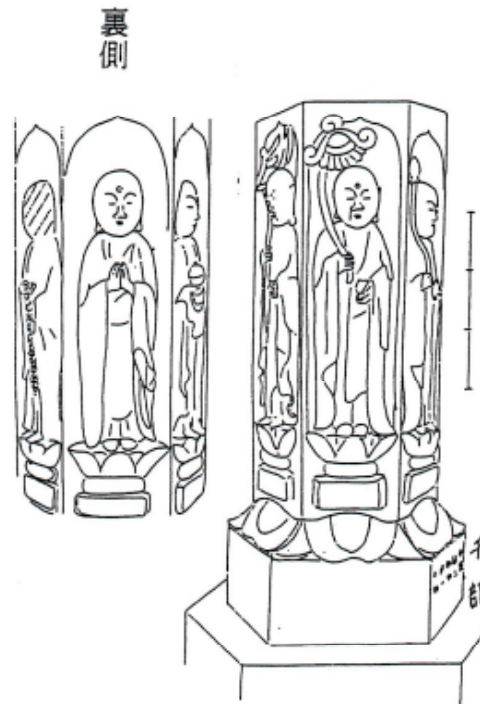


寛保元 (1741)

11^{大泊}

六地藏石幢

大泊観音堂



享保8 (1723)

12^{大泊}

六地藏石幢

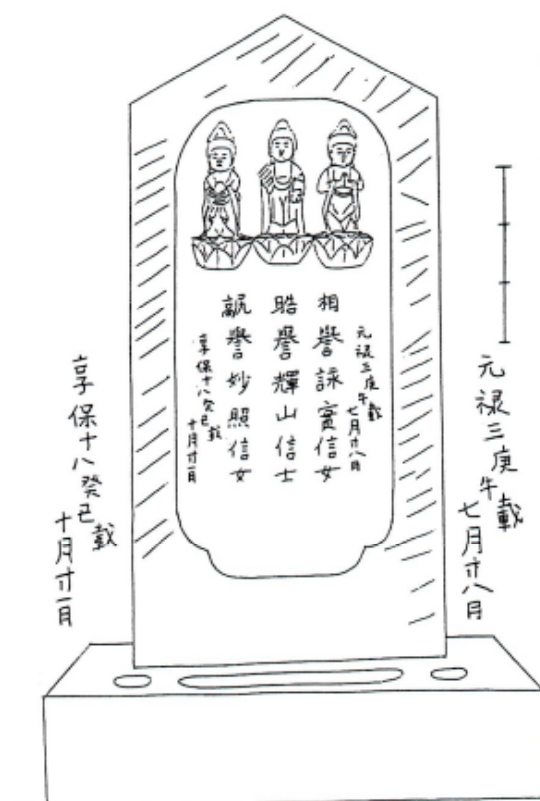
大泊観音堂



寛延4 (1751)

13^{大泊}

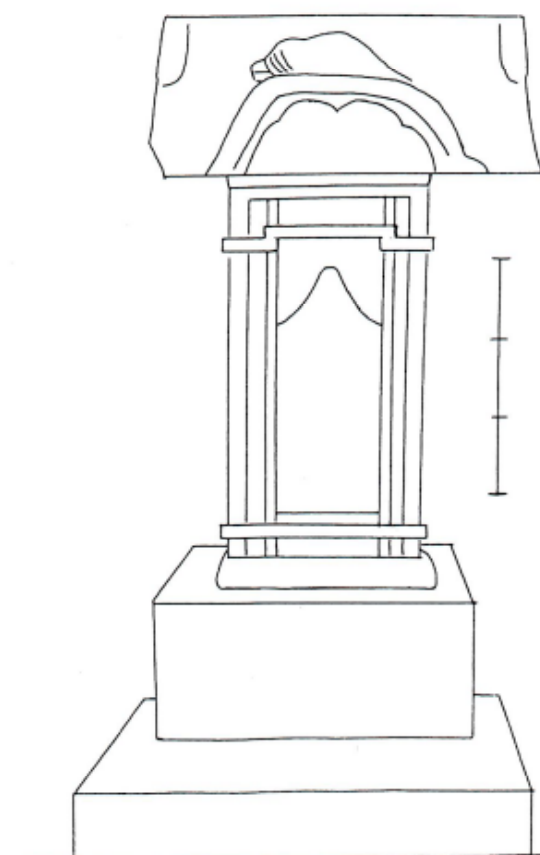
浮彫三尊像付き墓塔 大泊薬師堂



享保18 (1733)

15^{大泊}

天神塔



文化10 (1813)

14^{大泊}

不動三尊像

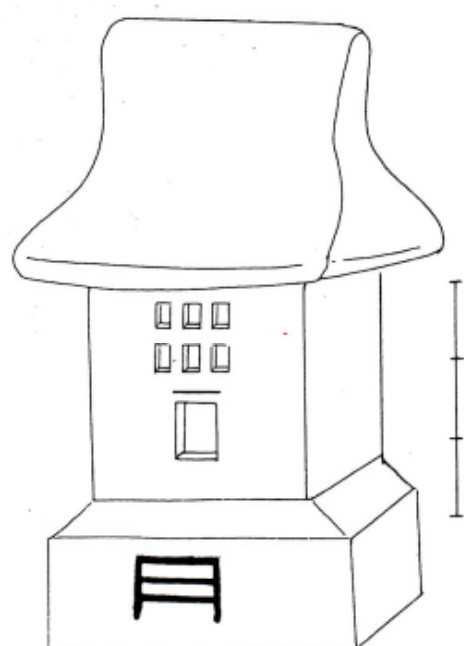


慶応2 (1866)

大泊香取神社

16^{大泊}

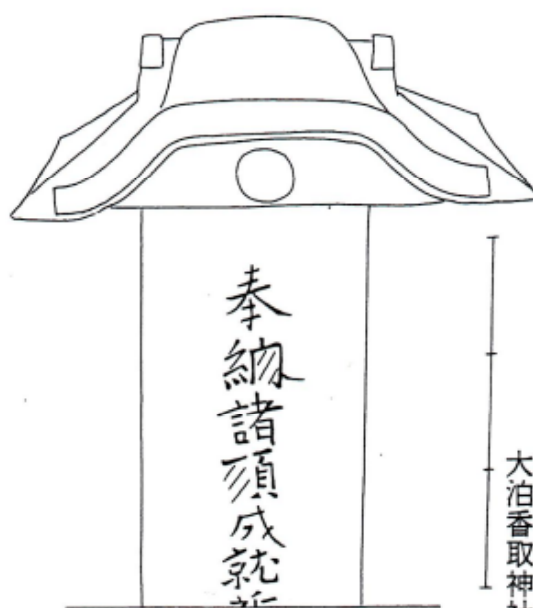
四十九院塔



大泊香取神社

17^{大泊}

「諸願成就」文字塔

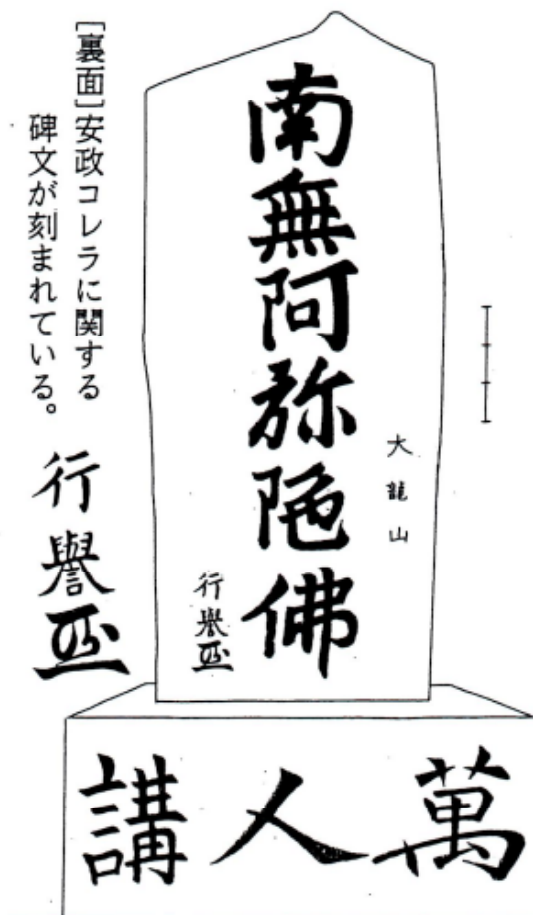


大泊香取神社

宝永5 (1708)

19^{大泊}

安政の疫病の名号塔

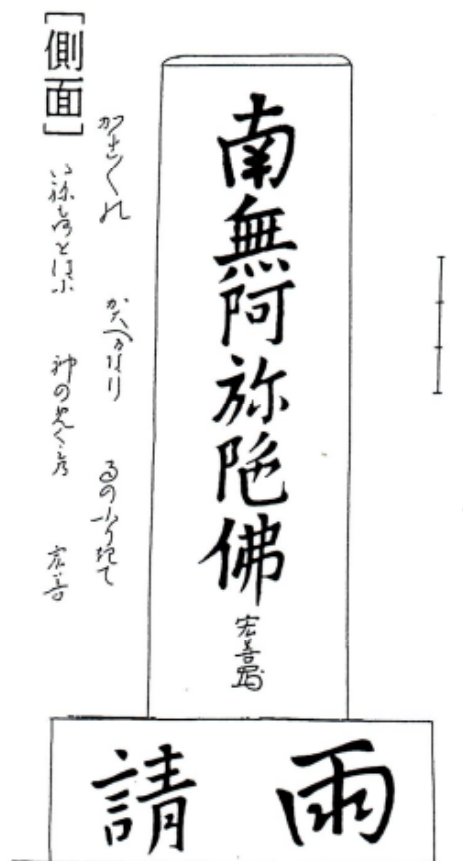


安国寺

安政6 (1859)

18^{大泊}

雨乞いの名号塔



安国寺

慶応3 (1867)

20^{大泊}

六地藏石幢



正徳五協洽祀

正徳5 (1715)

本年七月ものあいだあやうき病も来初て世の中へやみの一ア騒むらんひまをこふあはれ
 何れふとそのあけうせし人より世にこのかごととおぼしめられの爲とて八月廿七日より
 十月までの月までさうなある限は精金ふつとい種々せんて是救々の心陀佛の名唱へて然
 とくひつるいひとくふあもやゝいあゝうささゝいあのうたけかる小として拘せしハ
 あらねども其四徳の自むくひさあゝ奴やあんといともたふしくやらえんは度碑をつくり
 ちとてらんやれいよくはせらるればあゝあゝのれささくるゝて後の世に彼人といふ
 いすこの甚小のりあふ小月のほろとあふらん事 疑ふるくとあゝらん其由あること
 こそ母の抱きかたりいやはやと云ふ

人の身は あさきねさしの 光なれやししの おくにもかれぬはかりそ
ミつせ川 わたりわつらふ 人しあらハねひをしとりて しるへをハせん

行
譽
宏
善

※ののしる…勢いが盛んである

いくそばく(幾十許)……幾何

わかす…分かつ

おれへ……幸うに

27

21^{大泊}
名号塔



安国寺

宝曆3 (1753)

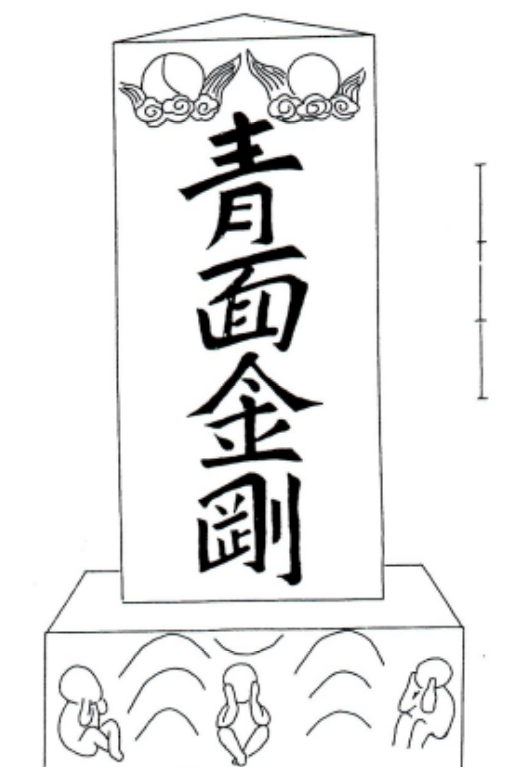
22^{大泊}
青面金剛像庚申塔



安国寺

享保6 (1721)

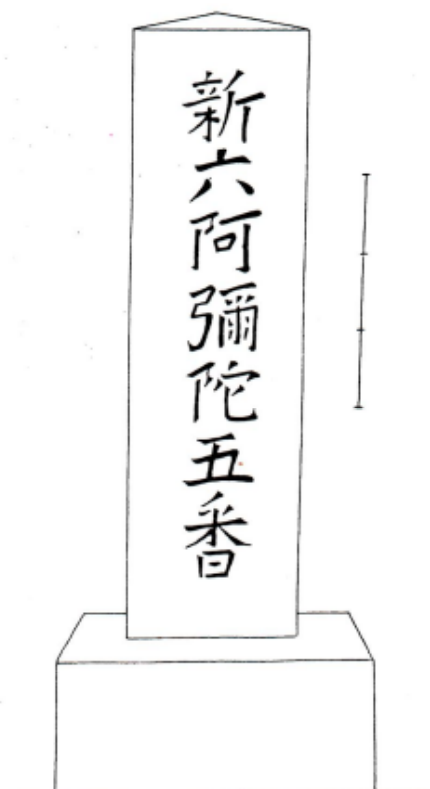
23^{大泊}
文字庚申塔



安国寺

寛政9 (1797)

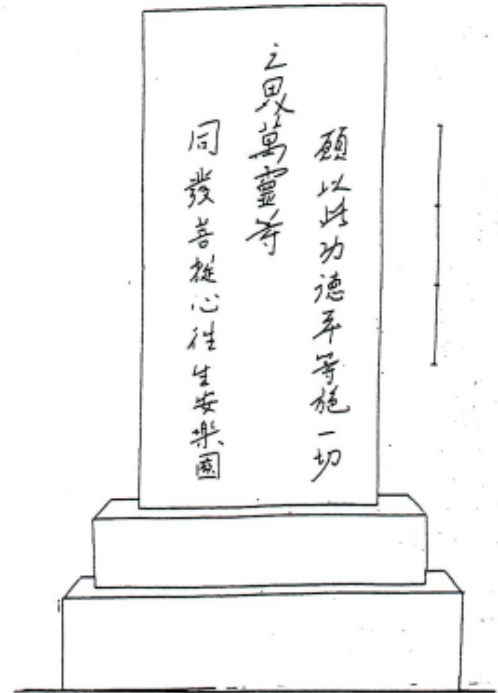
24^{大泊}
『新六阿弥陀五番』標識石塔 安国寺



天明8 (1788)

25^{大泊}

三界万霊塔

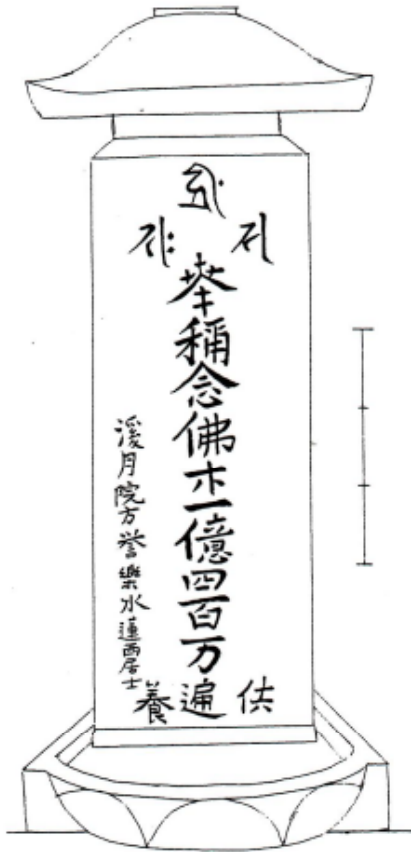


安国寺

弘化4 (1847)

26^{大泊}

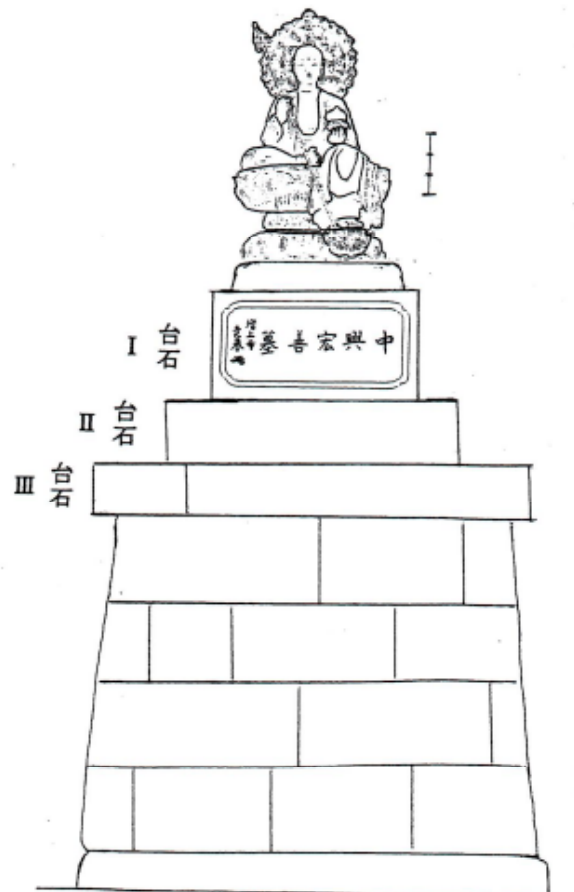
念仏供養塔



安国寺

〔参考〕安国寺中興・宏善上人の墓塔

安国寺

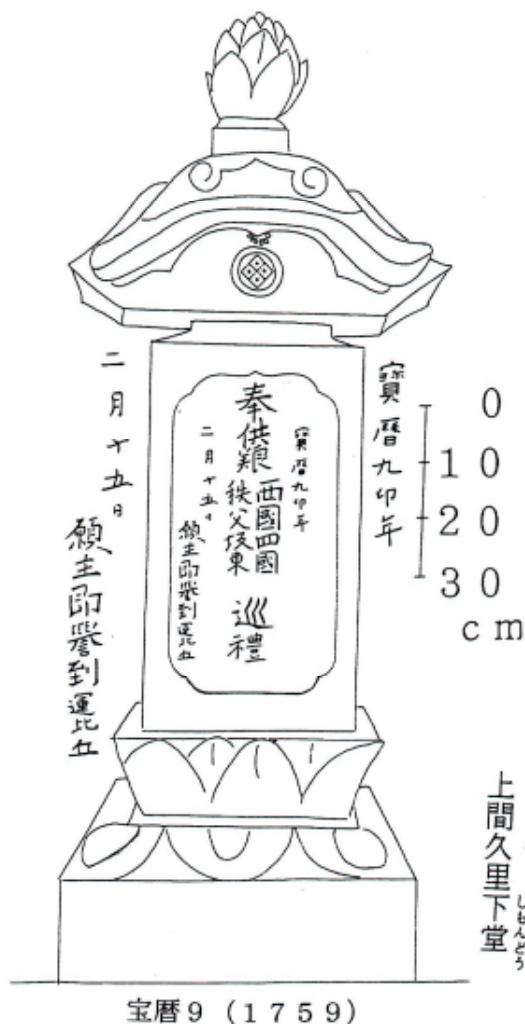


明治25・6年 (1892~93)



頭光には、地藏尊の真言「オン・カ・カ・カ・カ・ビ・サンマ・エイ・ソワ・カ」の梵字が、一番上の「オン」から始まって、時計回りに刻まれている。図では、「オン・カ・カ・カ」と「エイ・ソワ・カ」の梵字が見られる。

1. 上間久里
百八十八箇所巡礼塔



2. 上間久里
文字庚申塔



3. 上間久里
青面金剛像庚申塔



4. 上間久里
青面金剛像庚申塔



不動三尊線刻像(明治十八年)

發起

吉岡重太郎

上原治郎右衛門

伊川院法印榮信



印法 藤原
榮信



鶴龜山鑛

村内愛宕金窟置之

鶴龜山鑛

吉岡重太郎
上原治郎右衛門

世話人
上原源太郎
上原金治郎
小倉三吉
上原勝治郎

神社

世話人
關根園藏
田川新三郎
田川松五郎
上原佐兵衛

模写 加藤幸一

上間久里間魔堂南東側道路沿い

- ・上の図は、平成6年にスケッチしたものである。
その後、大きく四つに割れて破損したが、接着して修復され、現在に至る。
- ・次頁の野田市愛宕神社境内にある不動三尊線刻像の図柄が、大きさも含め、これとほぼ同じであることを平成24年に発見した。
- ・また、平成25年2月に野田市在住の元・越谷市郷土研究会理事の木原徹也氏にこの石塔に関する調査を依頼したところ、野田市五木の香取神社にも「伊川院法印榮信」(表面)と刻まれ、裏面には建立年月日「明治二十年十一月十三日」と刻まれたほぼ同じ大きさの図柄の石塔があることも判明した。

文久二年（一八六二）造立

伊川院法印榮信筆

藤原
信榮

〔裏面〕

文久二年歲次
壬戌夏五月吉日

願主 宮田源右五門
待山惣七
世話 伊東平兵衛
小張四郎兵衛
人岡野与吉

石工
古谷津熹兵衛

當院現住法印榮存代

葛西坂堅希撰

葛西坂堅希撰

管本知卜刻

管本卜刻



伊川院法印榮信筆

下總州成田山不動尊為
世所依止者蓋有年矣
故人之祈請於斯者無
福轉凶至其報性結為
而欽心懺悔者亦多矣
力同懺悔者亦多矣
堂宇宏敞金碧輝煌
燈者今茲丁亥春余
所識生與同社人謀立
碑於山內勒以當家錄
先生所製佛像錄余錄
之類末營日善哉報佛
道者其志美矣然未若
備諸桑之變者為盡也
使世人而得影攝以公
於世則其德之所被豈
有涯哉是舉之最可嘉
尚也文政丁亥三月
葛西坂堅希撰

管本知卜刻

模写 加藤幸一

上間久間の圖案をもとにして作成

野田市愛宕神社境内

上間久里

5・阿弥陀如来像付き念仏塔

四念佛誦中菩提也

閻魔堂



寛文四甲辰年十月十五日

寛文4 (1664)

6・上間久里名号塔

閻魔堂

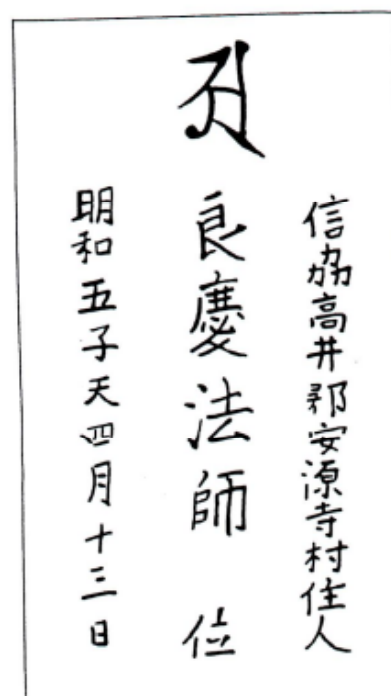


文久2 (1862)

上間久里

7・信州出身僧侶供養塔

閻魔堂



信高井郡安源寺村住人
良慶法師 位
明和五子天四月十三日

明和5 (1768)

上間久里

8・「稻荷大明神」文字塔

上間久里香取神社

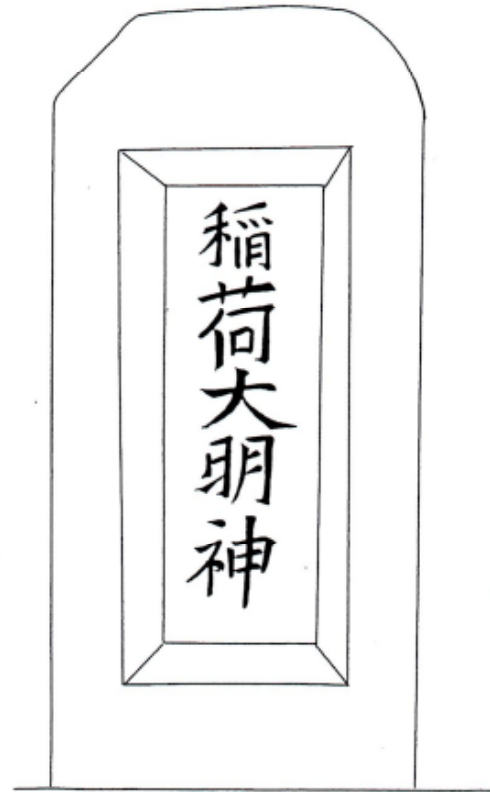


延享元 (1744)

9. 上間久里

「稻荷大明神」文字塔

上間久里香取神社

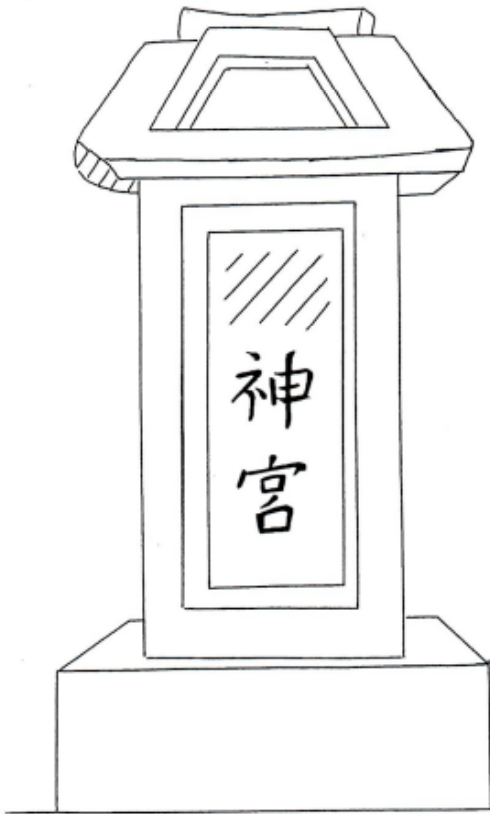


延享元 (1744)

10. 上間久里

「神宮」文字塔

上間久里香取神社

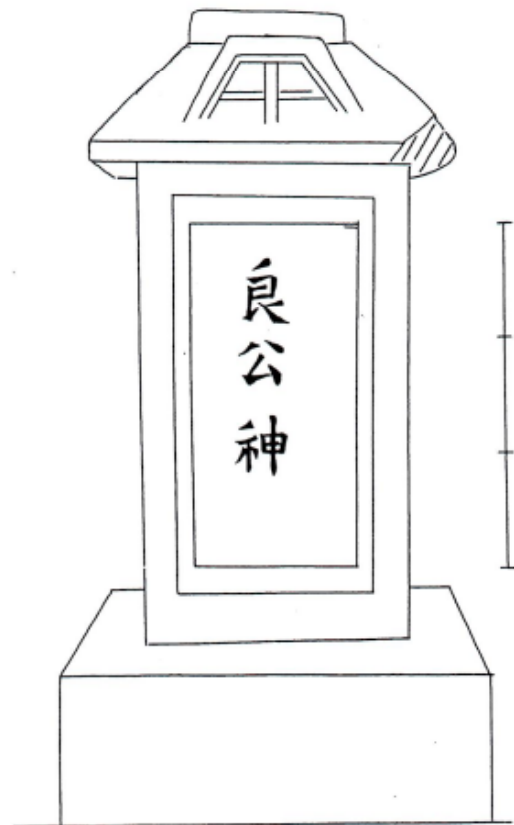


文化13 (1816)

11. 上間久里

「良公神」文字塔

上間久里香取神社



11 天明6 (1786)

12. 追加
上間久里

文字庚申塔

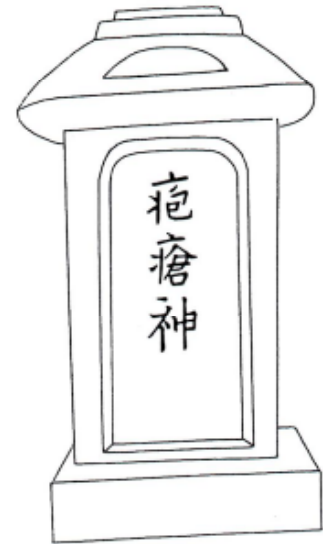
閻魔堂



明治12 (1879)

1. 下間久里
疱瘡神供養塔

下間久里香取神社



3. 下間久里
筆子建立墓塔

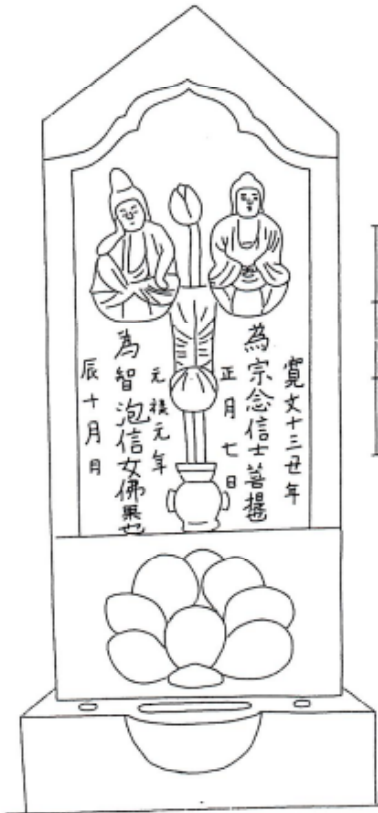
下間久里の寮
「阿弥陀堂」



安政2 (1854)

2. 下間久里
阿弥陀・如意輪浮彫像付き墓塔

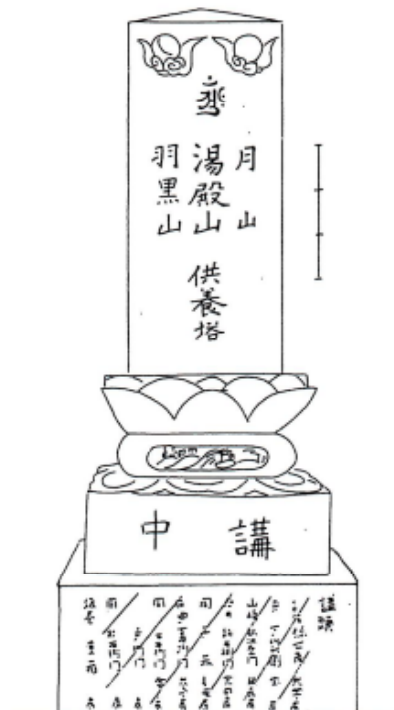
下間久里の寮
「阿弥陀堂」



元禄元 (1688)

4. 下間久里
出羽三山供養塔

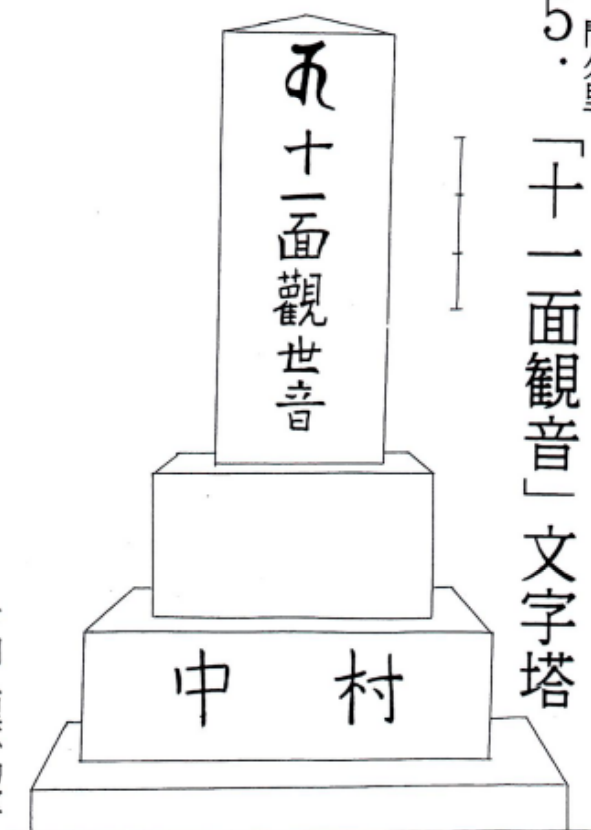
下間久里不動堂



安永元 (1772)

5. 下間久里

「十一面觀音」文字塔



文政8 (1825)

下間久里不動堂

6. 下間久里

文字庚申塔



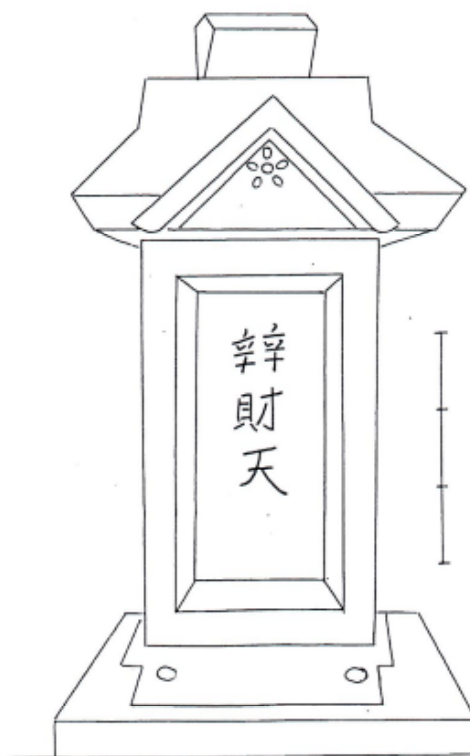
文政8 (1825)

下間久里不動堂

7. 下間久里

「弁財天」文字塔

下間久里不動堂

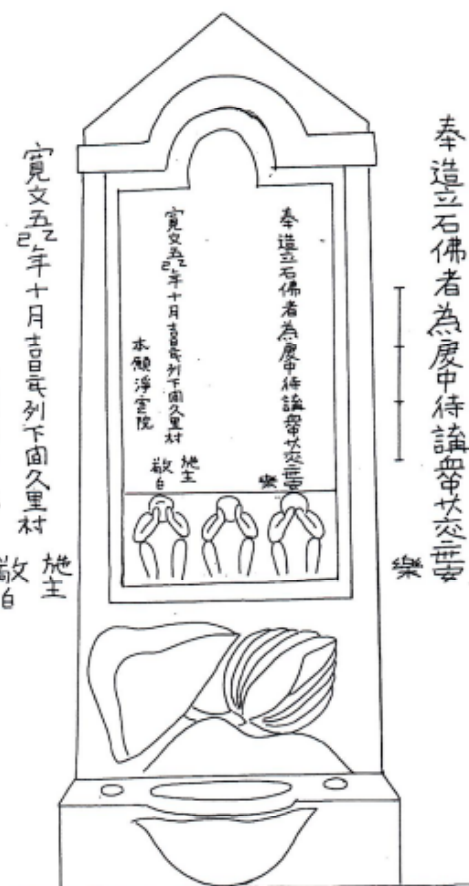


延享4 (1747)

8. 下間久里

板碑型三猿庚申塔

下間久里不動堂



寛文5 (1665)

奉造立石佛者為庚申待論帝次安寧

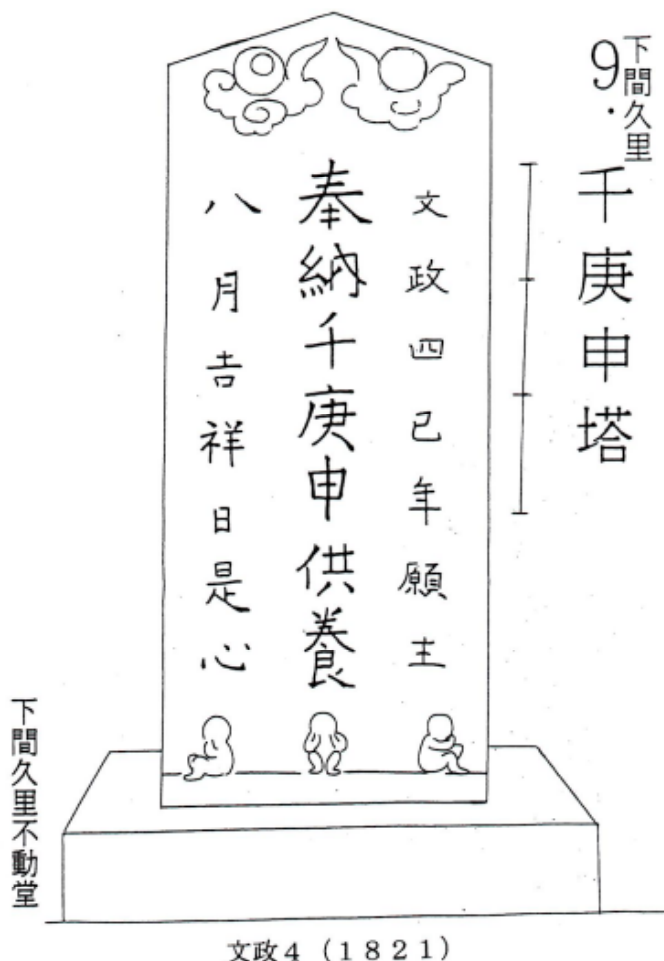
樂

寛文五年十月吉日氏列下間久里村

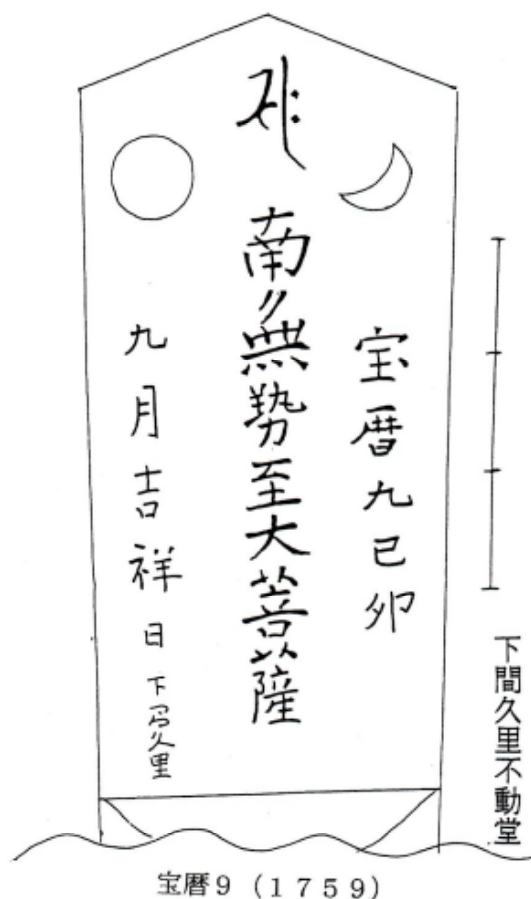
本願淨土院

施主 敬白

9. 下間久里
千庚申塔



10. 下間久里
「勢至菩薩」文字塔



11. 下間久里
觀音像付き百堂巡礼塔



12. 下間久里
青面金剛像庚申塔



下間久里

13. 道標付き大乘妙典供養塔

是ノ戸

荒井家（下間久里一〇）

戒應定圓信士
奉納大乘妙典供養塔
天明四辰三月廿六日

天明4（1784）

1. 大里

永代施餓鬼供養塔

大里自治会館

0
10
20
30
cm

永代施餓鬼供養誌

文政十丁亥年

十月吉日

會田幸吉
宇田利門
諸深野清
願主教圖
中村弥平
中村重藏

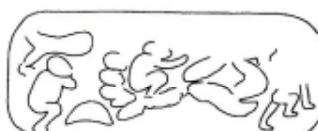
文政10（1827）

2. 大里

文字庚申塔

大里自治会館

青面金剛



享和2（1802）

3. 大里

文字庚申塔

大里自治会館

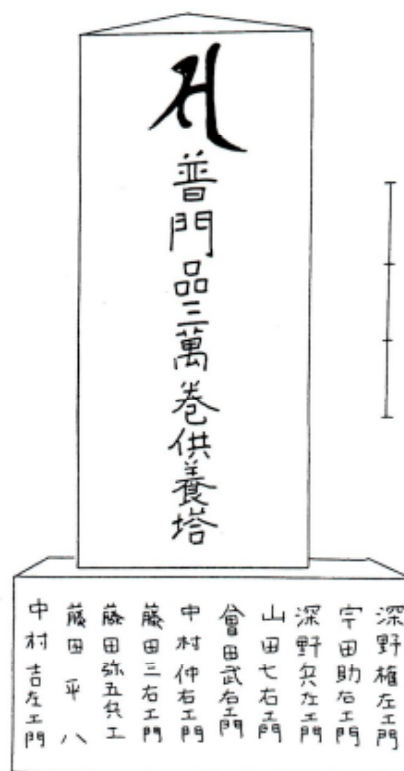


天保5 (1834)

5. 大里

普門品供養塔

大里自治会館



文化11 (1828)

4. 大里

青面金剛像庚申塔

大里自治会館

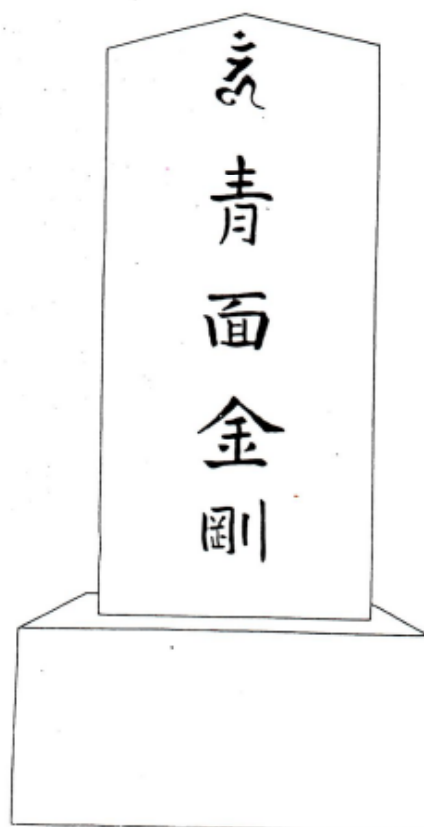


正徳4 (1714)

6. 大里

文字庚申塔

大里自治会館

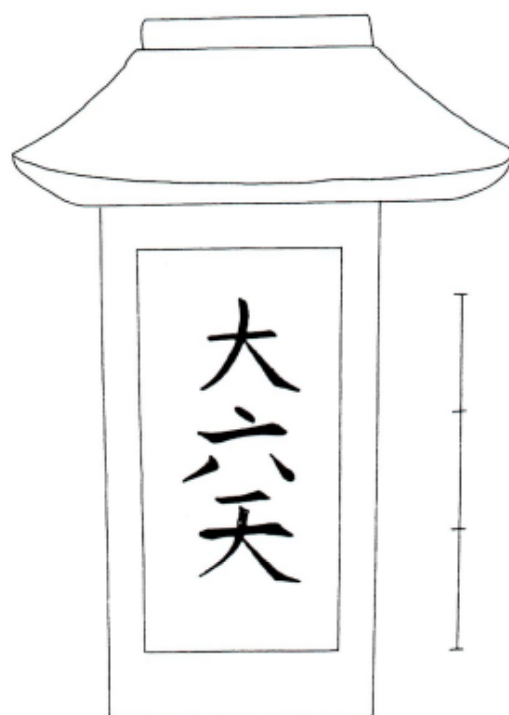


寛政11 (1799)

7^{大里}

「大六天」文字塔

大里自治会館



8^{大里}

名号塔

大里自治会館



9^{大里}

出羽三山供養塔

大里自治会館



10^{大里}

勢至菩薩像

齊藤家「大里八二〇」路傍



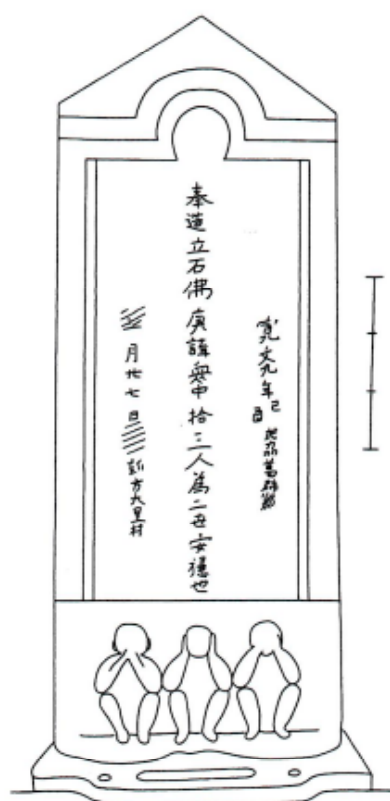
元禄11 (1698)

天保15 (1844)

11^{大里}

三猿庚申塔

齊藤家「大里八二〇」路傍



寛文9 (1669)

13^{大里}

青面金剛像庚申塔

齊藤家「大里八二〇」路傍



寛政2 (1790)

12^{大里}

釈迦如来像

齊藤家「大里八二〇」路傍



天和2 (1682)

14^{大里}

青面金剛像庚申塔

中村家「大里五三四」路傍

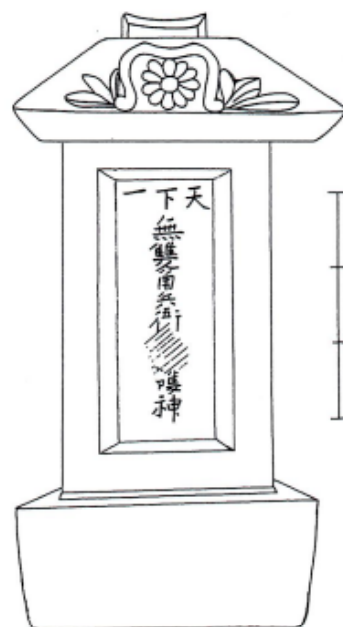


宝永7 (1710)

15 大里

『無双角兵衛守護神』文字塔

藤田家「大里八五五」邸内

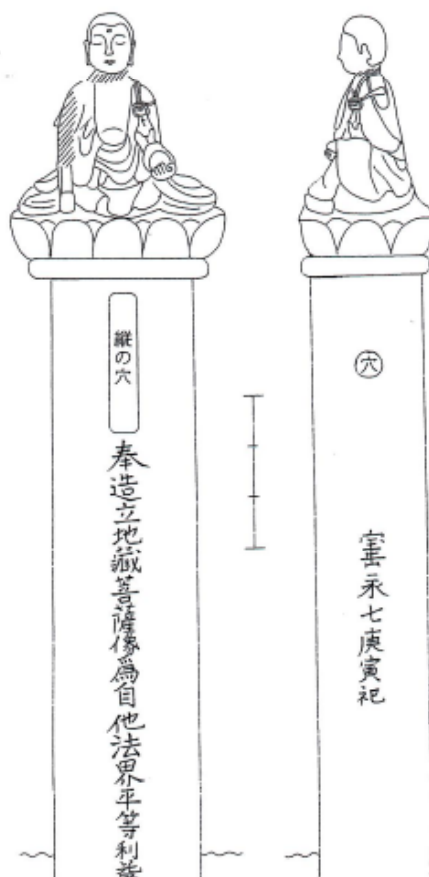


寛政2 (1790)

17 大里

「車地藏」石仏

中村家（大里八七五・達磨屋）邸内



宝永7 (1710)

16 大里

馬頭観音菩薩像

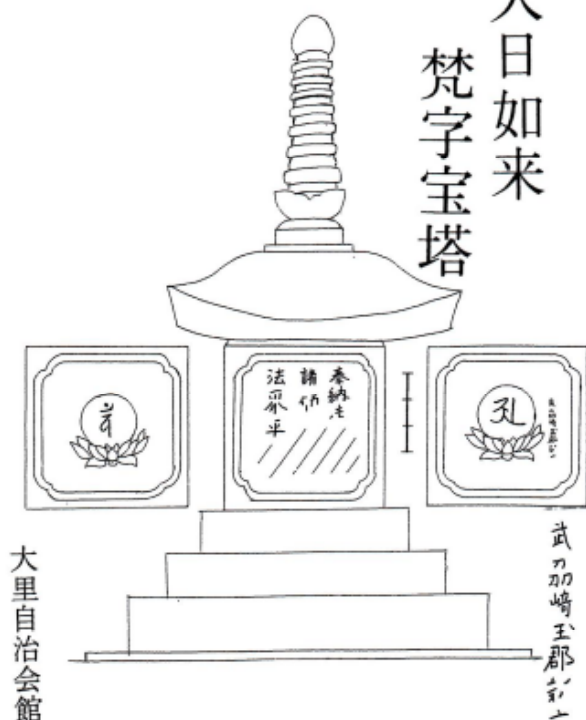
桜井分団第一部
消防小屋



寛政6 (1794)

18 大里 追加

大日如来
梵字宝塔



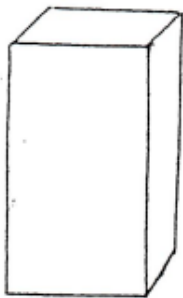
大里自治会館

武刀加嶋玉郎

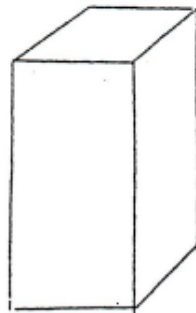
塔 型 分 類

当資料では、石塔の型式の分類を以下のようにする。

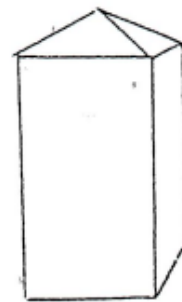
かくがた
角 型



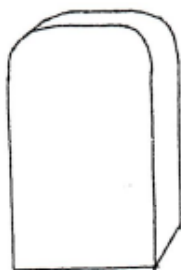
かくちゅうがた
角柱型



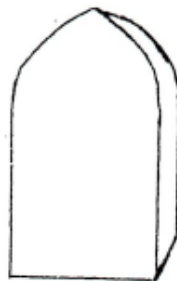
とうぶ
頭 部
やまじょうかくがた
山状角型



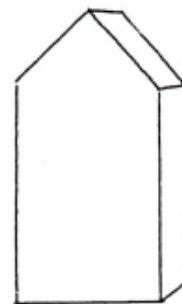
じょうぶ
上 部
すみまるかくがた
隅丸角型



ふながた
舟 型



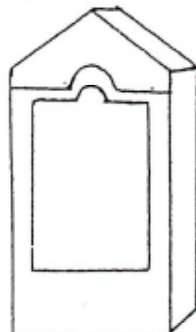
こまがた
駒 型



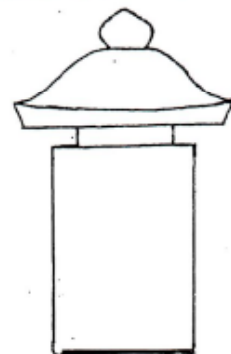
じょうぶまるがた
上部丸型



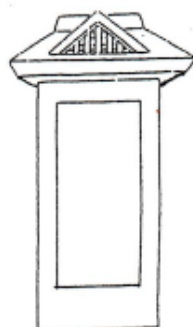
いたびがた
板碑型



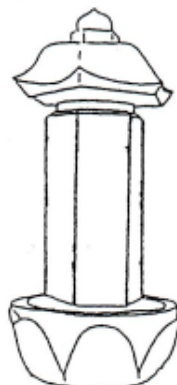
かさつきかくがた
笠付角型



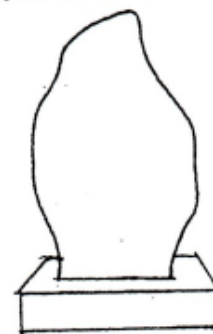
ほこらがた
祠 型



ろくめんせきどう
六面石幢



しぜんせき
自然石



また、石塔の高さの目安を以下のようにする。

「低」は ～50cm

「中」は 50cm～120cm

「高」は 120cm～200cm

「超高」は 200cm～

旧平方村の石仏

平方地区は古利根川と会野川（今はない）に挟まれた地域で、江戸時代は埼玉郡新方領平方村と称し、幕府領であった。また、平方村は越ヶ谷宿よりも粕壁宿（現在の春日部市粕壁）との関係が深かった。

（1）旧平方村入口関根家路傍

日光道中より平方村へ入る入口にあたる。

1. 「南の地藏尊」念仏供養塔（「越谷市金石資料集」に掲載なし）
所在地 平方・白鳥文具店（平方一五九〇一五）裏の古道北側、関根家（平方一七六二）路傍 ※現在、白鳥文具店はない。

石塔型式 舟型（南西向き・高さは高）
年号 延宝元年（一六七三）

〔正面〕

奉造立地藏菩薩念仏講行五十人為二世安穩敬白
（梵字「ア」）（地藏菩薩像）
延宝元 癸丑年十月廿四日武州埼玉郡平方村

※これは念仏塔である。地藏供養のための念仏講（念仏信仰集団）が江戸初期に建立したものである。地元（字は南）では「南の地藏尊」と呼んでいる。主尊は、宝珠と錫杖を持った地藏菩薩である。この念仏講の信仰は今でも形を変えて地藏盆の前日である八月二十三日に南自治会の住民が中心になって続いている。この石仏を管理しているのはすぐそばに住んでおられる平方一七六二の関根弥一氏である。八月二十三日の朝、南自治会に所属する老婦人がお地藏様を拝みにきて、地元で使用している「御念仏集」のうち地藏念仏（「南地藏尊念仏」、「南」とは地元の字名）を二回程繰り返して唱えている。

きみようちよりい地藏尊 由来は遠くいにしへの 平方村のせんぞたち
延宝元年秋の月 二世安穩のためなりと こゝに建立なしたもう
安産子育の御誓願 あまたの衆生をすくわんと 行きかみ辻に立ち給ふ
その靈驗もあらたなり 浮世の変わりながめつゝ 右手に錫杖
左手に宝珠をもちしおん姿 無明を照す光なり 末代までもありがたや
南無南の地藏尊 南無南の地藏尊 （以上、ルビは原文のまま）
また、この地区の約三十軒のうち当番にあたった三軒がこの地藏の石仏と隣の庚申塔にお供えや飾り付けを行う。夕方になるとこの地区の住民

が三々五々ここにお参りにやってくる。すでに用意された縁台にすわって雑談する人もみられる。そして一方では白鳥電機店から照らされるライトの明かりのもとで何人かの婦人が中心になって盆踊りを披露する。そのような集いが十時半頃まで続く。飾り付けは、以前は白米を臼で粉にしてからふかして二段飾りのお供え餅を作って供えたり、手作りの造花を飾ったり、またお団子をお供え餅を作ったという。そして翌日二十四日に各戸に半紙で包んだお供え餅と造花を配ったという。今では市販のお供え餅を供えるなどして簡略化し、さらに翌日にお供え餅や造花を各戸に配ることはない。

2. 青面金剛像庚申塔（「越谷市金石資料集」庚申塔六二番）
所在地 平方・白鳥文具店（平方一五九〇一五）裏の古道北側
石塔型式 笠付き角型（南西向き・高さは高）
年号 正徳五年（一七一五）

〔左側面〕（向かって右側面）

（梵字「バン」）于時正徳五乙未年十一月吉祥日 武州平方村 構中二拾人

〔正面〕

（日月・青面金剛・邪鬼・二鶏・三猿）

〔右側面〕（向かって左側面）

小嶋孫八郎	金子新五右衛門	九里作七郎	白石六兵衛
同名平八郎	同名平次郎	中山長十郎	山口与兵衛
同名清五郎	小河勘三郎	鳥海山三郎	飯山伝六郎
中村彦四郎	同名彦兵衛	同名新六	関根半三郎
同名長三郎	次賢孫三郎	同名門兵衛	同名〇〇〇

※于時は「ときに」と読む

3. 石橋供養塔（「越谷市金石資料集」に掲載なし）
所在地 平方・白鳥文具店（平方一五九〇一五）裏の古道北側
石塔型式 頭部山状角型（南西向き・高さは中）
年号 宝暦十二年（一七六二）
〔左側面〕

宝暦十二年 午年四月吉祥日

〔正面〕

浅草観世音 願主 信譽意寛
南無阿弥陀仏 石橋建立立供養塔
四十八月参 村々 講中
江戸

〔右側面〕

武州埼玉郡新方領平方村

※これは石橋供養塔である。日光道中から現在地に入る所に橋が架けられていた。ここに新たに石橋が建立されたことを記念し、これを造立したのである。この石塔に刻まれた銘文によると、造立した一人である願主・信譽意寛は浅草観音に毎月参拝し、それを三年間も続けたという。江戸との人的交流がうかがえる。この供養塔には言い伝えが残っている。江戸時代のこと、この地に架かっていた橋がもろいたため荷馬車が馬もろとも川に落ちてしまった。馬は死んでしまった。そこでその馬を連れて来た江戸浅草の人が土橋を頑丈な石橋になおした。その記念にこの塔が建てられたという。

(2) 女体神社

この神社は地元では女帝神社と呼んでいる。例年一月十二日に御備社の行事が行われた。明治四十五年(一九一三)神社合併の促進運動が起こり、平方村の村社である浅間神社に合併される。その後、地元では、浅間神社(大正六年に焼失)に遷宮したために不幸に見舞われたと信じられ、昭和八年に仮宮を作り、女帝大神を戻す。明治百年の年の前年昭和四十二年(一九六七)十二月に神社の新築が完成され、遷宮の式典を挙げた。
なお、この女体神社の東側隣接地の敷地内には、西光院と呼ばれる寺院跡地である。寺院跡地にあった石仏類がこの神社境内に見られる。

4. 「天満宮」文字塔(『越谷市金石資料集』天神 一番)

所在地 平方・女帝神社(女体神社)

石塔型式 祠型(北向き・高さは中)

年号 天保六年(一八三五)

〔左側面〕

天保六未年正月吉日

〔正面〕

天満宮

〔右側面〕

□祐真世

5. 普門品供養塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 平方・女帝神社(女体神社)

石塔型式 頭部山状角型(北向き・高さは中)

年号 文政五年(一八二二)

〔左側面〕

天下泰平
国土安穩

普門品供養

〔右側面〕

文政五午十二月吉日

6. 文字庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔一八二番)

所在地 平方・女帝神社(女体神社)

石塔型式 頭部山状角型(北向き・高さは中)

年号 寛政八年(一七九六)

〔左側面〕

寛政八丙辰十一月吉日

〔正面〕

青面金剛

〔右側面〕

中

横手
講中
南

7. 青面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔一六三番)

所在地 平方・女帝神社(女体神社)

石塔型式 駒型(北向き・高さは中)

年号 天明四年(一七八四)

〔正面〕

(日月・青面金剛・二鶏・鬼・三猿)

中村吉平
小川弥次兵へ
中村安五門
白石六兵へ
中村金五門
鳥海藤兵へ
関根□(吉)へ
鳥海新左五門
関根次郎兵へ
関根武兵へ
山口良七

天明四辰正月吉日

8. 文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔二三四番）
所在地 平方・女帝神社（女体神社）

石塔型式 頭部山状角型（北向き・高さは中）
年 号 文化五年（一八〇八）

〔左側面〕
文化五 戊辰 三月吉日

〔正面〕
青面金剛（三猿）

〔右側面〕
講中

9. 普門品供養塔（『越谷市金石資料集』普門品二八番）
所在地 平方・女帝神社（女体神社）

石塔型式 自然石（北向き・高さは中）
年 号 弘化三年（一八四六）

〔正面〕

平方村

弘化三丙午年 横手組

並日門口品供養塔石講中

後 五月吉祥日 南組

10. 杉奉納記念塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）
所在地 平方・女帝神社（女体神社）

石塔型式 駒型（東向き・中）
年 号 天明四年（一七八四）

〔正面〕

（太陽）

杉一本

施主中村吉平

奉納女帝権現

（月）

天明四 甲辰正月吉日

※この石塔に刻まれている「女帝」の文字から、この女体神社はこの頃すでに「女帝神社」とも呼んでいたことがわかる。

11. 僧侶の墓塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 平方・女帝神社（女体神社）

石塔型式 自然石（南向き・高さは中）
年 号 天保十年（一八三九）

〔正面〕 無縫塔の絵が刻まれ、その中に左記の銘文が書かれている。

天保十年己亥

（梵字「ア」） 権大僧都法印祐真不生位

八月廿七日

※権大僧都……「僧都」とは僧侶の最上級の位である「僧正」に次ぐ位である。僧都の中でも、大僧都・権大僧都・少僧都・

権少僧都に分けられる。

※不生位……真言宗の僧侶の戒名の位号の部分によく使われる。

12. 六十六部廻国塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）
所在地 平方・女帝神社（女体神社）

石塔型式 上部隅丸角型（南向き・高さは中）
年 号 享保十四年（一七二九）

〔正面〕

享保十四 己酉 天 施主平方南衆中

（梵字「ア」）奉納日域□中六拾六部供養宝塔也 ※日域とは日本
閏九月初八日願主常誓幻遊敬 白 □は「国」か

（3） 白鳥家（平方一八〇六）敷地内

13. 馬頭観音菩薩像（『越谷市金石資料集』馬頭一〇番）

所在地 平方・白鳥家敷地内（平方一八〇六）
石塔型式 頭部山状角型（南東向き・高さは低）
年 号 享和三年（一八〇三）

〔左側面〕

享和三年十月十四日

〔正面〕

（馬）

□頭観世音（馬頭観音像）

(4) 九ノ里家 (平方一三一一) 略路傍

14 道標付き文字庚申塔 (『金石資料集』庚申塔一八〇番)
所在地 平方・九ノ里家 (平方一三一一) 略路傍
石塔型式 駒形 (東向き・高さは中)
年号 寛政七年 (一七九五)

〔左側面〕

〔正面〕

寛政七卯年

青面金剛 (篆書体)

正月吉祥日

〔右側面〕

向大どまり道

※わらじを奉納する信仰がかつてみられたこの石塔は、大泊への道しるべも兼ねていて、ここより田畑を突っ切って大泊に通じる道があったことを示す貴重な歴史的資料である。

(5) 須賀家 (平方一四二) 個人墓地

15 宝篋印塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)
所在地 平方・須賀家 (平方一四二) 個人墓地
年号 寛保元年 (一七四一)
石塔型式 宝篋印塔 (西向き・高さは超高)

〔左側面〕

寛保元 辛酉 願主 須賀茂左衛門
奉造 立宝篋印塔 一基
八月中旬 十指合瓜敬白

〔正面〕

〔梵字「アク」〕

寛保元 辛酉 六親眷属
三月初三日 七世父母
権大僧都尊盛法印 不位
真蓮社実譽殿栄和尚
明和乙酉 天二月十八日

※権大僧都、不生位……11を参照のこと。
※他の側面 (右側面・裏面) の梵字・文字は省略する

(6) 中村家 (平方一六二) 個人墓地

16 板碑型墓塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)
所在地 平方・中村家 (平方一六二) 個人墓地
石塔型式 板碑型 (南向き・高さは中)
年号 寛文七年 (一六六七)

〔正面〕

〔梵字「サ」〕 寛文七丁未年

〔梵字「キリク」〕

〔梵字「サク」〕 六月七日 雪並位

※板碑型をした江戸初期の墓石である。

※なお、このすぐ北方には、道路の西側に「崇源寺」 (『新編武蔵風土記稿』による記述、地元では「宗源寺」と書かれる) 跡地、道路の東側に「三島神社」跡地がある。

※崇源寺跡・中興の石塔も混じっていくつか石仏が残され、現在は上沖 (かみおき) 自治会集会所となっている。また、宝暦九年 (一七五九) の虚空蔵菩薩像の版木があり (平成二十一年、林西寺保管)、古くから虚空蔵菩薩信仰が盛んであったことがうかがえ、今日でもその名残として十三日の縁日に虚空蔵菩薩像を前にしての集会がみられている。
※三島神社跡・三島神社の参道は平方三三六の中島家と平方三七〇〇の中村家との間の空き地である。また三島神社のそばに月照院という寺院があったという。

(7) 林西寺

後に『子育て吞龍』として有名になる養龍は天正十二年（一五八四）にこの寺院の第九世の住職に就いている。

17・道標付き文字庚申塔（『金石資料集』庚申塔三〇三番）
所在地 平方・林西寺
石塔型式 頭部山状角型（南向き・高さは高）
年号 万延元年（一八六〇）
〔左側面〕

武州埼玉郡平方郷 左赤沼渡シ場

〔正面〕

世話人

(太陽) 庚申塔
(月) (三猿)

〔右側面〕

萬延元年次 庚申 十一月 右柏壁道

※向かって左側面に『右 柏壁道』と刻まれ、右（西側方面）に進むと奥州道中に出てそこから北に向かい柏壁宿に通じることを示している。向

小川源右衛門 中村武左衛門 小嶋金左衛門 石川萬太郎 染谷伝左衛門 中村忠兵衛 大野喜三郎 染谷惣右衛門 中村又兵衛 同 伝兵衛 同 奇助 小川八郎右衛門 中村久兵衛 森泉清左衛門 中村浅右衛門 森田勘右衛門 須賀伊左衛門 森久左衛門 高橋弥五左衛門 中村斧八 染谷与惣右衛門 中村三郎兵衛 同 惣〇（七）郎 山崎甚兵衛

かつて右側面には『左 赤沼渡シ場』と刻まれていて、左（東側方面）に進むと西楽寺や鹿島神社の前を通り、さらに砂間の香取神社の先（現在の平方六八〇一の厚見家あたり）より地元では「山道」（土手道）と呼ばれている脇道（この道は現在はない）となり、戸崎稻荷・西光寺、そして赤沼渡シ場に通じるのである。

18・地蔵像付き六十六部廻国塔（『金石資料集』に掲載なし）
所在地 平方・林西寺
石塔型式 舟型（東向き・高さは高）
年号 宝暦十三年（一七六三）
〔左側面〕

当村施主

西光寺 宇田川七良右衛門 同 七平 同 兵左衛門 同 七左衛門 小早川清左衛門 同 七良左衛門 同 七良左衛門 同 志 施主

〔正面〕

奉納大乗妙典日本廻国供養塔
天下太平

(梵字「カ」) (地蔵菩薩像)

日月清明

癸未

宝暦十三 十月吉日通譽円心法師

未

武州埼玉郡新方領平方村 願主 白石伝六 親類 中 五人組 中 山口伝七 河原登菊 関根惣平 小早川基左衛門 小早川基左衛門 中村伝左衛門 森田佐五右衛門 大場村 常泉 三之宮村 長門国大津郡 基右衛門 久原村 歌化之村 (有) (勅化)

※大乗妙典とは法華経のことである。

19・地藏菩薩像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 平方・林西寺

石塔型式 舟型（東向き・高さは高）

年号 宝永五年（一七〇八）

〔正面〕

奉造立尊像一軀日参比丘□□

（梵字「力」）（地藏菩薩像）

相嘗妙頓 宝永五戊子年七月吉日

20・『新六阿弥陀四番』標識石塔（『金石資料集』に掲載なし）

所在地 平方・林西寺

石塔型式 頭部山状角型（東向き・高さは中）

年号 天明八年（一七八八）

〔左側面〕

天明八戊申年五月廿五日

〔正面〕

新六阿弥陀四番

〔右側面〕

願主 舟渡村

受道

※20番は六阿弥陀参りのために寺院に建てた標識である。「六阿弥陀参り」とは阿弥陀如来を安置している六ヶ所の寺院を春と秋の彼岸に巡拝する信仰である。江戸の町で盛んに行われた。この越谷地域にも江戸の六阿弥陀参りをまねて『新六阿弥陀参り』として行われたのであろう。現在、増林の林泉寺に『新六阿弥陀二番』、ここ林西寺に四番、大泊の安国寺に五番、大松の清浄院に六番の標識が残っている。願主はすべて船渡村の受道である。なお、一番は不明であるが、当時勢力のあった天岳寺であろう。また三番は従来は登戸の報土院とされてきたが、平成十八年五月の調査により、江戸時代の本来の三番は松伏町赤岩の源光寺であることが判明した。以上の寺院はすべてが阿弥陀仏を本尊とする寺院である。

21・青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔一八九番）

所在地 平方・林西寺

石塔型式 駒形（東向き・高さは高）

年号 寛政十年（一七九八）

〔正面〕

（日月・青面金剛・二鶏・鬼・三猿）

平方村
上組
講中

〔右側面〕

寛政十戊午年十一月吉日

22・文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔二六五番）

所在地 平方・林西寺

石塔型式 頭部山状角型（東向き・高さは高）

年号 天保四年（一八三三）

〔左側面〕

天保四年癸巳正月吉辰建焉

人ハセ

庚申塔（三猿）

松令徳□□（拝書）

〔右側面〕

武州埼玉郡

平方村

23・文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔二八五番）

所在地 平方・林西寺

石塔型式 頭部山状角型（東向き・高さは高）

年号 嘉永元年（一八四八）

中村三良兵衛
森泉清左右工門
小川八良右工門
中村清助
高橋弥五左工門
同久右工門
大野喜兵衛
中村武左右工門
染谷与惣右工門
石塚助左右工門
中村久兵衛
須賀文蔵
小川作右工門
山崎甚兵衛
大野茂八
小川源右工門
森久左右工門
中村伝兵衛
同浅右工門
森田助右工門
中村人兵衛

〔左側面〕

嘉永元 戊申十一月吉祥日

〔正面〕

人ハセ

中村伝兵衛
中村久兵衛
染谷惣左門
大野喜兵衛
森田基右衛門
中村浅右衛門
中村又兵衛
中村武左衛門
小嶋金左衛門
中村伝助
高橋弥五左衛門
中村三良兵衛
須賀伊左衛門
染谷与惣右衛門
小川源右衛門
中村惣四郎
森泉清左衛門
石川万太郎
中村斧八
山崎基兵衛
小川八良右衛門
森久左衛門
石塚勘左衛門

(日月) 庚申 塔 (三猿)

〔右側面〕

武州埼玉郡
平方村

24. 名号塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)
所在地 平方・林西寺
石塔型式 笠付き円柱型 (東向き・高さは超高)
年号 不明

施主

中村藤左衛門

〔正面〕

南無阿弥陀仏

〔右側面前方〕

(吉左工門)

延宝二寅十月十日

走西清信士

地先祖

徳入清信士
十月十日

〔裏側面〕

清譽浄閑信士 七世父母
三界萬靈六親眷属 有無縁等
浄譽妙閑信女

※地先祖……その土地に元々昔から住んでいた住民をさすのであろうか。

25. 名号塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 平方・林西寺

石塔型式 笠付き角柱型 (東向き・超高)

年号 享保十一年 (一七二六)

〔左側面〕

武蔵国埼玉郡
南無観世立百菩薩 願主 深譽休心
新方領平方村

〔正面〕

南無阿弥陀仏
善光寺四十八度
参詣願成就供養

〔右側面〕

享保十一年 丙午 天

南無大勢至菩薩 当村 中村寄助
九月初四日

〔裏面〕

心譽浄専信士是譽秀月 勸化村郷千五百人
法界外萬靈有無二阿縁等 転譽成輪信女
意譽随運法尼 智察童子 報謝宿六十七人

※表面に刻まれた文字から平方村の深譽休心が信州の善光寺に四十八回も参詣したことがわかる。回数に阿弥陀如来の四十八誓願にかけている。

26・名号塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 平方・林西寺

石塔型式 笠付き角柱型（東向き・高さは超高）

年号 貞享四年（一六八七）

〔左側面〕

（梵字「サ」）

武州崎玉郡平方村 飯山縫之助
無観世立百苦菩薩
林西寺住仰養代

〔正面〕

（「キリク」）

安浄福田遊心楽土
南無阿弥陀仏
耕衆萬人願其往生

〔右側面〕

（梵字「サク」）

皆貞享四丁卯年建塔願司
南無大勢至王菩薩
四月八日 到誓直心

〔裏面〕

（梵字）

聞教叟
妙心信女
心立信士
二二介苗内雪亞十八観観眷属等
妙天信女
心英童子
栄山信士

※皆……「とき」と読む。

27・六地藏石幢（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 平方・林西寺

石塔型式 六面石幢〔单制〕（東向き・高さは超高）

年号 享保六年（一七二一）

〔裏面〕

（幢幡「一種の旗」を持つ地藏菩薩）

〔左側面〕

（合掌する地藏菩薩像）

雪窓童子
妙輪信女

〔正面〕

（天蓋「一種の傘」を持つ地藏菩薩像） 即養彈応信士

（両手で宝珠を持つ地藏菩薩像） 応養声現信女

〔右側面〕

（柄香炉を持つ地藏菩薩像）

享保六辛丑 天三月五日

〔裏面〕

〔裏裏面〕

（宝珠と錫杖を持つ地藏菩薩像）

28・丸彫地藏像付き敷石供養塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 平方・林西寺

石塔型式 丸彫り（東向き・高さは超高）

年号 明和三年（一七六六）

〔左側面〕

二二介苗内雪亞

〔正面〕

藤塚 赤沼 柳原 上長 下村 赤沼 魚沼
右勸化願主 藤塚源内
寄造惣檀方中
森泉兵部
白鳥六良左工門
同半藏
森田勘右工門
白石得右工門
小川紋左工門
上柳基右工門
大戸与左工門
江戸深川甚助
遠藤源蔵
谷原講中
当村役人中
世話役 同上坪中

〔右側面〕

想譽上人 九譽聖品
由譽上人 蓮譽知生
巖譽淨松 湖月妙珊
森譽清月 見道自說
流譽池宝 等譽智海

平 大 大 大
方 枝 場 壁
備 中 大 大
後 久 村 村
六 間 六 六
ヶ 里 ヶ ヶ
村 村 村 村

〔裏面〕

明和三年戊八月
当山廿世
△口堂手

右動化願主
当村東五良兵衛
石工 江戸白金
小嶋藤左エ門

29・子安地藏像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）
所在地 平方・林西寺墓地内南側 白石家墓所
石塔型式 舟型（北向き・高さは中）
年 号 安永八年（一七七九）〔到開童子の没年〕

〔正面〕

本誓浄然信士元文元巳四月五日

（梵字「カ」） （子がすぎる地藏菩薩像）

安永八亥天
到開童子
八月廿四日
白石 六兵衛
孝譽長順信士安永九子二月三日
團譽恵林信女天明四辰十一月十六日

※29番は白石六兵衛が建立した供養塔で、子供にすぎられている地藏菩薩が描かれている。地藏にすぎた子供は安永八年（一七七九）八月二十四日に亡くなった到開童子を指し、その両親は孝譽長順信士と團譽恵林信女であらう。

30・六地藏石幢（『越谷市金石資料集』に掲載なし）
所在地 平方・林西寺墓地内南側
石塔型式 六面石幢（単制）（南向き・高さは中）
年 号 正徳五年（一七一五）〔的翁智端信士の没年〕

〔裏面〕

的翁智端
（右手で柄香炉を持つ地藏菩薩像）
正徳五未十一月三日
信士

〔左側面〕

俗名高橋
（左手宝珠、右手施無畏印の地藏菩薩像）
平蔵

〔正面〕

（左手与願印、右手錫杖を持つ地藏菩薩像）

〔右側面〕

春霞童子
（両手で幢幡を持つ地藏菩薩像）
元禄十二卯二月廿八日

〔裏面〕

寛円道本
（左手宝珠、右手錫杖を持つ地藏菩薩像）
宝永五子三月十日
善男

〔裏面〕

白窓夏雲
（両手で数珠を持つ地藏菩薩像）
善女

〔正面〕

31・吞龍上人墓標の無縫塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）
所在地 平方・林西寺墓地内西側
石塔型式 無縫塔（東向き・高さは超高）
年 号 元和九年（一六二三）

〔裏面〕

中興 吞龍上人
開山 水鉢
元和九 吞龍上人
癸亥歳 無縫塔前
八月九日

※31番は吞龍上人の墓石である。太田市の金山にある大光院は「子育て

吞龍」で有名であるが、吞龍上人は平方村の隣にある一ノ割村（現在、春日部市）で井上將監信貞の次男として生まれ、十四才の時に林西寺に入り、その後の天正十二年（一五八四）に第九代目の住職となっている。名を曇龍と称した。徳川家康は天正十九年に優れた学識がある吞龍のいる林西寺には高二十五石の寺領の他に高二十五石の学問料が与えられた。ある干ばつの年に吞龍は龍神の森で雨乞いの念仏祈願を行い、大雨を降らせて人々からますます尊敬されるようになったとのエピソードが残っている。吞龍上人が大光院を開山し、悪龍を呑み込む夢を見て名を吞龍と改めたのは後のこと。吞龍上人は大光院にて元和九年（一六二三）に亡くなっているが、その時に大光院に造立された墓石はここ林西寺に造立された墓石と形や大きさが同じで、分骨埋葬されたと言われる。現在の大光院の卵塔は、かなりの古さを感じ、太めであるが、林西寺のそれは、すらすらとして新しさを感じる。越谷市にとっては吞龍上人ゆかりの寺の貴重な文化財といえる。

（〇〇）△云野川筋跡路傍

今はなき会野川の左岸（平方村側、現在の天草病院の北西角地）に次に紹介する石仏がかつて祀られていた。

32・「馬頭観音」文字塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 平方・春日部との市境路傍南側
石塔型式 頭部山状角型（北向き・高さは低）
年 号 嘉永二年（一八四九）

〔正面〕

嘉永二西

馬頭観音

十二月十〇

〔右側面〕

森〇（森田。）

小川

33・地藏菩薩像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 平方・春日部との市境路傍南側
石塔型式 舟型（北向き・高さは中）
年 号 不明

〔正面〕

設我得仏国有地獄餓鬼畜生者不取正覺

（梵字「カ」）（地藏菩薩立像）

（梵字「ナムアミダブツ」）

34・馬頭観音菩薩像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 平方・春日部との市境路傍南側
石塔型式 駒形（北向き・高さは中）
年 号 寛政三年（一七九一）

〔正面〕

寛政三 亥年

（馬頭観音像）与 染 離 三

十月廿四日

35・馬頭観音菩薩像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 平方・春日部との市境路傍南側
石塔型式 舟型（北向き・高さは中）
年 号 不明

〔正面〕

（馬頭観音菩薩像）

36・馬頭観音菩薩像（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 平方・春日部との市境路傍南側
石塔型式 駒形（北向き・高さは中）
年 号 文化五年（一八〇八）

〔左側面〕

文化五辰四月

〔正面〕

平方村馬持中

須賀伊左門

森泉清左門

中村三郎兵衛

大野喜兵衛

小川源兵衛

金子六右衛門

白石四郎左門

馬頭

観立目

須賀文蔵

（馬頭観音像）

37・名号付き石橋供養塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）
所在地 平方・春日部との市境路傍南側
石塔型式 上部隅丸角型（北向き・高さは高）
年 号 宝暦六年（一七五六）

〔左側面〕

林西寺十九主到誉代

〔正面〕

宝暦六丙子十二月日 平方村願主法誓一心
南無阿弥陀仏 石橋供養塔
施入面々二世安樂 同音誓覺山

〔右側面〕

備後 大枝 大場 大泊 大杉 銚子口
市割 大畑 中村 舟渡 川崎 赤沼
粕壁 新町 薄谷 大松 藤塚 大川戸

※37番は、平方村から会野川対岸の備後村に渡るための石橋が完成したのを記念に建立された石橋供養塔である。

※西楽寺跡（現、平方東農村集落センター）

西楽寺の墓地入口には今でも享保二年（一七一七）造立の六地蔵が南北一列東向きになって見られる。それぞれの台石には「平方東」「備後村」「粕壁町」「老ノ割村」「大枝村」「大畑村」「船戸村」「赤沼村」「丁子口村」「藤塚村」「牛嶋村」「新川村」「長沼村」「吸角村」「米嶋村」と寄贈した村名が刻まれていて、現在の越谷市（大泊、船渡）から春日部市（備後、粕壁、一の割、大枝、大畑、赤沼、銚子口、藤塚、牛嶋、新川）・庄和町（永沼、水角、米島）に至る周辺の村々との親密さを窺うことができる。

（9）東組共同墓地路傍

38・不動三尊像（『越谷市金石資料集』不動一七番）

所在地 平方・東組共同墓地そば路傍南側（元、染谷家近くにあった）
石塔型式 祠型（東向き・高さは中）
年 号 文久四年（一八六四）

〔左側面〕

文久四子年正月吉日

〔正面〕

（不動明王像・二童子）

〔右側面〕

平方村東組
講中

※図38は不動明王三尊像である。中央には炎の中に岩座にすわる不動明王が剣と羅索を持ち、下には不動明王の脇侍である持蓮童子（向かって右）・制多迦（向かって左）の二童子がある。持蓮童子は優しい顔付きをして立って、開敷蓮華（蓮の花が開いた花）と未敷蓮華（まだ開いていないつぼみの花）とがついた長い蓮華の柄を左手は上げ、右手は下げて両方の手で持つ姿である。また制多迦童子は怖い顔付きをして、半跏座で、左手は胸のあたりの衣をつかみ、右手は下げて宝棒を持っている姿をしている。これらの像容は成田山新勝寺のものと同じである。

（10）浅間神社

この浅間神社は平方村の総鎮守となっている。各地の浅間神社では富士山を見立てて築いた小さな山「富士塚」に六月一日（山開きの日、新暦では一カ月遅れの七月一日）に富士参りをする浅間（富士）信仰の名残が各地で見られる。この浅間神社でも七月一日の前日六月三十日に初誕生の赤子が初山参りをする習俗が今でも残っている。

現在の浅間神社は、もとは香取神社と呼ばれ、平方村の鎮守であった。

39・石段供養塔（『越谷市金石資料集』普請供養二八番）

所在地 平方・浅間神社
石塔型式 駒型（南向き・高さは中）
年 号 天保十四年（一八四三）

〔左側面〕

備後村 大枝村 舟戸村 川崎村
大畑村 大松村 大杉村 大吉村
向畑村 向畑村 商人中

〔正面〕

石坂供養塔

世 (丸岩の印) 同行中
 森田勘右工門
 大野喜三郎
 小川岩治郎
 大野林蔵
 白鳥六良左工門
 森□(貞)治郎
 岩井市兵工

〔右側面〕

天保十四年二月吉日

平方村中

※石坂・・・石段のこと。

40・石鳥居供養塔 (『越谷市金石資料集』普請供養一九番)

所在地 平方・浅間神社

石塔型式 円柱型 (南向き・高さは高)

年 号 文化十四年 (一八一七)

〔正面〕

石鳥居供養

願 中村 寄 助
 大野 喜兵工
 森田 勘右工門
 中村 浅右工門

主 大松村 宇 源 治
 向畑村 要右工門
 右氏子村々
 上間久里村
 五良左工門
 喜左工門
 商人中

〔裏面〕

大泊村 善兵衛 松渡邑 六兵工
 大杉邑 金左工門 川崎邑 仲兵衛
 大枝村 備後邑中 六右工門
 大畑村 □(幸)七
 同行中 八セ 大道村 蔵文 蔵 伝 七
 文化十四丑 歳十二月 吉祥日 平方村
 武州崎玉郡
 白鳥六良左工門 伝兵工 甚左工門 佐兵工
 森□兵工 清左工門 茂八兵工 利左工門
 大野林蔵 久三兵工 八良右工門 半右工門
 小川市兵工

41・「小御嶽石尊大権現」文字塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 平方・浅間神社

石塔型式 自然石 (南向き・高さは高)

年 号 天保十四年 (一八四三)

〔正面〕

小御嶽 大天狗

大権現

石尊

小天狗

願 中村 斧八
 大野 茂八
 斎藤 忠兵工
 小川 市良兵工
 荒井 基助
 金子 善次郎
 森田 金左工門
 大塚 半三郎
 小早川 基五右工門
 岩井 半六
 小川 七兵工
 鳥海 新五右工門
 同 新左工門
 同 七左工門

主 厚見 万蔵
 関根 武兵工
 金子 六左工門
 大野 喜兵工
 染谷 与三右工門
 同 惣左工門
 中村 人兵工
 同 伝兵工
 九ノ里 佐兵工
 中村 安右工門
 小川 嘉左工門
 荒井 孫右工門
 山口 五良兵工
 森 銀蔵

〔裏面〕

平方村

天保十四癸卯二月吉日

霞はれ

四方の願ひも

あばし暁月に

岩へと

登るうれしき

※四方（よも）

※暁月（あかつき）

※あばし（富士行者の身禄が入定した

烏帽子岩をさす。これ以降、富士

講が急増し、特に江戸及びその周

辺では爆発的に増え、浅間信仰が

盛んになった。）

※『小御岳石尊大権現』（大天狗・小天狗）とは、富士山の五合目付近に

ある小御岳神社をさし、祭神は、コノハナサクヤヒメの姉であるイワナ

ガヒメである。コノハナサクヤヒメは、富士山頂に安置されている浅間

（仙元）大神をさす。この石塔は、この富士塚（浅間神社）の五号目に

あたる所にあつたのであろう。

（11）鹿島神社

本宮は常陸国（茨城県）鹿島地方の鹿島神宮である。鹿島地方は古代より畿内からみると東国のさい果てとみなされていた。その先は海となる。鹿島信仰には弥勒の舟がこの地に漂着したとされることからの弥勒踊りや等身大の人形を浜辺や川辺で流す鹿島送りの習俗が見られる。この鹿島神社にもこのような習俗がかつてはあつたのであろう。

42・普門品供養塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 平方・鹿島神社

石塔型式 頭部山状角型（南東向き・高さは中）

年 号 安永八年（一七七九）

〔左側面〕

安永八己亥稔

〔正面〕

（梵字「サ」）

普門品供養塔

〔右側面〕

十一月吉祥日

43・文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔二九六番）

所在地 平方・鹿島神社

石塔型式 頭部山状角型（南西向き・高さは高）

年 号 安政二年（一八五五）

〔左側面〕

安政二卯十一月穀日

〔正面〕

（日月）庚申塔

白龍山主檀梁拝書

〔右側面〕

武州埼玉郡平方村
東組講中

44・文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔二七五番）

所在地 平方・鹿島神社

石塔型式 頭部山状角型（南西向き・高さは高）

年 号 天保九年（一八三八）

〔左側面〕

平方村東組

〔正面〕

（日月）庚申塔（三猿像）

〔右側面〕

天保九戊戌年

八月吉祥日

45・文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔一九〇番）

所在地 平方・鹿島神社

石塔型式 頭部山状角型（南西向き・高さは高）

年 号 寛政十年（一七九八）

〔左側面〕

寛政十一年十一月吉日

〔正面〕

青面金剛

(三猿像)

〔右側面〕

東組講中

46・「水神宮」文字塔(「越谷市金石資料集」に掲載なし)

所在地 平方・鹿島神社

石塔型式 祠型(南東向き・高さは低)

年号 嘉永四年(一八五二)

〔左側面〕

嘉永四亥十一月

〔正面〕

水神宮

〔右側面〕

平方村講中

(12) 小川家(平方五二二)近く掘割路傍

47・石橋供養塔(「越谷市金石資料集」普請供養一二番)

所在地 平方・小川家(平方五二二)近く会田鉄工所前の掘割そば

石塔型式 上部隅丸角型(北東向き・高さは低)

年号 天明八年(一七八八)

〔正面〕

天明八年 舟戸村

石橋供養塔石願主

十一月吉日 浄心

※47番は石橋供養塔である。昔はこの地に橋が架かっていたのである。

つまりこの近くの古利根川から用水として水を取り、その用水路は平方五二番地小川家と六二九番地の中村家との間を通過して平方北通り(この名称は越谷市制施行三十周年を記念して名付けられたもの)を横断していた。小川家が利用している平方北通りに出る直線の道は用水路跡地である。

(13) 砂間の香取神社

本宮は下総国(千葉県)の佐原にある香取神宮。古代より鹿島神宮とともに皇室に厚く崇拝されていた。香取神社は中臣一族の氏神を祭った神社ではないかとも推定され、このあたりでは元荒川(古代の武蔵と下総の国境)の左岸、下総側に分布している。

48・文字庚申塔(「越谷市金石資料集」庚申塔二八〇番)

所在地 平方・東組砂間の香取神社

石塔型式 頭部山状角型(南東向き・高さは中)

年号 天保十三年(一八四三)

〔左側面〕

天保十三年寅十一月

セハ人
大野林蔵
小川岩次郎
金子善次郎
中村儀右エ門
大野茂八
齊藤忠兵衛
関根紋左エ門
金子庄兵衛
山口又八
小川市郎兵衛
同 弥五兵衛
同 久左エ門
九ノ里六郎兵衛

〔正面〕

(日月)

庚申塔

(三猿像)

〔右側面〕

平方村東組

森田六郎右工門
荒井基助
白石伝兵衛
山口仁兵衛
同 四郎右工門
中村伝左工門
金子庄吉
十根川市右工門
同 八右工門
塚田源右工門
同 幸助
同 善次
山崎与左工門
厚見八〇〇〇
(八左衛門)

49. 青面金剛像庚申塔 (『越谷市金石資料集』庚申塔一五四番)

所在地 平方・東組砂間の香取神社

石塔型式 駒型(北西向き・高さは中)

年 号 安永六年(一七七七)

〔正面〕

(日月) (青面金剛像) (三猿像)

〔右側面〕

安永六丁酉 八月吉日

(14) 戸崎墓地

50. 不動三尊像 (『越谷市金石資料集』不動一八番)

所在地 平方・戸崎墓地そば路傍

石塔型式 頭部山状角型(南東向き・高さは中)

年 号 元治元年(一八六四)

〔左側面〕

元治元 甲子 年五月吉日

〔正面〕

(不動明王) (二童子)

講中

〔右側面〕

平方村山公組

※この不動三尊像の像容は成田山新勝寺のものと同じである。しかし二童子の間には『成田山』の文字が刻まれておらず空欄のままとなっている。刻み忘れたのであろうか。

51. 六地藏塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 平方・戸崎墓地

石塔型式 笠付き角柱型(北西向き・高さは高)

年 号 文化二年(一八〇五)

〔左側面〕

(香炉を両手で持つ地藏菩薩)

(天蓋を持つ地藏菩薩)

〔正面〕

(宝珠と錫杖を持つ地藏菩薩)

二二甲介萬雪壺

戸崎組中

〔右側面〕

(数珠を持つ地藏菩薩)

(幡幢「一種の旗」を持つ地藏菩薩)

(合掌する地藏菩薩)

〔裏面〕

文化二乙丑年

五月吉日

52. 十三仏像容塔 (『越谷市金石資料集』十三仏四番)

所在地 平方・戸崎墓地

石塔型式 駒型(北西向き・高さは高)

年 号 文化九年(一八一二)

〔左側面〕

文化九申年

諸願成就供養塔

二月吉祥日

文化十癸酉 正月十日

方 誓円了信士

栄 誓清林法尼

文化十一戌十一月廿九日

〔正面〕

(宝塔が描かれて)

(大日如来) (薬師如来) (不動明王)
(虚空藏菩薩像) (阿閼如来) (観音菩薩) (地藏菩薩) (釈迦如来)
(阿弥陀如来) (勢至菩薩) (普賢菩薩) (文殊菩薩)

〔右側面〕

智良童女
蓉顔童子
涼夢童子
妙法清信女 文化七年三月七日

※52番は十三仏塔である。最上段には宝冠を戴き、左手に三井宝珠を乗せ、右手には剣を持つている虚空藏菩薩、二段目は向かって右側から、智拳印を結ぶ大日如来、左手で衣の一端を握り、右手は降魔印の阿閼如来、阿弥陀定印を結ぶ阿弥陀如来、三段目は、右手は施無畏印、左手は薬壺を乗せた与願印の薬師如来、左手は蓮華を持ち、右手は蓮華の上に当てようとしている観音菩薩、合掌している勢至菩薩、四段目は、禪定印を結ぶ弥勒菩薩(本来なら宝塔を持つが、この像は持たない。描き忘れたのか。)、宝珠と錫杖を持つ地藏菩薩、左手は蓮華を持ち、右手は小指と薬指を折りその他の指を伸ばして手の平を前側にして指先を外側に向けている普賢菩薩、最下段は、羅索と剣を持つ不動明王、如来の特色である肉髻がはっきりしていないが、施無畏・与願印を結ぶ釈迦如来、左手はお経を戴せた蓮華を、右手は剣を持つ文殊菩薩の計十三の仏さまが描かれている。

53 丸彫り法然像付き名号塔 (『越谷市金石資料集』名号一七番)

所在地 平方・戸崎墓地

石塔型式 角型(北西向き・高さは高)

年 号 寛政四年(一七九二)

〔左側面〕

寛政四壬子年

〔正面〕

(円光大師 光 円)
法然像) 大 南無阿弥陀仏 百万遍 供養塔 戸崎
師 三億 組中

〔右側面〕

十一月吉日

※53番は浄土宗を開いた円光大師法然の像が見られる。法然は「専修念仏」(専ら念仏を修めなさい)を奨励し、百万遍唱えることを目標とさせている。この名号塔には「百万遍」との文字が刻まれている。

(15) 戸崎稻荷神社

54 文字庚申塔 (『越谷市金石資料集』庚申塔二一九番)
所在地 平方・戸崎稻荷神社

石塔型式 頭部山状角型(南西向き・高さは中)
年 号 文化四年(一八〇七)

〔左側面〕

文化四丁卯年
正月 吉祥日

〔正面〕

(日月) 青 面 金 剛 (三猿像)

〔右側面〕

新方領平方村 戸崎

※ここに明治十四年の大山参詣記念碑がある。

(16) 小早川家(平方一〇七二)

55 「荒神宮」文字塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)
所在地 平方・小早川家(平方一〇七二) 敷地内北側

石塔型式 祠型(南東向き・高さは低)
年 号 延享三年(一七四六)

〔左側面〕

延享 寅 三歳

〔正面〕

荒 神 宮

〔右側面〕

(吉祥)
二月 日

※荒神（こうじん）とは、荒々しく崇りの多い神とされている。ここでは三宅荒神（さんぼうこうじん）、つまり「竈（かまど）の神」をさすと思われる。

69. なお、南隣の小早川家（平方一〇七五）の前の路傍には祠があり、その中に高さ約二十八センチの駒型の文字庚申塔の石塔が安置されている。

正面は「庚申塔」、向かって右側面は「明治三年九月吉日」、左側面は「願主 喜右エ門」と刻まれている。 図版（追加平方69）参照。

◎また、県道野田岩槻線のコンビニのミニストップ南東そばに再建された高さ六三・五センチメートルの石塔がある。次の通りである。

（道標付き大國神文字塔）（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 平方・小早川家（平方一〇八五）南西六十五メートル先路傍
石塔型式 角型（南東向き・高さは中）

年 号 昭和六十二年（一九八七）再建

〔左側面〕

成田山へ十七里

〔正面〕

大國神

不動尊へ二里

〔右側面〕

大六天へ一里二十丁

〔裏面〕

小淵観音へ二里

明治廿七年申年九月十五日

小早川 定吉

昭和六十二年一月吉日

再建 小早川桂三郎

（17）川久保旧道の小早川家（平方九六三）路傍

56. 「馬頭観音」文字塔（『越谷市金石資料集』馬頭二八番）

所在地 平方・川久保の旧道小早川家（平方九六三）路傍

石塔型式 駒型（南西向き・高さは低）

年 号 嘉永四年（一八五二）

〔左側面〕

嘉永四亥十月吉

〔正面〕

馬頭観世音

〔右側面〕

五助

57. 「馬頭観音」文字塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 平方・川久保旧道小早川家（平方九六三）路傍

石塔型式 角型（南西向き・高さは中）

年 号 文政十二年（一八二九）

〔正面〕

文政十二年 平方村
（梵字「カン」）馬頭観立音

三月吉祥日 馬持子中

〔右側面〕

話 久右エ門
世 半右エ門
人

（18）川久保の旧道の大塚家（平方二〇〇）路傍

58. 地藏菩薩像の墓塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 平方・川久保旧道大塚家（平方二〇〇）路傍

石塔型式 舟型（北西向き・高さは中）

年 号 享保八年（一七二三）

〔正面〕

為先祖代々喚譽清倫信女菩提也

（地蔵菩薩像）

于時 享保八癸卯八月吉日 宇田川 七良右衛門建之

※58番は平方一〇〇番地の大家家にある墓石である。この墓石には次のような言い伝えが残っている。

戸崎の宇田川家本家（平方一〇五七）より大塚家に嫁いだ娘（この墓石

の銘文によると、喚蒼清倫が亡くなると、宇田川家（銘文によると、宇田川七郎右衛門）は娘のためにこの大塚家の地に墓を建てた。そして供養しにここまでよく出向いたが、それが大変なためこの墓石を自分の屋敷内に移した。すると宇田川家では不幸が続出した。そこで元の場所である大塚家に戻したと言う。大塚家は勿論のこと、今でも宇田川家の人によって八月二十四日の地藏盆の時などに大切に供養がなされている。なお墓石は宇田川家に向けて建てられている。

（19）赤沼の渡し場跡地

59・「水神宮」文字塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 平方・川久保の渡し場跡地（平方一〇九〇小早川家東隣）

石塔型式 駒型（南向き・高さは低）

年 号 天保六年（一八三五）

〔左側面〕

天保六 末 十一月日

〔正面〕

水神宮

〔右側面〕 講 中

※図59は水神宮の石塔である。このあたりは古利根川対岸の赤沼に渡るための「赤沼の渡し場」があった所で、ここに渡し守を務める小早川家（現在はこの近くの平方九六三一一に移転）が住んでいた。今でも小早川家の人が供養をしている。船の安全を願って建立したものであろう。

（20）大塚家（平方二二〇一）邸内

60・道標付き百箇所巡礼塔（『越谷市金石資料集』道標五番）

所在地 平方・大塚家（平方二二〇一）敷地内

後藤家（平方二二〇二）との境界線そば

石塔型式 頭部山状角型（西向き・高さは中）

年 号 寛政六年（一七九四）

〔左側面〕

あかぬま

武州埼玉郡

大塚清兵衛

右 道

小早川七良左エ門

〔正面〕

しやうない

新方領平方村

〔正面〕

天下泰平

向こしかや

〔梵字サ〕

奉納西国百番大願成就

板東

〔右側面〕

国土安全

江戸道

寛政六甲寅年

かすかべ

正月吉日

左

じをん寺

※秩父三十四箇所、西国三十三箇所、坂東三十三箇所の合計百箇所の観音巡りをした記念に建立したものである。道しるべも兼ねている。赤沼、庄内、越ヶ谷、江戸、粕壁、慈恩寺の地名が見られる。

（21）山谷の香取神社

61・「井才天十五童子」文字塔（『越谷市金石資料集』井財天二番）

所在地 平方・山谷香取神社

石塔型式 駒型（南向き・高さは中）

年 号 寛保二年（一七四二）

〔左側面〕 「金石資料集」では「享保」と誤植されている

〔正面〕

寛保二 戌 天 十月 吉日

井才天宮十五童子

62・「本宮大権現」文字塔（『越谷市金石資料集』その他二番）

所在地 平方・山谷香取神社

石塔型式 駒型（南向き・高さは低）

年 号 享和三年（一八〇三）

〔左側面〕

享和三癸亥年

〔正面〕

(本)

□宮大権現

〔右側面〕

十二月吉日

※62番の石祠には「本宮」との文字が見られる。本宮とは神社の本社という意味ではあるが、ここでは熊野本宮をさしているのであらうか。つまり「本宮大権現」とは熊野三社の一つ熊野本宮(熊野坐神社)に祭られている「家都御子神」を指すのであろう。

63・「天満宮」文字塔(「越谷市金石資料集」天神二三番)

所在地 平方・山谷香取神社

石塔型式 角型(南向き・高さは低)

年号 不詳

〔正面〕

天満宮

64・文字庚申塔(「越谷市金石資料集」に掲載なし)

所在地 平方・山谷香取神社

石塔型式 頭部山状角型(南向き・高さは中)

年号 寛政八年(一七九六)

〔左側面〕

寛政八辰十一月吉日

〔正面〕

(日月) 青面金剛 (三猿像)

〔右側面〕

埼玉郡新方領平方邑山谷組中

(22) 覚山坊墓地

65・如意輪観音像庚申塔(「金石資料集」に掲載なし)

所在地 平方・覚山坊墓地(山谷共同墓地)

石塔型式 舟型(北向き・高さは中)

年号 万治三年(一六六〇)

〔正面〕

万治三子 庚申之供養十二人

(如意輪観音菩薩像)

武州葛飾郡新方村

十月吉日 平方村

※65番は銘文を見ると「庚申の供養」と刻まれているので庚申塔である。

江戸時代の寛文年間(一六六一―一七二)になると青面金剛と呼ばれる仏さまが初めて主尊として描かれるようになる。それまでは阿弥陀如来であったり地藏菩薩であったり、主尊が一定していなかった。主尊を如意輪観音菩薩としたこの庚申塔は江戸時代初期の貴重な庚申塔である。

※「武州埼玉郡新方領平方村」とするところを「武州葛飾郡新方領平方村」としている。下総国葛飾郡から武蔵国に移行しても、昔の変わる前の中の地名の名残が残ったものである。新方(庄)も古い呼び方である。

66・千手観音像付き念仏塔(「金石資料集」に掲載なし)

所在地 平方・覚山坊墓地(山谷共同墓地)

石塔型式 舟型(北向き・高さは中)

年号 寛文十二年(一六七二)

〔正面〕

寛文十二年 壬子八月吉日

奉造立念仏講供養

(多臂の菩薩像・千手観音菩薩)

武州埼玉郡平方村

諸旦那白
道行八人

※このすぐそばに、「明治十三年庚辰年十二月吉祥日」と刻まれた成田山の不動明王三尊像を安置した祠がある。

旧大泊村の石仏

(1) 大泊観音堂

千手観音菩薩を本尊として祀る大泊観音堂は左甚五郎が一夜で建立したとの言い伝えがあり、馬喰たちなどの参詣で大いに賑わった。堂内に縁日の賑わいを描いた額絵馬が掲げられている。
また、この観音堂の東隣りにある集会所は福寿山慈眼寺(浄土宗寺院)の跡地である。

1. 六観音石幢(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 大泊・観音堂境内

石塔型式 六面石幢(単制)(東向き・高さは高)

年 号 宝暦五年(一七五五)

〔裏面〕

(千手観音菩薩像)

〔左側面〕(向かって右側面)

(正観音菩薩像)

〔正面〕

〔台石〕

為村中一切精霊

為先祖一家精霊

為超譽音信士

為思明童女

(如意輪観音菩薩像)

宝暦五 亥年

九月十二日

施主大泊村

高崎三左衛門

〔右側面〕(向かって左側面)

(十一面観音菩薩像)

〔裏面〕

(馬頭観音菩薩像)

〔裏面〕

(合掌する観音菩薩像)

※施主の高崎三左衛門は江戸時代の大泊村の名主で、代々「三左衛門」を名乗り、その子孫は明治時代に桜井村の村長を勤めた。

2. 千手観音菩薩像(『越谷市金石資料集』庚申塔八五番)

所在地 大泊・観音堂境内

石塔型式 舟型(東向き・高さは中)

年 号 享保十年(一七二五)

〔正面〕

□圓大徳

(十一面千手観音菩薩像)

享保十巳天八月廿日

※頭上に十面の顔があるので、十一面観音菩薩であるが、腕が二本ではなく多臂であるので、十一面千手観音とわかる。正しくは、「十一面千手千眼(せんじゅせんげん)観音」といい、通称は千手観音という。
なお、この石仏は『金石資料集』では庚申塔とされているが、庚申供養に関する文字が見当たらないので庚申塔ではない。

3. 文字庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔一八四番)

所在地 大泊・観音堂境内

石塔型式 角柱型(東向き・高さは中)

年 号 寛政九年(一七九七)

〔左側面〕

寛政九丁巳二月吉日

※『資料集』では三月と誤って記載。

〔正面〕

青工面△立剛 (三猿像)

講中

◎馬頭観音菩薩文字塔(『越谷市金石資料集』馬頭五〇番)

所在地 大泊・観音堂境内

石塔型式 駒型(東向き)

年 号 昭和二十五年十二月吉日(一九五〇)

〔正面〕 馬頭観世立目 ※右側面に「施主 森田軍治・源太郎」

4. 青面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔一五九番)

所在地 大泊・観音堂境内

石塔型式 駒型(東向き・高さは中)

年 号 天明元年(一七八一)

〔左側面〕

大泊村下 講中 願主 □(榎)田勘右衛門

〔正面〕

(日月・青面金剛・鬼・三猿)

〔右側面〕

天明元 辛 丑年十二月朔日

5. 青面金剛像庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔五〇番）所在地 大泊・観音堂境内
石塔型式 駒型（東向き・高さは高）
年 号 正徳元年（一七一二）
〔正面〕
〔台石〕

正徳元年
(日月・青面金剛・鬼・三猿)
卯十月吉日

※『資料集』では九月と誤って記載。

6. 普門品供養塔〔越谷市金石資料集〕普門品三〇番
所在地 大泊・観音堂境内
石塔型式 自然石（東向き・高さは高）
年 号 嘉永七年（一八五四）
〔正面〕
〔台石〕

普門口品供養塔

〔台石〕

高崎 大泊村 □(恵)五郎
森田 □源七
高崎 □(基)三郎
森田 庄三郎
□根(関根)平兵衛
□□□七
□□□孫四郎
□□□萩原(萩原)三郎
森田 □(瀬緒)伝三郎
森田 □(基五)兵衛
□□(瀬緒)新五右衛門
森田 九郎兵衛
高崎 与兵衛
森田 市兵衛

高崎	瀬尾	森田	萩原	瀬尾	高崎	同	瀬尾	金子	同	名倉	那倉	長本	高崎	那倉
藤次郎	平左衛門	市右衛門	平三郎	幸七郎	喜四郎	長右衛門	彦右衛門	長次郎	善兵衛	政三郎	善三郎	善三郎	彦四郎	彦四郎

〔台石〕

「裏面」

嘉永七寅正月十七日 造立

别当

慈眼寺

講中安全

※江戸の「千住の名倉」 高崎力氏によると、先祖は大泊村出身であるという。大泊村には名倉（那倉）家が多いが、「骨つぎ」として「千住の名倉」で有名な名接骨医の名倉家は、もとは享保年間（一七一六〜）初期頃に大泊村から千住に移り住んだ名倉家十一代弥次兵衛の子孫であるという。

7. 念仏及び庚申供養の地藏菩薩像『金石資料集』に掲載なし

石塔型式 舟型（東向き・高さは高）
年号 寛文九年（一六六九）

〔正面〕

念仏并庚之供養

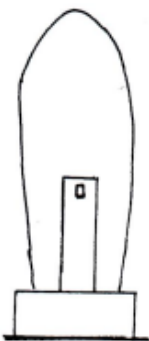
〔台石〕

〔梵字「カ」〕（地蔵菩薩像、股のあたりに縦長の長方形の小穴）念仏講村仲

寛文九_{己酉}年十月廿四日

急仏講村仲

※石仏の裏側に下図のような縦長の
長方形の大きな穴の部屋がある。
縦は約62センチ、横は約18
センチ、奥行きは深さ22センチ
である。何のためなのか不明。



※「庚之供養」との文字が見られるので、庚申信仰をもかねた石仏である。

◎階段及敷石奉納記念塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大泊・観音堂境内
石塔型式 頭部丸型（南向き・高さは中）
年 号 昭和五年四月

[正面]

階段及敷石九枚

毒

納

癸起人

南埼玉郡桜井村大字大泊 高崎 弥助
昭和五年庚午四月建之

粕壁町 石盛刻

8・精霊供養塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）
所在地 大泊・観音堂境内
石塔型式 自然石（西向き・高さは高）
年号 文化四年（一八〇七）
〔正面〕

雅ハ正なりと侍れハ日課の暇
風流の一句を世に残すてふ

またもとの

地蔵菩薩
一名 和光

精

くにへ生れむ

和光

たねふくへ

雪

※碑文中で「暇」は「いとま」と読む。また「たねふくへ」（種瓢）とは種子をとるために残しておく瓢箪の実のこと。「またもとの」の句は慈眼寺十二世瑞誉の辞世の句であろう。

〔裏面〕

慈眼寺十二世

縁運社瑞譽辨隆 生年 建立墓
文化四卯三月中旬

9・地藏菩薩像の墓塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大泊・観音堂境内

石塔型式 舟型〔推定〕（西向き・高さは高）

年号 不詳

〔正面〕

（地藏菩薩座像） 明譽見了草

10・六地藏石幢（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大泊・観音堂境内

石塔型式 六面石幢〔单制〕（西向き・高さは高）

年号 寛保元年（一七四一）

〔裏面〕

（合掌する地藏菩薩像）

〔左側面〕

（柄香炉を持つ地藏菩薩像）

〔正面〕

（数珠を持つ地藏菩薩像）

〔右側面〕

（宝珠と錫杖を持つ地藏菩薩像）

〔裏面〕

（幢幡を持つ地藏菩薩像）

〔真裏面〕

（天蓋を持つ地藏菩薩像）

11・六地藏石幢（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大泊・観音堂そば墓地（観音堂西隣り）

石塔型式 六面石幢〔单制〕（南向き・高さは高）

年号 享保八年（一七二三）

〔裏面〕

（数珠を持つ地藏菩薩像）

〔左側面〕

（宝珠と蓮華を持つ地藏菩薩像）

〔正面〕

（天蓋を持つ地藏菩薩像）

〔右側面〕

（幢幡を持つ地藏菩薩像）

〔裏面〕

（渠壺を両手で持つ地藏菩薩像）

〔真裏面〕

（合掌する地藏菩薩像）

〔台石〕

為先祖一家
精霊菩提

寛保元 辛酉 檢

念譽教順信士

九月廿五日

武州崎玉郡大泊村

施主

高崎三左右衛門

〔台石〕

慈眼寺

品管代

願主方譽

専西

奉読

誦三

部妙

典一

千部

念仏講中
墨譽桑林

宝譽榮樹

享保八癸卯年

奉造立

八月吉日

※この石仏は国道四号バイパス建設に伴い、現バイパスの大泊交差点内の南東部分にあった金子家（大泊一一七）個人墓地より移転したものである。次の12番も同じである。

12・六地藏石幢（『越谷市金石資料集』に掲載なし）所在地 大泊・観音堂そば墓地（観音堂西隣り）石塔型式 六面石幢「単制」（南向き・高さは超高）年 号 寛延四年（一七五二）

〔裏側面〕

（柄香炉を持つ地藏菩薩像）

〔左側面〕

（数珠を持つ地藏菩薩像）

〔正面〕

「台 石」

寛延四 辛 未 年十月七日

先祖代之精霊

一切精霊者□（興）縁本

奉唱念仏十八億供養

清浄淨応比丘

大泊邑

施主高崎三左衛門

〔右側面〕

（幢幡を持つ地藏菩薩像）

〔裏側面〕

（天蓋を持つ地藏菩薩像）

〔裏裏面〕

（合掌する地藏菩薩像）

（2）大泊薬師堂墓地

この薬師堂はもと長福寺と呼ばれた寺院の跡地である。ここに閻魔大王が安置されていた。現在は安国寺境内に新設した閻魔堂に移されている。

13・浮彫三尊像付き墓塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大泊・薬師堂墓地

石塔型式 駒型（東向き・高さは高）

年 号 享保十八年（一七三三）

〔正面〕

（合掌する菩薩像）

（如来像）

（宝珠を持つ菩薩像）

元禄三 庚 午 載

七月廿八日

相嘗詠實信女

咭嘗輝山信士

蘇嘗妙照信女

享保十八 癸 丑 載

十月廿一日

※上部の三尊像で、中央の如来は残念ながら印相がはっきりしておらず、施無畏・与願印の釈迦如来像とも思われるが不明である。墓塔に番号がみられるので浄土宗の墓地である。それゆえ阿弥陀如来迎印の阿弥陀如来像だとすると脇侍は合掌する勢至菩薩像、蓮台を持つ観音像となる。また戒名の中の文字で「蘇」は「こう」と読む。

◎那倉霊神石碑（第六天と那倉霊神を祀る那倉霊堂「大泊第六天」）

薬師堂そばの那倉家（大泊六〇番）には今もお堂が建っている。大六天を祀る那倉霊堂である。その前庭には大正十一年建立の「那倉霊神」と刻まれた大きな石碑がある。他には、水ごりに使用された井戸や手水舎、天水桶の礎石が今も残っている。霊神とは霊験あらたかな神という意味で、那倉貞助（ていすけ）を神として敬ったのであろう。

那倉貞助は、川通村大戸（現、岩槻市内）に鎮座する第六天社の影響を受けて祈禱師となる。この石碑を建立したのは弟子の黒羽（くろは）

幸次郎で「那倉霊神」とは師の那倉貞助をさす。また裏面の文中の良蔵

は幸次郎の伴である。幸次郎は千住に移り住んで第六天の信仰を広めた。

那倉霊神の元には加持祈禱を受けに来る人々で大変賑わい、「元武講」という講中もでき大いに広まった。裏面には次の文が刻まれている。

我師故先達那倉貞助氏今去明治二十五年妻瘵疾罹醫療祈禱重更効果無病床呻吟事二年余益危篤陷困苦沈居處不思議川通村大字大戸鎮座第六天神社如何難病祈願靈顯者大告者有直祈響荒川瀨入瀧水懈怠無百度百拜動感應効驗垂賜三週日快癒向感銘銘先達為諸人病難救濟聞偶々我伴良蔵明治二十七年中發狂神力及處盡雖病勢益々昇騰快癒覺來無一家失望落膽居處其吉報依雀躍直行先達祈禱乞共寒水身淋丑刻或無言行其他難行苦行靈驗顯神經鎮靜以醫藥進旭天達如一週日出恢復之神力醫藥奏効覺神恩報為先達門入病難災厄者救濟念起東都千住移住第六天神社信仰居加持祈禱者續々來病魔災厄除去者無數回顧三十有餘年其神德浴者進依講社組織之元武講稱講員日々増加廣大成之偏神力先達教導賜物肝銘銘紀念碑表建設

大正十一年一月

中 宣 教 黒羽幸次郎

カスカベ

白石代次郎彫刻

こせんたつなぐらていすけ
我師故先達那倉員助氏 今ヲ去ルコト明治二十五年 妻痼疾ニ罹リ

醫療祈禱 重テ更ムモ効果無シ 病床ニ呻吟スル事二年余 益

危篤ニ陥リ困苦沈居スル處 不思議ニモ川 通村大字大戸二鎮座ス 第六天

神社ハ如何ナル難病ノ祈願ニモ靈顯ヲ著シ 大ニ告ル者有リ 直ニ祈誓シ

荒川ノ瀬ニ入り濯水シ懈怠無ク百度百拜ニ勤メ感應ノ効驗ヲ垂レ賜フコ

ト三週日 快癒ニ向ヒ感銘ス 先達為 諸人ノ病難ヲ救済スルト聞コユ 偶々

我俸良藏 明治二十七年中ニ發狂シ 神力ガ及フ處ヲ盡スト 雖モ病勢ハ

益々昇騰シ 快癒ハ覺束無シ 一家ハ失望シ 落膽ニ居ル處 其吉報ニ

依リ 雀躍 直行シテ先達ノ祈禱ヲ乞ヒ 共ニ寒水シテ身ヲ滌フ 丑刻

ニ或テ無言ノ行 其他難行苦行シテ靈驗ヲ顯シ 神經ヲ鎮靜シ 以テ

醫藥ヲ進メ 旭天ニ達ス如ク 一週日ヲ出テ恢復ス 之神力ト醫藥ノ

奏効スルヲ覺ユ 神恩ニ報ユル為 先達ノ門ニ入り 病難災厄者ノ救済ヲ念起シ

東都千住ヘ移リ住ミ 第六天神社ノ信仰ニ居ル 加持祈禱ノ者 續々來タリテ

病魔災厄ヲ除去セシ者ハ無数ト回顧ス 三十有余年 其神德ヲ浴スル者進ミ依リ 講社

ヲ組織之 元武講ト稱ス 講員ハ日々増加シ 廣大ニ成之 偏ニ神力ハ先達ノ

教導ノ賜物ト肝ニ銘シ 紀年ノ碑ヲ 表シ建設ス

大正十一年一月

神道修成派 第六天先達 中宣教 黒羽幸次郎

カスカベ 白石代次郎彫刻

(読み下し文 大谷達人氏 協力 加藤幸二)

(93) 大泊香取神社

大泊村上組の鎮守。ここに十一面觀音像が安置。この香取神社を持ち分とした安國寺のかつての仏像であったのであろう。下組の鎮守は、春日部バイパスの大泊交差点のそば、大泊二七九の長本家の北隣路傍にあった。

14. 不動三尊像(『越谷市金石資料集』不動一九番?)

所在地 大泊・香取神社境内
石塔型式 火炎光背付き浮き彫り石塔(北々東向き・高さは中)

年号 慶応二年(一八六六)正月?

[台石]

(火炎光背を伴った不動明王像)(二童子像)

成田山

中講村

※『資料集』の不動一九番に該当するとしてたら、建立年は慶応二年となる。

◎『水神宮』文字塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 大泊・香取神社境内
石塔型式 自然石(北々東向き)

年号 大正八年二月廿八日(一九一九)

水神宮

15. 天神塔(『越谷市金石資料集』天神一〇番)

所在地 大泊・香取神社境内
石塔型式 祠型(北々東向き・高さは中)

年号 文化十年(一八一三)

左側面

文化癸酉年

[正面] 三月二十五日

[右側面] 表面が破損していて不明

慈眼寺十二世 瑞誉代

□(寮)主 心了

◎『御嶽神社』文字塔(『越谷市金石資料集』御嶽四番)

所在地 大泊・香取神社境内
石塔型式 自然石(北々東向き)

年号 『明治十三年第一月再建』(一九八〇)と裏側に記載されている。

御嶽神社

◎『稻荷大神』文字塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 大泊・香取神社境内
石塔型式 自然石(南々西向き)

年号 明治十九年十月(一八八六)

稻荷大神

16・四十九院塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大泊・香取神社境内

石塔型式 家型塔（石殿、石室、石厨子・高さは中）

平入りの正面に縦長の四角形の窓が開いており、上部に小さな窓が四つ、下部に大きな窓が一つある。台石には階段らしき図が描かれている。

年号 不詳

※「石仏入門」（日下部朝一郎著）によると四十九院塔と思われる墓塔である。四十九院塔についての説明を引用すると次の通りである。

「弥勒菩薩の住む所の兜率天（とそつてん）にある内院で、中央は弥勒菩薩の宝殿、その四方に各十二院あるという。この殿を墓石としたのは人の死後兜率天に生まれることを願ったもので、普通石殿の周囲には四十九本の塔婆が刻んである。この形式は室町以降現れ室部の四囲に塔婆を彫り出し階段までついているという丁寧なもの。」

17・「諸願成就」文字塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大泊・香取神社境内

石塔型式 祠型（西南西向き・高さは低）

年号 宝永五年（一七〇八）

〔左側面〕 宝永五 戊子 天九月

〔正面〕

奉納諸願成就□（祈願）

〔右側面〕

施主

大泊村 高崎三左衛門

◎「雷電」文字塔（『越谷市金石資料集』雷電三番）

所在地 大泊・香取神社境内

石塔型式 祠型（南々西向き）

年号 明治四十年十二月（一九〇七）

〔正面〕

雷田雷電□（神）※左側面に年号、右側面に「大泊村」。

（4）大泊安国寺

大龍山東光院安国寺は、もとは、鎌倉初期の武士であり、法然に帰依した熊谷蓮生坊直実の営む草庵であったという。それを康安元年（一一三六）に、紀伊国熊野路の大泊村の安国寺の住職専故がやって来て、村を開き、寺を開き、郷里や郷里の寺院の名からとり、「大泊村」「安国寺」と名付けたという。また、安国寺はもとは上間久里の堂前（字名）にあったと伝わっている。間久里方面に安国寺の檀家が多くみられるのはそのためか。

この先（南西）の新方川（千間堀）に架かる「念仏橋」は、安国寺住職が、この橋を渡るたびに念仏を唱えたとの言い伝えがある。

◎宏善上人再建の宝篋印塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大泊・安国寺境内

石塔型式 宝篋印塔

年号 明治四年三月（一八七一）再建

18・雨乞いの名号塔（『越谷市金石資料集』名号二七番）

所在地 大泊・安国寺墓地

石塔型式 角型（北向き・高さは高）

年号 慶応三年（一八六七）

〔左側面〕

慶応三年丁卯六月再立

〔正面〕

〔台石〕

南無阿弥陀仏

雨

※「雨請」は「あまごい」と読む。

〔右側面〕

かれ／＼の（一）

かへるなり（一）

いねもあをさに

神のめくミの

宏善

〔裏面〕

願主 大枝村 上間久里村 下間久里村 大泊村

19・安政コレラの名号塔（『越谷市金石資料集』名号二五番）

所在地 大泊・安国寺墓地

石塔型式 自然石（北向き・高さは超高）

年号 安政六年（一八五九）

〔正面〕

南無阿彌陀仏

大龍山

行善（花押）

〔台石〕

萬人

講

※行善とは宏善上人の法名（戒名）

「萬人講」は地元では「まんになんこう」と読む。

〔裏面〕

去年の七月はかり いとあやしき疾出来 初て世中なへてやミのしり

医むかへん ひまたにあらで ののしる…勢いが盛んである

あはれにも はかなくうせにし人よ いくそはくか かそへも尽ぬ

それか為にとて 八月廿七日より いくそばく（幾十許）…幾何

十月望の日までころある限 此精舎につとひ 種々の手向して

昼夜わかす 弥陀仏の御名唱へて 懇二 わかず…分かず

とふらひつる 此ひとくハ 露もやミたるハあらさきき せらるハ

おのか志しの為にとて 物せしにハ

あらねど 其功德の目にむくひきめる故にやあらんと いともたふとく

覚えて 此度碑をつくり

尚もとてなん かゝれハ いよく 此世は万の禍事をのかれ

さきくならへて 後の世は彼人々とともに さきく…幸いに

一つ蓮の台にのり 常に月の御面をあふかん事 疑ふへくもあらずなん

其所由しる さまく

言葉の拙きを かへりみず やかて筆をとる

人の身はあさきねさしの 光なれやししのおくにも かれぬはかりそ

みつせ川 わたりわつらふ 人しあらハ ねひをしとりて するへをハせん

安政六年十月

行善宏善

石工春日部宮仙蔵

※安政五年に長崎に上陸したコレラが東進して江戸に達したという安政五年のコレラ大流行のこの近辺の様子である。江戸近在の当時の様子を知る貴重な碑文といえる。この石碑は『安政コレラ』に際して結成された万人講の記念碑。安国寺にて昼夜参籠して念仏を唱え続け悪病の侵入が阻止できたので、その仏の功德に報いようと碑を建てたものである。

〔台石左側面〕

岩付城内

大場 原住太郎 布富氏

〔台石裏側面〕

武州埼玉郡新方領

一ノ割

磯五郎

仙右衛門

越ヶ谷宿

岩吉

講中

八〇（内カ）

ます

セハ人

大川戸

講中

セハ人

伊助

政次郎

本所本

喜代

深作村

庄之助

船渡村

藤右衛門

三ノ宮村

裕助

前谷村

三蔵

大枝村

仁右衛門

下内川村

とよ

上間久里村

とせ

当村

那倉氏

千代

院内

□代

□（某カ）

世話人

大泊村

石川喜八

森田弥五右衛門

同 助右衛門

同 安右衛門

同 渡辺栄蔵

高崎清右衛門

長本万次郎

森田庄三郎

同 平次郎

瀬尾仁右衛門

同 新八

発願主

那倉彦四郎

高崎三左衛門

長本伴蔵

那倉政右衛門

関根安之丞

名倉善兵衛

当村 惣志中

己未年

安政六

正月廿五日

〔正面〕

〔青面金剛像〕（二鶏）（鬼）（三猿）

〔右側面〕

十二月吉祥日講中男女四拾七人

23・文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔一八三番）

所在地 大泊・安国寺墓地

石塔形式 角柱型（東向き・高さは中）

年 号 寛政九年（一七九七）

〔左側面〕

寛政九丁巳二月吉日

〔正面〕

〔日月〕 青面金剛（三猿）

24・『新六阿弥陀五番』標識石塔（『越谷市金石資料集』掲載なし）所

所在地 大泊・安国寺墓地

石塔形式 角型（東向き・高さは中）

年 号 天明八年（一七八八）

〔左側面〕

天明八戊申五月廿五日

〔正面〕

新六阿弥陀五番

※平方二〇番の解説を見よ。

〔右側面〕

武州埼玉郡新方領船渡邑

願主

受道欽□

25・三界万霊塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 大泊・安国寺墓地

石塔形式 角型（東向き・高さは中） ※頭部上面に盃状穴が見られる。

年 号 弘化四年（一八四七）

〔左側面〕

弘化四□□□

〔正面〕

願以此功德平等施一切

三界万霊等

同発菩提心往生安楽国

※三界万霊等の「等」は「塔」の俗字

〔右側面〕

当寺 行着上人代

26・念仏供養塔（『越谷市金石資料集』掲載なし）

所在地 大泊・安国寺墓地

石塔形式 笠付き角型（北向き・高さは中）

年 号 不明

〔左側面〕

寂室貞円大師 了淨自柏信女 照願清鏡比丘尼

長受正意居士 大安道慶居士 紅月妙秋大師

樹院林譽光榮比丘尼 光譽心桂信士 照山高哲童子

忠屋桃林童子 曉月露幻童子

〔正面〕

（梵字「サ」）

（梵字「キリク」）奉称念仏廿一億四百万遍

（梵字「サク」）

養 溪月院方養樂水蓮西居士

〔右側面〕

桐院道圭居士 談月妙光大師 本室正玄居士

松岳利貞大師 清譽淨西居士 言譽妙忠禪尼

融智院願曼正鐵居士 夢覺常隱信士

誠円院唯證妙智大師 清庵妙意信女

〔参考〕中興・宏善上人の地藏尊像付き墓塔（『金石資料集』掲載なし）

所在地 大泊・安国寺墓地

石塔形式 丸彫り像（北向き・高さは中）

年 号 不明

〔地藏尊像の裏側の背中〕

明治廿五年

中興乗蓮社行着上人称阿入楽 善

一月十四日写

〔地藏尊像の右肩後ろ〕

北豊島郡岩淵町

正光寺廿六世

願主 大谷栄純

安国寺エ 日課講中

同郡同町

發起 佐野政右衛門

〔地藏尊の台座の反花（かえりばな）〕

周囲に十一組の反花がみられ、それぞれに多くて十名程度の名額がびつ

しりと刻まれ、合わせると、その数は百名を超す。

※以上の他に、土台となる台石にも、東京や千葉にも及ぶ出身地の地名が

添えられた名前がびつしりと刻まれている（次の頁参照）。

宏善上人の巨大な墓の造立に協力した人々の総数はおよそ七百六十名に

及ぶ。広範囲の多くの人々に慕われた宏善上人の遺徳が偲ばれる。

大泊の観音堂のいわれ

ある日の夕暮れ、左甚五郎^{ひだりじんごろう}が現在の観音様^{かんのん}の間にある石に腰をおろしていた。暗くなつて甚五郎は周りに茂る杉の木を見る見るうちに数十本切り倒した。すると、不思議なことに切り倒された杉の木が、人間のよう動き出し、夜の明けきらぬうちに立派な観音堂が出来上がった。翌日これを知らぬ人々が続々堂の前に集まり、この不思議な堂の出現に驚き、かついぶかしがった。人々は建物は朱塗りが付きもの、(朱が塗られていないから)何処かへ朱を入れた「かめ」が置かれていると話し出し方々探し歩いた所、もみじの木の下に次のような歌が詠まれていた。

「朝日さす 夕日輝く 花の下」

これを見た人々は、朱を入れた「かめ」でなく、金でも埋めてあるのではないかと話しあい、衆議一決その木の下を掘り起こしたところ、金ではなく、やはり朱を入れたかめが出て来たということである。そして、今でもこの観音堂を建てたのは左甚五郎であると信じている。

《「越谷市の史蹟と傳説」(昭和三十五年、越谷市教育委員会・文化財調査委員会発行)の二十九頁より抜粋、但し()内は筆者が付け加えた》

旧上間久里村の石仏

(1) 上間久里下堂(しもんどう)

ここはもと稲荷山正覚院(真言宗寺院)の跡地である。江戸時代の上間久里村の名主である上原家(上間久里八四)の墓塔が多く見られる。

1. 百八十八箇所巡礼塔(「越谷市金石資料集」に掲載なし)

所在地 上間久里・下堂(しもんどう)墓地

お堂の南側前列向かって左端より二番目

石塔型式 笠付き型(北向き・高さは高)

年 号 宝暦九年(一七五九)

〔正面〕

宝暦九卯年

奉供養 西国四国巡礼

秩父坂東

二月十五日

願主即養到運比丘

※西国、秩父、坂東の観音霊場百か所と四国の弘法大師霊場八十八か所のすべての巡礼地合わせて百八十八か所を徒歩で巡った記念の石塔である。

(2) 上間久里閻魔堂

この近くの上間久里自治会館は地藏堂があった所である。かつては、地藏の縁日の前日の八月二十三日には、地藏供養のための念仏信仰が盛大に行われていた。

地藏堂の北西側の道路沿いに並べられていた石仏類が道路の拡張にともない近くのゲートボール場の南西端に移され、さらにこの閻魔堂の塀の外側に移転された。

このあたりは、字名が「堂前(どうまえ)」と呼ばれる。地元では、大泊の安国寺はもと堂前にあったとの伝えがある。間久里には、現在も安国寺の檀家が多く見られるのはそのためであろうか。

2. 文字庚申塔(「越谷市金石資料集」庚申塔一七九番)

所在地 上間久里・閻魔堂の外南東側道路沿い

もと近くの地藏堂(現、上間久里自治会館)にあった

石塔型式 頭部山状角型(南東向き・高さは高)

年 号 寛政七年(一七九五)

〔左側面〕(向かって右側面)

寛政七卯年

〔台石〕

〔正面〕

(日月) 青面金剛 (三猿)

講

〔右側面〕 (向かって右側面)

正月吉日

中

3. 青面金剛像庚申塔 (『越谷市金石資料集』庚申塔九一番)
所在地 上間久里・閻魔堂の外の南東側道路沿い

もと近くの地蔵堂 (現、上間久里自治会館) にあった

石塔型式 笠付き型 (南東向き・高さは高)

年 号 享保十六年 (一七三二)

〔左側面〕

奉造立庚申待供養講中為現世

安穩渡生善果也

享保十六 辛 亥 天五月吉祥日

武州新方領上間久里村

本領

池澤

小倉 三左衛門

上原

安左衛門

吉岡

〇左衛門

関根

上原 佐次右衛門

上原

善兵衛

吉岡

平蔵

池澤

清兵衛

〔正面〕

(青面金剛像) (二鶏) (鬼) (三猿)

〔右側面〕

天下泰平 国土安穩

願以此功德 普及施一切

我等与衆生 皆共成仏道

12. 文字庚申塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 上間久里・閻魔堂の外の南東側道路沿い

もと近くの地蔵堂 (現、上間久里自治会館) にあった

石塔型式 駒型 (南東向き)

年 号 明治十二年 (一八七九)

〔正面〕

庚申塔

明治十二年

4. 青面金剛像庚申塔 (『越谷市金石資料集』庚申塔一三二番)

所在地 上間久里・閻魔堂の外の南東側道路沿い

もと近くの地蔵堂 (現、上間久里自治会館) にあった

石塔型式 駒型 (南東向き・高さは中)

年 号 明治二年 (一七六五)

〔左側面〕

上間久里村

〔正面〕

(日月) (青面金剛像) (鬼) (三猿)

〔右側面〕

明和乙酉 三月吉日

◎不動三尊線刻像 (『越谷市金石資料集』不動二二番)

所在地 上間久里・閻魔堂の外の南東側道路沿い

もと閻魔堂北東の今はなき道路沿いにあった

石塔型式 自然石 (南東向き・高さは高)

年 号 明治十八年 (一八八五) 一月

發起

吉岡重太郎

上原治郎右衛門

伊川院法印栄信印

(不動明王三尊像)

村内為安善安置之

鶴龜山鐫

世話人

上原源太郎
上原金治郎
小倉三吉
上原勝治郎

世話人

關根團藏
田川新三郎
上原佐兵衛
田川松五郎

神風社

※この図案と同じものが、野田市の西光院隣の愛宕神社にある。二十三年
前の文久二年(一八六二)に西光院の住職によって造立。また野田市五木
の香取社にも明治二十年のものがある。今後の説明が望まれる。

5. 阿弥陀像付き念仏塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）
所在地 上間久里・閻魔堂の外の南東側道路沿い

もと近くの地藏堂（現、上間久里自治会館）にあった

石塔型式 舟型（南東向き・高さは高）
年 号 寛文四年（一六六四）

〔正面〕

□念仏講中菩提也

（阿 弥 陀 如 来 像）

寛文四年 甲辰年十月十五日

※この像は螺髪らまつをしていて、さらに左右の手とも人差し指が伸びていない
ために阿弥陀来迎印を結んでいる如来像と推定できる。

向かって右上の『□念仏講中』の文字で□は『四』とも読める。すると
『四念仏』つまり『夜念仏』を指すのであろうか。

また、この像の両脇には阿弥陀四十八誓願にちなんだ四十八名の人名が
刻まれているが、摩耗が激しく解読は困難である。

6. 名号塔（『越谷市金石資料集』名号塔二六番）

所在地 上間久里・閻魔堂の外の南東側道路沿い

もと近くの地藏堂（現、上間久里自治会館）にあった

石塔型式 頭部山状角型（南東向き・高さは中）
年 号 文久二年（一八六二）

〔左側面〕

供養養塔 文久二年
六月吉日

〔正面〕

南無阿弥陀仏

7. 信州出身僧侶供養塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 上間久里・閻魔堂の外の東側道路沿い

もと近くの地藏堂（現、上間久里自治会館）にあった

石塔型式 角型（南東向き・高さは中）
年 号 明和五年（一七六八）

〔正面〕

信州高井郡安源寺村住人
梵字「ア」白良慶法師 位

明和五子天四月十三日

（3）上間久里香取神社

上間久里村の鎮守である。

8. 「稻荷大明神」文字塔（『越谷市金石資料集』掲載なし）

所在地 上間久里・香取神社境内

石塔型式 祠型（笠無し、南向き・高さは中）
年 号 延享元年（一七四四）

〔左側面〕

延享元年 甲子天六月吉日

〔正面〕 稻荷大明神

9. 「稻荷大明神」文字塔（『越谷市金石資料集』掲載なし）

所在地 上間久里・香取神社境内

石塔型式 祠型（笠無し、南向き・高さは中）
年 号 延享元年（一七四四）

〔正面〕

稻荷大明神

〔右側面〕

延享元年 甲子天六月吉日

10. 「□神宮」文字塔（『越谷市金石資料集』掲載なし）

所在地 上間久里・香取神社境内

石塔型式 祠型（南向き・高さは中）
年 号 文化十三年（一八一六）

〔左側面〕

□□□三 丙子十二月吉日

〔正面〕

□神宮

〔右側面〕

□子中 願主

子供

11. 「良公神」文字塔（『越谷市金石資料集』掲載なし）

所在地 上間久里・香取神社境内

石塔型式 祠型（東向き・高さは中）
年 号 天明六年（一七八六）

〔左側面〕

天明六年三月吉日

〔正面〕

良八ム神

〔右側面〕

善右衛門

小倉

仙右衛門

◎「天照皇大神」文字塔（「越谷市金石資料集」神明三番）

所在地 上間久里・香取神社境内

石塔型式 自然石（東向き）

年 号 明治三十七年十月（一九〇四）

〔正面〕

天照皇大神

※本殿などの新築と境内地の整備が平成十四年十二月に完成。

ここに記載されている石仏石塔の向きは、調査した時の向きである。

現在では、すべての石仏石塔が一か所に集められ、横一列に並べかえら

れて、すべて東南東の向きとなる。

※上間久里の香取社の南側の道は、恩間の勢至堂脇の道から続き、日光

街道に合流する古道（岩機道）で、袋山の周りに流れた古川のかつての

土手道であつたと思われる。

上間久里の地藏堂（現・上間久里自治会館）

江戸時代、上間久里の関根氏が上野東叡山寛永寺にお仕えし、その後、
帰郷の前夜、夢枕に日頃崇拝していた地藏尊が立ち、一緒に連れて帰る
ようにと告げられた。そこで建立されたのが、その地藏尊を安置する地
蔵堂であるという。かつては「東叡山観成院常純寄附之、明和八卯三月」
（とうえいざんかんじょういん・つねずみこれをきふす、めいわはち・
う・さんがつ）と書かれた飾り幕があつたという。

明和八年は、西暦一七七一年。

旧下間久里村の石仏

（1）下間久里香取神社

村の鎮守の香取神社は例年七月十五日に行われる「下間久里の獅子舞」として有名で、この獅子舞は県の無形文化財に指定されている。獅子頭の角に「雨下無双角兵衛」と刻まれている。「雨下無双」とは、「雨」は「天」つまり「天下無双」という意味を表しているであろう。この下間久里の獅子舞は、古風の名残をよく残しているといわれ、江戸時代に県東部周辺の春日部市銚子口、春日部市赤沼、庄和町中野、野田市清水などに伝わり広がったと考えられている。

1. 抱瘡神供養塔（「越谷市金石資料集」に掲載なし）

所在地 下間久里・香取神社境内、木製の祠の中に奉納されている

石塔型式 祠型（東向き・高さは低）

年 号 不詳

〔正面〕

抱瘡神

（2）下間久里の寮（阿弥陀堂）

下間久里公民館の百メートル南先の道路西側に墓地がみられる。地元では「寮」と呼び、堂には阿弥陀如来座像が安置されている。新編武蔵風土記稿に記載されている「庵、阿弥陀を安ず、開演寺の持ち」のことであろう。今では「阿弥陀堂」と名付けられている。

2. 阿弥陀・如意輪浮彫り像付き墓塔（「金石資料集」に掲載なし）

所在地 下間久里・開演寺跡地墓地

石塔型式 駒型（北向き・高さは中）

年 号 元禄元年（一六八八）

〔正面〕

寛文十三年

（阿弥陀如来像）

為宗念信士菩提也

正月七日

元禄元年

（如意輪観音菩薩像）

為智泡信女仏果也

辰十月日

3. 筆子建立墓塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 下間久里・開演寺跡地墓地

石塔型式 笠付き型（南向き・高さは高）

年 号 安政二年（一八五四）

〔左側面〕（向かって右側面）

筆 子 五十五人

〔正面〕

実 譽 源 淨 信 士

還 譽 到 安 信 女

〔右側面〕（向かって左側面）

安 天 天 保 九 戌 年 六 月 五 日 俗 名 源 次 郎 六十六才

三 代 目 子

還 還 安 政 二 乙 卯 年 十 二 月 十 三 日 船 渡 村 孫 平 娘 俗 名 かつ 八十才

※ 筆子（寺子屋の生徒）だった教え子ら五十五人が師匠夫婦のために墓塔を建立したものである。金子家（下間久里一三八六）の先祖は江戸時代にこの開演寺で師匠となつて寺子屋を営んだのであろう。

（3） 下間久里不動堂（開演寺跡地）

この不動堂は代々金子家（下間久里一三八六）が管理している。不動堂と金子家とは何らかの密接なかわりがあったのであろう。不動堂に安置されている本尊は開演寺の本尊と思われる。『金石資料集』の「普請供養九番」によると、開演寺の建立を示す安永七年（一七七八）六月十日建立の「奉建立開演寺一字」と刻まれた柱状型の普請供養塔がこの不動堂境内にあるというが、残念ながら今は不明である。願主は下間久里村の開帳法師となっている。

4. 出羽三山供養塔（『越谷市金石資料集』出羽三山一番）

所在地 下間久里・不動堂境内

石塔型式 頭部山状角型（東向き・高さは高）

年 号 安永元年（一七七二）

〔左側面〕 天下 泰 平 平 東 叡 山 御 持 羽 黒 山 別 当 代 戒 光 院 亮 豊 国 土 安 全 主

〔正面〕 梵 字 「アーンク」 湯 殿 山 供 養 塔

〔右側面〕 安 永 元 年 壬 辰 十 一 月 吉 日 武 州 埼玉 郡 新 方 領 下 間 久 里 村

〔台石正面〕 初めに縦書きで「講頭」と刻まれ、以下十四名の名前が刻まれているが、摩耗が激しく、解読は極めて困難である。

〔台石左側〕（向かって右側） 〔台石右側〕（向かって左側）

寄進 大里村 喜八 同 宗仙 同 藤田久右衛門 同 九里佐次右門 同 金子清 六

同 松崎 長右衛門 同 七左衛門 同 〔善〕助 同 弥七 同 武右衛門 同 安左衛門 同 七良兵衛 同 仁兵衛 同 源七 同 蔵七 同 平 要助 同 松崎 要助

同 正志房 同 元明房 同 福蔵房 同 治光房 同 〔善〕房 同 長学房 同 宣山房 同 〔清〕房 同 蔵房

5. 「十一面観音」文字塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 下間久里・不動堂境内

石塔型式 頭部山状角型（東向き・高さは高）

年 号 文政八年（一八二五）

〔左側面〕 天下 泰 平 国 土 安 全

〔右側面〕

〔正面〕

梵字「キヤ」十一一面観世世音

〔台石〕
中 村

〔左側面〕

文政八乙酉正月吉日
下間久里村

6. 文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔二五一番）

所在地 下間久里・不動堂境内

石塔型式 頭部山状角型（東向き・高さは高）

年 号 文政八年（一八二五）

〔左側面〕

下間久里

文政八乙酉正月吉日

〔正面〕

（日月）青玉面金剛（三猿）

〔台石〕
中 村

〔右側面〕

天下泰平国土安全

7. 「井財天」文字塔（『越谷市金石資料集』井財天三番）

所在地 下間久里・不動堂境内

石塔型式 祠型（東向き・高さは中）

年 号 延享四年（一七四七）

〔左側面〕

延享四丁卯四月吉祥日

〔正面〕

辨財天

〔右側面〕

武州新方領下間久里邑 講
中

8. 板碑型三猿庚申塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 下間久里・不動堂境内

石塔型式 板碑型（東向き・高さは高）

年 号 寛文五年（一六六五）

〔正面〕

奉造立石仏者為庚申待講衆中廿六人二世安楽

寛文五乙巳年十月吉日武州下間久里村 施主
敬白（三猿）

本願淨院
（雲）

9. 千庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔二四三番）

所在地 下間久里・不動堂境内

石塔型式 駒型（東向き・高さは中）

年 号 文政四年（一八二一）

〔正面〕

文政四巳年願主

（日月）奉納千庚申供養（三猿）

八月吉祥日是心

※数にものを言わせて庚申の功德を得ようと「千」を付けている。

10. 「勢至菩薩」文字塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 下間久里・不動堂境内

石塔型式 駒型（東向き・高さは中）

年 号 宝暦九年（一七五九）

〔正面〕

（月）宝暦九巳卯

梵字「サク」市南無勢至王入菩薩

（目）九月吉祥日 下間久里

※『越谷市金石資料集』の「不動六番」で紹介している石塔に該当か。

11. 観音像付き百堂巡礼塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）

所在地 下間久里・不動堂境内

石塔型式 舟型（東向き・高さは高）

年 号 寛文五年（一六六五）

〔正面〕

奉造立石仏者為百堂願札衆中七十一人逆修也本願七郎兵衛

（正）観音菩薩立像（）

寛文五乙巳十月吉日武州西新方下間久里村 施主
敬白

※神社仏閣の百のお堂巡りが完了したので記念して造立したものである。数にものを言わせて功德を得ようとする百堂巡りは、観音堂・薬師堂・地藏堂・大師堂・阿弥陀堂などさまざまなお堂を巡拝したものである。江戸時代初期の主に寛文年間前後に、埼玉県東部から千葉県、茨城県にかけて見られた。この辺りの例としては、大相模の東方の観音寺境内に明暦二年（一六五六）の板碑型の百堂巡礼塔と末田須賀堰そば末田側（越谷岩槻線沿い）に寛文三年（一六六三）の地藏菩薩像付き百堂巡礼塔、砂原八五〇―二の松沢家前の路傍に阿弥陀像付き百堂巡礼塔がある。※この石塔には「西新方」との文字が見られる。間久里地域は、新方領の西部にあるので江戸初期は「西新方」と呼ばれていたであろう。この「西新方」の文字は、大沢香取神社境内にある天和二年（一六八二）の手水鉢にも見られる。

(4) 平（たいら）家路傍（下間久里六〇番地）

12. 青面金剛像庚申塔（「越谷市金石資料集」に掲載なし）
所在地 下間久里六〇番地平家正門前の東西に走る道路南側沿い
石塔型式 正面は駒型（西向き・高さは中）
年号 享保六年（一七二一）

〔正面〕

奉建立庚講諸願成就為千 世亦樂也

（日月）（青面金剛像）（二鶏）（鬼）（三猿）

享保六 辛 丑十一月吉祥日 施主

〔台石〕

〔伊兵衛 平 茂兵衛 金子五郎右門 平 吉左 竹田清左門 同 兵衛 吉思庄右門 平 奥太

※平家（下間久里六〇番地）には、越谷市の文化財に指定された文久二年（一八六二）の「算額」が保管されている。この「算額」はもと旧日光道中沿いの平家（下間久里一四〇〇番地）の南にある「第六天宮」の祠の中に祭られていたものである。

(5) 荒井家（下間久里一〇）邸内

13. 道標付き大乗妙典供養塔（「越谷市金石資料集」に掲載なし）
所在地 荒井家（下間久里一〇）敷地内の角地
石塔型式 頭部山状角型（北東向き・高さは中）
年号 天明四年（一七八四）

〔左側面〕

是舟戸道 ※「舟」は、「より」と読む。

〔正面〕

（梵字 サ）

（梵字 キリク） 奉納大乗妙典供養塔

（梵字 サク）

天明四 辰 三月廿六日

〔右側面〕

武州埼玉郡下間久里村

行者荒井宗左衛門

※この道しるべは、江戸時代は、現在地より北方の荒井家本家（下間久里一三四〇）の道路反対側の下間久里会館近くにあったものと思われる。ここから間久里と船渡を結ぶ古道が日光街道から別れていたのである。ところが、大正年間から荒井家（下間久里一〇）南側の道路が船渡道に変わったので、現在の荒井家角地に移されたものと思われる。

※間久里と船渡を結ぶ舟戸（船渡）道

間久里の日光街道から間久里新田を通過して、船渡村の新田や本村に通じる主要な道の江戸時代の道しるべである。もとは、日光街道に沿った現在の下間久里会館近くの路傍にあったと推定できる。この辺りから、船渡に通じた古道があった。この古道は現在のマクドナルド下間久里店の東側隣の杉公園通りにつながり（ここまでの古道の道筋は不明）、せんげん堀に架かる間久里新田橋を渡り、船渡新田の集会所（船渡二八六の海老名家の西隣、かつての山王社）の北側（現在はその北側古道の名残は全く無い）を通過して行ったと思われる。

明治の終わり頃から大正にかけて行われた新方領の耕地整理事業の時に、大里の鎮守稲荷神社から北東、間久里新田橋の方向に向かう直線の新道（現在のマクドナルド下間久里店の手前までの間のバイパスの一部にあたる）ができ、現在のマクドナルド下間久里店の江戸時代の新道である船渡道につながった。この道しるべは、その頃に荒井家角地に移されたのであろう。荒井家南側の道は細い古道（農道）で、この古道を進むと、大正時代にできたこの新道にぶつかり、そこからは一直線に船渡に行けたのである。

なお道しるべに刻まれている荒井宗左衛門は荒井家本家の先祖であらう。また、道しるべがあったと思われるあたりは、荒井家本家の土地である。

旧大里村の石仏

(1) 大里稻荷神社

文政十三年(一八三〇) 造立の不明の石塔(祠型)があり、左側面に『文政十三寅年正月吉日』と刻まれているが、他は不明。『越谷市金石資料集』に全く掲載なし。ここは大里村の鎮守である。

(2) 大里自治会館

ここは春日山秀蔵院(真言宗寺院)の跡地である

1. 永代施餓鬼供養塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)
所在地 大里自治会館墓地

石塔型式 頭部山状角型(西向き・高さは中)
年 号 文政十年(一八二七)

〔正面〕

文政十丁亥年

梵字「アーンク」永代施餓鬼供養誌

十月吉祥日

世 会田半五郎
宇田利右衛門
話 深野清左衛門
願 土教圓
人 中村弥平治
中村重蔵

2. 文字庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔二〇六番)
所在地 大里自治会館墓地

石塔型式 頭部山状角型と推定(西向き・高さは中)
年 号 享和二年(一八〇二) ※孟状穴が見られる。

〔左側面〕

藤田 仁右衛門

同 八蔵

藤井

享和二年戊戌年

会田 平左衛門

根本 磯八

佐藤 孫兵衛

同 藤右衛門

同 善右衛門

〔正面〕

(日月) 青面金剛 (三猿)

〔右側面〕

新方領大里村

中村 伊右衛門

同 仲右衛門

同 藤五郎

同 半蔵

同 長野

同 新五兵衛

同 惣兵衛

同 彦右衛門

同 兵助

中村 左衛門

正月吉祥日

世話人

3. 文字庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔二六八番)

所在地 大里自治会館墓地
石塔型式 頭部山状角型と推定(西向き・高さは中)

年 号 天保五年(一八三四) ※2番と共に孟状穴が見られる。

〔左側面〕

天保五甲午九月吉日

〔正面〕

(日月) 青面金剛 (三猿)

〔右側面〕

大里村

講中

4. 青面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔五九番)

所在地 大里自治会館墓地
石塔型式 舟型(西向き・高さは高)

年 号 正徳四年(一七一四)

〔正面〕

奉造立供養青面金剛像二世安楽攸 (鶏)

(日月) (青面金剛像) (鬼) (三猿)

正徳甲午十一月吉祥日 敬白 (鶏)

※二鶏・三猿の下部に二十名分の名前が刻まれているが、摩耗が激しく、

解読不能である。

※女人をぶら下げている青面金剛像は一般には左手を降ろして女人の髪の毛をつかんでぶら下げるのであるが、この庚申塔の青面金剛像は左手を

上方に挙げて女人の髪の毛をつかんでその女人をぶら下げている姿を描

いた珍しい庚申塔である。

いた珍しい庚申塔である。

5. 普門品供養塔（『越谷市金石資料集』普門品一七番）

所在地 大里自治会館墓地

石塔型式 頭部山状角型（西向き・高さは中）

〔左側面〕 年号 文化十一年（二八一四）

天下泰平国土安全

〔正面〕

梵字「サ」 並目門口四二萬光世供養塔

〔右側面〕

文化十一 甲 戌年十二月吉日

※『資料集』では三月となっているが誤り。

〔台石左側面〕

〔台石正面〕

〔台石右側面〕

深野安右衛門 深野權左衛門 佐藤孫兵衛
小出弥五衛門 宇田助右衛門 根本 磯八
藤井金兵衛 深野兵左衛門 長野長左衛門
会田市左衛門 山田七右衛門 藤田 八藏
宇田利右衛門 会田武右衛門 中村仲右衛門
同 太兵衛 藤田三右衛門 同 兵助
下田五右衛門 藤井弥五兵衛 同 勝右衛門
同 四郎左衛門 藤田 平八 佐藤善右衛門
深野忠右衛門 中村吉左衛門 人深野源次郎
下田長右衛門

6. 文字庚申塔（『越谷市金石資料集』庚申塔一九六番）

所在地 大里自治会館墓地

石塔型式 駒型（西向き・高さは中）

年号 寛政十一年（一七九九）

〔左側面〕

寛政十一 己未十一月吉祥日

〔正面〕

梵字「ウーン」 圭月面△並剛剛

〔右側面〕

武州崎玉郡新方領大里村

7. 「大六天」文字塔（『越谷市金石資料集』第六天四番）

所在地 大里自治会館墓地

石塔型式 祠型（西向き・高さは中）

年号 不詳

〔正面〕

大六八天

※大六天（他化自在天）とは、正しくは「第六天」と書き、この天に生まれた者は他の作り出した楽しみを自由自在に自分の楽しみとすることができるといふ。仏法の妨げをするといわれる「第六天の魔王」の魔力で願い事をかなえてもらおうとする信仰に基づいている。

元禄十六年の水野長福著「結城使行」によると、日光街道の道路反対側に大六天がかつて置かれていたようである。ゆえに、この石塔はもととはこの地にあったのではない。道路の反対側にあったのである。

8. 名号塔（『越谷市金石資料集』名号三〇番）

所在地 大里自治会館墓地

石塔型式 自然石（南向き・高さは中）

年号 不詳

〔正面〕

梵字「ア」 南無阿弥陀仏

9. 出羽三山供養塔（『越谷市金石資料集』出羽三山一二番）

所在地 大里自治会館墓地

石塔型式 頭部山状角型（南向き・高さは中）

年号 天保十五年（一八四四）

〔左側面〕

天保十五年二月吉日

〔正面〕

梵字「アーンク」 湯湯殿山

〔台石正面〕

大里村

講中

〔台石左側面〕

〔台石右側面〕

小出 茂吉 中村弥平治
宇田利右衛門 佐藤弥左衛門
深野清右衛門 長野彦右衛門
飯山勘兵衛 同 兵助
深野三郎右衛門 同 勝右衛門
会田武右衛門 中村 重藏
藤田仁右衛門 佐藤善右衛門
中村仲右衛門 会田市左衛門
藤井 兵藏

(3) 文月藤家改路傍 (大里八二〇番地)

以前は、齊藤家(大里八二〇)の敷地南方の藤田家(大里八二三番地)よりの路傍にあつて「吉田家(大里八二二)の旧日光道中に面した入口北側」、石仏の向きは南西であつた。平成十六年現在は、現在の齊藤家の敷地の南端路傍にあり、向きは南東となつた。

10・勢至菩薩像(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 齊藤家(大里八二〇)南端路傍

石塔型式 舟型(南東向き・高さは中)

年 号 元禄十一年(一六九八)

〔正面〕

元禄十一寅年

(勢至菩薩像)

十一月廿九日

※かつては、地元の人々によって「お勢至様」と呼ばれ、特に目を患っている人が、目の病を治そうと願(がん)をかけてこの石仏の前で拝んだという信仰が見られた。

11・三猿庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔八番)

所在地 齊藤家(大里八二〇)南端路傍

石塔型式 板碑型(南東向き・高さは高)

年 号 寛文九年(一六六九)

〔正面〕

寛文九年 己酉 武州葛飾郡

奉造立石仏庚申衆中拾三人為二世安穩也 (三猿)

□月廿七日□□新方大里村

※□月は「三月」か

※江戸初期の貴重な庚申塔である。「庚講」は、「かのえこう」と読む。

庚申講の意味である。

12・釈迦如来像(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 齊藤家(大里八二〇)南端路傍

石塔型式 駒型(南東向き・高さは高)

年 号 天和二年(一六八二)

〔正面〕

天和二年 戊戌

十一月五日

(釈迦如来像)

13・青面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』庚申塔一七二番)

所在地 齊藤家(大里八二〇)南端路傍

石塔型式 駒型(南東向き・高さは中)

年 号 寛政二年(一七九〇)

〔左側面〕

武州埼玉郡新方領

大里村

同 中村半蔵

同 藤田弥五兵衛

同 岩右工門

同 会田清右工門

同 宇田□右工門

同 藤田□次右工門

同 平□左工門

同 鶴村□次右工門

同 高橋次良左工門

同 中村吉左工門

同 佐藤藤右工門

同 孫兵衛

同 長野左工門

同 根本□八

同 藤田八蔵

同 同仁右工門

同 長野左工門

同 寛政二庚戌十一月吉日

奉造立庚申供 養三世安樂処

(日月) (青面金剛像) (鬼) (三猿)

(日月) (青面金剛像) (鬼) (三猿)

(日月) (青面金剛像) (鬼) (三猿)

宝永七庚寅年九月

(鶏)

(鶏)

(鶏)

(鶏)

(鶏)

(鶏)

(鶏)

(鶏)

(鶏)

(鶏)

(鶏)

(鶏)

(鶏)

(鶏)

(鶏)

(4) 中村家改路傍

14・青面金剛像庚申塔(『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 大里・中村家(大里五三四)路傍

石塔型式 舟型(北西向き・高さは中)

年 号 宝永七年(一七一〇)

〔正面〕

奉造立庚申供 養三世安樂処

(日月) (青面金剛像) (鬼) (三猿)

(日月) (青面金剛像) (鬼) (三猿)

(日月) (青面金剛像) (鬼) (三猿)

(日月) (青面金剛像) (鬼) (三猿)

宝永七庚寅年九月

(鶏)

(鶏)

(鶏)

(鶏)

(鶏)

(鶏)

(鶏)

(鶏)

(鶏)

(鶏)

(鶏)

(鶏)

(鶏)

(鶏)

(鶏)

※奉納者名を見ると、大部分が中村の名前が刻まれている。中村家と縁が深い庚申塔であろう。中村家(大里五三四)がこの庚申塔を代々管理してきている。

(5) 藤田家邸内 (大里八五番地)

15. 『無双角兵衛守護神』文字塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)
所在地 藤田家 (大里八五番地) 邸内

石塔型式 祠型 (南々西向き・高さは中)
年 号 寛政二年 (一七九〇)

〔左側面〕

寛政二庚 戌十一月吉日

〔正面〕

天 下 無雙角兵衛□守護神

〔右側面〕

願主八蔵

※「天下」無双角兵衛とは、下間久里の雨下無双角兵衛獅子舞の「雨下無双角兵衛」を指す。『雨』とは『天 (あめ)』という意味である。

「雨下」の読み方は、「あめのした、あめがした」である。

あるいはこの石塔からわかることは、「天下 (あめのした)」とも書き、もとは、「天下」無双角兵衛と呼んでいたであろう。

※願主の八蔵は、藤田家の先祖である。大里の村人もこの獅子舞に加わっていた。江戸時代前期の獅子舞の世話人には、下間久里村以外の大里の村人の名もよくみられたことが次にあげる資料によってわかる。かつては大里の村人も加わって一緒に運営し、参加していたであろう。

※昭和四十三年七月十日出版の三原善太郎氏著「下間久里(雨下無双角兵衛)獅子舞考(第三集資料編)」によると、地元「香取大明神御帳」(保管は新井隆一郎家)があり、その表紙には「文禄甲午」との年号が書かれ、文禄三年の甲午年(一五九四)を指しているという。そしてその中身は、下間久里村にある香取社の祭礼にあたった宿元(やどもと)世話人、つまり年番を勤めた人々の名前が慶長元年より年ごとに代々記載されている。宿元は、下間久里村のみならず、南隣の大里村の住民の名もみられる。三原氏(故人)は、文禄三年を香取神の勧請(かんじよう)の年ととらえ、二年後の慶長元年の丙申(一五九六)に社殿が出来上がり、第一回の祭礼が実施したと推定している。そして獅子舞の初代太夫は新井太夫とし、慶長十七年(一六二二)頃と推定している。

(6) 桜井分団第一部消防小屋

16. 馬頭観音菩薩像 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 桜井文団第一部消防小屋 (大里七一八) そば
石塔型式 駒型 (東南東向き・高さは中)

年 号 寛政六年 (一七九四)

〔正面〕

大里村

願主 善兵衛

(馬頭観音像)

平八 想馬物

寛政六甲寅二月吉日

※ここは、江戸時代の大里村の馬捨て場である。

(7) 中村家邸内 (大里八七五番地)

17. 『車地藏』石仏 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 中村家 (大里八七五・達磨屋) 邸内

石塔型式 丸彫り (東向き・高さは高)

年 号 宝永七年 (一七一〇)

〔左側面〕

(円の穴)

宝永七庚寅祀

〔正面〕

(地藏菩薩像) (縦長の穴) 奉造立地藏菩薩像為自他法界平等利益

〔右側面〕

(円の穴)

十月吉祥日

※輪廻車付き地藏菩薩像である。大泊7番を参照のこと。

※この石仏は、昔からこの位置にあり、この石仏の前(東側、つまり日光街道側)には、村が管理する下組(しもぐみ)のお堂があった。お堂から日光街道に出る参道には敷石が敷かれていた。上組のお堂は、大里村の北の外れ、現在の稲荷神社である。上、下ともに村の外れにあった。

(追加・大里自治会館)

18. 大日如来梵字宝塔 (『越谷市金石資料集』に掲載なし)

所在地 大里自治会館の日光街道路傍

石塔型式 宝塔型 (西向き・高さは高)

年 号 不詳

〔左側面〕

武州埼玉郡新方領

(胎藏界大日如来梵字「ア」)

〔正面〕

奉納

諸願

法界平等

〔右側面〕 (金剛界大日如来梵字「バン」)

※もとは中村家 (大里八七五・達磨屋) そばのかつての下組のお堂の東側境内地にあったものである。最下段の台石に盃状穴の跡が多く見られる。